

平成 27 年度  
生活困窮者自立支援制度人材養成研修事業  
事業実績報告書

平成 28 年 2 月

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

## 目次

はじめに .....	1
第1章 研修の概要 .....	2
◆自立相談支援事業従事者養成研修 .....	2
1 研修の目的および種類 .....	2
2 プログラムの概要 日程表、会場 .....	2
3 受講対象者 .....	21
4 受講者定員 .....	21
5 テキスト .....	22
6 申込みから受講までの流れ .....	22
7 修了証書の交付 .....	22
◆就労準備支援従事者養成研修 .....	23
1 研修の目的および種類 .....	23
2 プログラムの概要 日程表、会場 .....	23
3 受講対象者 .....	27
4 研修の受講定員 .....	27
5 テキスト .....	27
6 申込みから受講までの流れ .....	28
7 修了証書の交付 .....	28
◆家計相談支援事業従事者養成研修 .....	29
1 研修の目的および種類 .....	29
2 プログラムの概要 日程表、会場 .....	29
3 受講対象者 .....	39
4 研修の受講定員 .....	39
5 テキストおよびノートパソコン .....	39
6 申込みから受講までの流れ .....	39
7 修了証書の交付 .....	40
◆全研修の受講者数と修了者数 .....	40
◆全研修の修了者の傾向 .....	43
第2章 研修内容の企画 .....	63
1 企画委員会の概要 .....	63
2 企画に係る会議の実施スケジュール .....	65
3 個別打合せの実施状況 .....	67

第3章 研修内容の詳細.....	70
1 【前期】共通プログラム 養成研修.....	70
2 【後期】主任相談支援員養成研修.....	76
3 【後期】相談支援員養成研修.....	81
4 【後期】就労支援員養成研修.....	85
5 就労準備支援担当者養成研修.....	89
6 家計相談支援員養成研修.....	95
第4章 受講者からの評価.....	101
1 【前期】共通プログラム 養成研修.....	101
2 【後期】主任相談支援員養成研修.....	104
3 【後期】相談支援員養成研修.....	107
4 【後期】就労支援員養成研修.....	109
5 就労準備支援事業従事者養成研修.....	111
6 家計相談支援事業従事者養成研修.....	113
第5章 研修の成果と課題.....	117
1 本研修の特色.....	117
2 本研修受講者の反応～参加者アンケート等から.....	119
3 成果と課題.....	122
第6章 運営業務.....	129
1 受け入れから実施報告までのスケジュール.....	129
2 実施体制.....	130
付録.....	131
1 開催要項	
2 修了証書（ひな形）	

## はじめに

平成 25 年 12 月に生活困窮者自立支援法が成立し、平成 27 年度より生活保護受給に至る前の生活困窮者への包括的な支援が全国で実施された。

支援の中核となる自立相談支援事業の実施にあたっては、生活困窮者の多様で複合的な課題に対応し適切な支援を実施することが求められることから、生活困窮者支援の理念を適切に理解し、高い支援技術を有する支援員（主任相談支援員、相談支援員、就労支援員）を、併せて今年度からは任意事業として就労準備支援事業と家計相談支援事業を実施するにあたって、それぞれの支援の理念の理解及び支援技術を有する支援員を全国的に確保するため、国が計画的な養成研修を行うこととなった。

今年度より、本格施行した国の研修「生活困窮者自立支援制度人材養成研修」開始に際して、全国社会福祉協議会が同研修事業を受託実施する運びとなり、平成 27 年 5 月に本企画委員会（平成 27 年度自立相談支援事業従事者養成研修事業企画委員会）が設置された。

本企画委員会では、前期共通研修、後期の各職種別、就労準備支援事業従事者養成研修家計相談支援事業従事者養成研修の研修実施方法及びプログラム等の検討・開発、さらには研修実施後の評価を行うため、これまで 10 回にわたり委員会で協議を行ってきた。協議に加え、研修ごとに数十回におよぶ委員、講師、事例提供者等との個別打合せを踏まえ研修事業を実施した。

本研修では、目標である「理念や制度の基本的な考え方を学ぶ」を目指して、多様でかつオリジナルの手法（器）を種々開発が行えたと考えている。このことは、一つのモデルとなる研修プログラムを開発して示したことにとどまらず、開発した手法以外にもさまざまな研修手法の可能性あることを提示できたことが成果といえよう。

本会では、関係者の参考に供するべく、研修の実施状況を記録として整理すると共に研修事業の企画と実施を通じた評価について取りまとめるため本報告書を作成した。

今後の支援員養成の参考となれば幸いである。

平成 28 年 2 月  
社会福祉法人 全国社会福祉協議会

## 第1章 研修の概要

### ◆自立相談支援事業従事者養成研修

#### 1 研修の目的および種類

生活困窮者の自立を促進するため、生活困窮者が抱える多様で複合的な課題の評価・分析、自立支援計画(以下「プラン」という。)の策定、プランに基づく各支援の提供をはじめ、地域の関係機関とのネットワーク構築、社会資源の活用・開発等を行うため、相談及び就労等の支援技術を習得することにより、自立相談支援事業に従事する者の資質の確保・向上を図ることを目的とした。

平成27年度より施行された生活困窮者自立支援制度の自立相談支援事業において配置される主任相談支援員、相談支援員、就労支援員それぞれを対象とした3種の養成研修を実施した。

#### 2 プログラムの概要 日程表、会場

研修名	日程	会場
主任相談 支援員養成研修	【前期】 7月15日(水)~7月17日(金)	全社協・灘尾ホール
	【後期】 8月25日(火)~8月27日(木)	全社協・中央福祉学院
相談 支援員養成研修	【前期】 9月7日(月)~9月9日(水)	全社協・灘尾ホール
	【後期】 10月7日(水)~10月9日(金)	全社協・中央福祉学院
就労 支援員養成研修	【前期】 11月4日(水)~11月6日(金)	全社協・灘尾ホール
	【後期】 12月9日(水)~12月11日(金)	全社協・中央福祉学院

#### <会場>

【前期】 全国社会福祉協議会 灘尾ホール

〒100-8980 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル

TEL 03-3581-4655 FAX 03-3581-7858

【後期】 全国社会福祉協議会 中央福祉学院

〒240-0197 神奈川県三浦郡葉山町上山口 1560-44

TEL 046-858-1355 FAX 046-858-1356

## 【前期】主任相談支援員養成研修

### 日 程 表

#### 【第1日目】7月15日（水）

時 間	科 目	講 師
8:15~9:00	受 付	
9:00~9:10	オリエンテーション	
9:10~9:20	主催者挨拶、厚生労働省挨拶	
9:20~9:30 (10分)	アイスブレイク	九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏
9:30~11:00 (90分)	<b>【講義①】</b> 生活困窮者自立支援の基本的な考え方	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室長 熊木 正人 氏
11:00~11:10	休 憩	
11:10~12:10 (60分)	<b>【講義②】</b> 自立相談支援事業の目的、支援の流れ	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 自立支援企画調整官 鏑木 奈津子 氏
12:10~13:00 (50分)	昼食・休憩	
13:00~14:00 (60分)	<b>【講義②】</b> 自立相談支援事業と任意事業	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 室長補佐 渡邊 由美子 氏
14:00~14:15	休 憩	
14:15~15:45 (90分)	<b>【講義と演習③】</b> 支援員に求められる基本倫理と基本姿勢（講義）	明治学院大学 教授 新保 美香 氏
15:45~16:00	休 憩	
16:00~18:00 (120分)	<b>【講義と演習③】</b> 支援員に求められる基本倫理と基本姿勢（演習）	九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏
18:00~18:20 (20分)	研修の振り返り（第1日目）	九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏
18:20~18:40	交流会会場へ移動	
18:40~19:40 (60分)	交流会（会場：新霞が関ビル5階）	

# 日 程 表

【第2日目】7月16日(木)

時 間	科 目	講 師	実践事例紹介者
8:45~9:15	開 場		
9:15~12:00 (165分)	【講義と演習④-1】 生活困窮者支援に必要と 考えられる視点	日本福祉大学 教授 原田 正樹 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 法人 抱樸 理事長 奥田 知志 氏</li> <li>・一般社団法人 社会的包摂サポートセンター 事務局長 遠藤 智子 氏</li> <li>・生駒市役所 高齢施策課 課長補佐 田中 明美 氏</li> </ul>
12:00~12:55 (55分)	昼食・休憩		
12:55~13:45 (50分)	【講義と演習④-1】 生活困窮者支援に必要と 考えられる視点	日本福祉大学 教授 原田 正樹 氏	
13:45~14:35 (50分)	【講義と演習④-2】 生活困窮者支援に必要と 考えられる視点 (発達障害などメンタルヘルス に配慮すべき人への支援)	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 発達障害対策専門官 日詰 正文 氏	
14:35~14:50	休 憩		
14:50~17:30 (160分)	【講義と演習⑤】 生活困窮者支援を通じた 地域づくり	ルーテル学院大学 教授 和田 敏明 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大津市社会福祉協議会 主査 葛城 朋子氏 氏</li> <li>・一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会 主任相談支援員 新田 摩奈美 氏</li> </ul>
17:30~17:50 (20分)	研修の振り返り(第2日目)	九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏	
18:00~19:00 (60分)	オプション企画(自由参加) テーマ別交流会		

# 日 程 表

## 【第3日目】7月17日(金)

時 間	科 目	講 師	実践事例紹介者
8:30~9:00	開 場		
9:00~11:00 (120分)	【講義と演習⑥】 相談支援の展開(講義)	大阪市立大学大学院 教授 岩間 伸之 氏	
11:00~11:15	休 憩		
11:15~12:45 (90分)	【講義と演習⑥】 相談支援の展開(演習)	大阪市立大学大学院 教授 岩間 伸之 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊中市社会福祉協議会 事務局参事兼地域福祉課長 勝部 麗子 氏</li> </ul>
12:45~13:35 (50分)	昼食・休憩		
13:35~14:50 (75分)	【講義と演習⑦】 就労支援の実施方法	明治学院大学 教授 新保 美香 氏	
14:50~15:05	休 憩		
15:05~17:00 (115分)	【講義と演習⑦】 就労支援の実施方法 実践報告	明治学院大学 教授 新保 美香 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄県労福協 就労支援チーフ 山里 直子 氏</li> <li>NPO 法人 NPO スチューデ ント・サポート・フェイス 代表理事 谷口 仁史 氏</li> <li>A' ワーク創造館 (大阪地域職業訓練センター) 就労支援室長 西岡 正次 氏</li> </ul>
17:00~17:10	休 憩		
17:10~17:40 (30分)	研修の振り返り(第3日目)	九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏	

## 【後期】主任相談支援員養成研修

### 日 程 表

【第1日目】8月25日（火）

時 間	科 目	講 師
9:30～10:00	受 付	
10:00～10:10	オリエンテーション	
10:10～11:10 (60分)	【講義①】 主任相談支援員の役割	日本福祉大学 教授 原田 正樹 氏  雄勝福祉会 人材育成次長 佐藤 博 氏
11:10～11:20	休 憩	
11:20～12:35 (75分)	【講義と演習②】 職員の資質向上と職場（組織）づくり	明治学院大学 教授 新保 美香 氏  九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏
12:35～13:25 (50分)	昼食・休憩	
13:25～14:40 (75分)	【講義と演習②】 職員の資質向上と職場（組織）づくり	
14:40～14:50	休 憩	
14:50～15:50 (60分)	【講義③】 生活困窮者支援と地域づくりの意義	ルーテル学院大学 教授 和田 敏明 氏
15:50～16:00	休 憩	
16:00～19:10 (研修:180分) 途中休憩 10分	【講義と演習④】 個を支える地域づくり	日本福祉大学 教授 原田 正樹 氏  豊中市社会福祉協議会 事務局参事兼地域福祉課長 勝部 麗子 氏
19:10～19:20 (20分)	研修の振り返り（第1日目）	九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏
19:20～19:30	交流会会場へ移動	
19:30～21:00 (90分)	交流会（会場：大楠）	

# 日 程 表

## 【第2日目】8月26日(水)

時 間	科 目	講 師	実践事例紹介者
8:30~9:00	開 場		
9:00~12:15 (研修:180分) 途中休憩 15分	【講義と演習⑤】 社会資源とネットワーク の開発	日本福祉大学 教授 原田 正樹 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>高島市社会福祉協議会 事務局長 井岡 仁志 氏</li> <li>A'ワーク創造館 (大阪地域職業訓練センター) 就労支援室 室長 西岡 正次 氏</li> </ul>
12:15~13:15 (60分)	昼食・休憩		
13:15~17:00 (研修:210分) 途中休憩 15分	【講義と演習⑥】 支援困難事例の検討	日本福祉大学 教授 田中 千枝子 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>聖隷福祉事業団 浜松市生活自立相談支援センター つながり 所長 上原 久 氏</li> <li>いちほら生活相談サポートセンター センター長・主任相談支援員 大戸 優子 氏</li> <li>豊中市社会福祉協議会 事務局参事兼地域福祉課長 勝部 麗子 氏</li> </ul>
17:00~17:15	休 憩		
17:15~18:15 (60分)	【講義⑦】 アウトリーチ・インターク	雄勝福社会 人材育成次長 佐藤 博 氏  聖隷福祉事業団 浜松市生活自立相談支援 センター つながり 所長 上原 久 氏	/
18:15~18:30 (15分)	研修の振り返り(第2日目)	九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏	
18:30~18:40	交流会準備		
18:40~19:40 (60分)	オプション企画(自由参加) テーマ別交流会		

# 日 程 表

【第3日目】8月27日(木)

時 間	科 目	講 師	実践事例紹介者
8:30~9:00	開 場		
9:00~13:00 (240分)	【講義と演習⑧】 アセスメント・プラン作成	大阪市立大学大学院 教授 岩間 伸之 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中核地域生活支援センター がじゅまる センター長 朝比奈 ミカ 氏</li> <li>・聖隷福祉事業団 浜松市生活自立相談支援セン ター つながり 所長 上原 久 氏</li> <li>・野洲市役所 市民生活相談課 主任 宇都宮 誠実 氏</li> </ul>
13:00~14:00 (60分)	昼食・休憩		
14:00~15:00 (60分)	【講義⑨】 支援調整会議	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者 自立支援室 自立支援企画調整官 鍋木 奈津子 氏	
15:00~15:15	休 憩		
15:15~16:15 (60分)	【講義と演習⑩】 全体のまとめ	日本福祉大学 教授 原田 正樹 氏	
16:15~16:30 (15分)	研修の振り返り(第3日目) 修了式		

## 【前期】相談支援員養成研修

### 日 程 表

#### 【第1日目】9月7日（月）

時 間	科 目	講 師
8:15~9:00	受 付	
9:00~9:10	オリエンテーション	
9:10~9:20	主催者挨拶、厚生労働省挨拶	
9:20~9:30 (10分)	アイスブレイク	九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏
9:30~11:00 (90分)	<b>【講義①】</b> 生活困窮者自立支援の基本的な考え方	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室長 熊木 正人 氏
11:00~11:10	休 憩	
11:10~12:10 (60分)	<b>【講義②】</b> 自立相談支援事業の目的、支援の流れ	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 自立支援企画調整官 鏑木 奈津子 氏
12:10~13:00 (50分)	昼食・休憩	
13:00~14:00 (60分)	<b>【講義②】</b> 自立相談支援事業と任意事業	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 室長補佐 渡邊 由美子 氏
14:00~14:15	休 憩	
14:15~15:45 (90分)	<b>【講義と演習③】</b> 支援員に求められる基本倫理と基本姿勢（講義）	明治学院大学 教授 新保 美香 氏
15:45~16:00	休 憩	
16:00~18:00 (120分)	<b>【講義と演習③】</b> 支援員に求められる基本倫理と基本姿勢（演習）	九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏
18:00~18:20 (20分)	研修の振り返り（第1日目）	九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏
18:20~18:40	交流会会場へ移動	
18:40~19:40 (60分)	交流会（会場：新霞が関ビル5階）	

# 日 程 表

## 【第2日目】9月8日（火）

時 間	科 目	講 師	実践事例紹介者
8:45~9:15	開 場		
9:15~12:00 (165分)	【講義と演習④-1】 生活困窮者支援に必要と 考えられる視点	日本福祉大学 教授 原田 正樹 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 法人 抱樸 理事長 奥田 知志 氏</li> <li>・一般社団法人 社会的包摂サポートセンター 事務局長 遠藤 智子 氏</li> <li>・生駒市役所 高齢施策課 課長補佐 田中 明美 氏</li> </ul>
12:00~12:50 (50分)	昼食・休憩		
12:50~13:40 (50分)	【講義と演習④-1】 生活困窮者支援に必要と 考えられる視点	日本福祉大学 教授 原田 正樹 氏	
13:40~13:50	休 憩		
13:50~14:40 (50分)	【講義と演習④-2】 生活困窮者支援に必要と 考えられる視点 (発達障害などメンタルヘルス に配慮すべき人への支援)	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 発達障害対策専門官 日詰 正文 氏	
14:40~14:55	休 憩		
14:55~17:35 (160分)	【講義と演習⑤】 生活困窮者支援を通じた 地域づくり	ルーテル学院大学 教授 和田 敏明 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊中市社会福祉協議会 事務局参事兼地域福祉課長 勝部 麗子 氏</li> <li>・一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会 副代表 櫛部 武俊 氏</li> </ul>
17:35~17:50 (15分)	研修の振り返り(第2日目)	九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏	
18:00~19:00 (60分)	オプション企画（自由参加）テーマ別交流会		

# 日 程 表

## 【第3日目】9月9日（水）

時 間	科 目	講 師	実践事例紹介者
8:30~9:00	開 場		
9:00~11:00 (120分)	【講義と演習⑥】 相談支援の展開（講義）	大阪市立大学大学院 教授 岩間 伸之 氏	
11:00~11:15	休 憩		
11:15~12:45 (90分)	【講義と演習⑥】 相談支援の展開（演習）	大阪市立大学大学院 教授 岩間 伸之 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊中市社会福祉協議会 事務局参事兼地域福祉課長 勝部 麗子 氏</li> </ul>
12:45~13:35 (50分)	昼食・休憩		
13:35~14:50 (75分)	【講義と演習⑦】 就労支援の実施方法	明治学院大学 教授 新保 美香 氏	
14:50~15:05	休 憩		
15:05~17:00 (115分)	【講義と演習⑦】 就労支援の実施方法 実践報告	明治学院大学 教授 新保 美香 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄県労働者福祉基金協会 就職・生活支援パーソナル・サ ポート・センター 次長 岡野 みゆき 氏</li> <li>NPO 法人 NPO スチューデ ント・サポート・フェイス 代表理事 谷口 仁史 氏</li> <li>A' ワーク創造館 (大阪地域職業訓練センター) 就労支援室長 西岡 正次 氏</li> </ul>
17:00~17:10	休 憩		
17:10~17:40 (30分)	研修の振り返り(第3日目)	九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏	

## 【後期】相談支援員養成研修

### 日 程 表

#### 【第1日目】10月7日（水）

時 間	科 目	講 師	実践事例紹介者
9:30～10:00	受 付		
10:00～10:10	オリエンテーション		
10:10～12:10 (120分)	【講義と演習①】 個別支援の基本	大阪市立大学大学院 教授 岩間 伸之 氏	八幡浜市社会福祉協議会 地域福祉課長 田中 奈美 氏
12:10～13:10 (60分)	昼食・休憩		
13:10～15:10 (120分)	【講義と演習②】 援助関係をつくりにくい 人への支援	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 発達障害対策専門官 日詰 正文 氏	
15:10～15:25	休 憩		
15:25～16:55 (90分)	【講義③】 アウトリーチ	一般社団法人 インクルージョンネットかながわ 代表理事 鈴木 晶子 氏	
16:55～17:10	休 憩		
17:10～18:40 (90分)	【講義④】 観察と記録	聖隷福祉事業団 浜松市生活自立相談支援 センター つながり 所長 上原 久 氏	
18:40～18:50 (10分)	研修の振り返り(第1日目)	事務局	
18:50～19:00	交流会会場へ移動		
19:00～20:30 (90分)	交流会（会場：大楠）		

# 日 程 表

## 【第2日目】10月8日(木)

時 間	科 目	講 師	実践事例紹介者
8:30~9:00	開 場		
9:00~9:10	オリエンテーション		
9:10~10:50 (100分)	【講義と演習⑤】 自立相談支援員が持つべき就労支援の視点	一般社団法人 インクルージョンネットかながわ 代表理事 鈴木 晶子 氏	釧路社会的企業創造協議会 副代表 櫛部 武俊 氏
10:50~11:05	休 憩		
11:05~14:35 (研修:150分)	【講義と演習⑥】 任意事業との連携のあり方	一般社団法人 インクルージョンネットかながわ 代表理事 鈴木 晶子 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聖隷福祉事業団 浜松市生活自立相談支援センター つながり 所長 上原 久 氏</li> <li>・ユニバーサル就労ネットワーク ちば 副理事長 平田 智子 氏</li> <li>・くらし・しごと・家計困りごと相談室 福岡県自立相談支援事務所(筑紫郡・糟屋郡) 家計相談支援員 北島 千恵 氏</li> </ul>
	昼食・休憩 12:00~13:00(60分)		
	【講義と演習⑥】 任意事業との連携のあり方		
14:35~14:50	休 憩		
14:50~16:30 (100分)	【講義と演習⑦】 地域を基盤とした相談支援の方法	大阪市立大学大学院 教授 岩間 伸之 氏	豊中市社会福祉協議会 事務局参事兼地域福祉課長 勝部 麗子 氏
16:30~16:45	休 憩		
16:45~17:50 (65分)	【講義と演習⑧-1】 相談支援の展開	大阪市立大学大学院 教授 岩間 伸之 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聖隷福祉事業団 浜松市生活自立相談支援センター つながり 所長 上原 久 氏</li> <li>・一般社団法人 インクルージョンネットかながわ 代表理事 鈴木 晶子 氏</li> <li>・八幡浜市社会福祉協議会 地域福祉課長 田中 奈美 氏</li> </ul>
17:50~18:00 (10分)	研修の振り返り(第2日目)	事務局	
18:00~18:10	交流会準備		
18:10~19:10 (60分)	オプション企画(自由参加)テーマ別交流会		

# 日 程 表

## 【第3日目】10月9日（金）

時 間	科 目	講 師	実践事例紹介者
8:30~9:00	開 場		
9:00~10:15 (75分)	【講義と演習⑧-2】 相談支援の展開	大阪市立大学大学院 教授 岩間 伸之 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 市川市生活サポートセンター そら (so-ra) 主任相談支援員 朝比奈 ミカ 氏</li> <li>• 聖隷福祉事業団 浜松市生活自立相談支援センター つながり 所長 上原 久 氏</li> <li>• 一般社団法人 インクルージョンネットかながわ 代表理事 鈴木 晶子 氏</li> <li>• 八幡浜市社会福祉協議会 地域福祉課長 田中 奈美 氏</li> <li>• 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 自立支援企画調整官 鏑木 奈津子 氏</li> </ul>
10:15~10:30	休 憩		
10:30~11:50 (80分)	【講義と演習⑧-2】 相談支援の展開		
11:50~12:50 (60分)	昼食・休憩		
12:50~14:15 (85分)	【講義と演習⑧-2】 相談支援の展開		
14:15~14:30	休 憩		
14:30~17:10 (160分)	【講義と演習⑧-3】 相談支援の展開		
17:10~17:30 (20分)	研修の振り返り(第3日目) 修了式		

## 【前期】就労支援員養成研修

### 日 程 表

#### 【第1日目】11月4日（水）

時 間	科 目	講 師
8:15～9:00	受 付	
9:00～9:10	オリエンテーション	
9:10～9:20	主催者挨拶、厚生労働省挨拶	
9:20～9:30 (10分)	アイスブレイク	九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏
9:30～11:00 (90分)	<b>【講義①】</b> 生活困窮者自立支援の基本的な考え方	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 室長 本後 健 氏
11:00～11:10	休 憩	
11:10～12:10 (60分)	<b>【講義②】</b> 自立相談支援事業の目的、支援の流れ	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 自立支援企画調整官 鍋木 奈津子 氏
12:10～13:00 (50分)	昼食・休憩	
13:00～14:00 (60分)	<b>【講義②】</b> 自立相談支援事業と任意事業	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 室長補佐 渡邊 由美子 氏
14:00～14:15	休 憩	
14:15～15:45 (90分)	<b>【講義と演習③】</b> 支援員に求められる基本倫理と基本姿勢（講義）	明治学院大学 教授 新保 美香 氏
15:45～16:00	休 憩	
16:00～18:00 (120分)	<b>【講義と演習③】</b> 支援員に求められる基本倫理と基本姿勢（演習）	九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏
18:00～18:20 (20分)	研修の振り返り（第1日目）	九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏
18:20～18:40	交流会会場へ移動	
18:40～19:40 (60分)	交流会（会場：新霞が関ビル5階）	

# 日 程 表

## 【第2日目】11月5日(木)

時 間	科 目	講 師	実践事例紹介者
8:45~9:15	開 場		
9:15~12:00 (165分)	【講義と演習④-1】 生活困窮者支援に必要と 考えられる視点	日本福祉大学 教授 原田 正樹 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤里町社会福祉協議会 会長兼上席事務局長 菊池 まゆみ 氏</li> <li>・一般社団法人 社会的包摂 サポートセンター 事務局長 遠藤 智子 氏</li> </ul>
12:00~12:50 (50分)	昼食・休憩		
12:50~13:40 (50分)	【講義と演習④-1】 生活困窮者支援に必要と 考えられる視点	日本福祉大学 教授 原田 正樹 氏	
13:40~13:50	休 憩		
13:50~14:40 (50分)	【講義と演習④-2】 生活困窮者支援に必要と 考えられる視点 (発達障害などメンタルヘルス に配慮すべき人への支援)	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 発達障害対策専門官 日詰 正文 氏	
14:40~14:55	休 憩		
14:55~17:35 (160分)	【講義と演習⑤】 生活困窮者支援を通じた 地域づくり	ルーテル学院大学 教授 和田 敏明 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊中市社会福祉協議会 事務局参事兼地域福祉課長 勝部 麗子 氏</li> <li>・一般社団法人 釧路社会的企 業創造協議会 副代表 櫛部 武俊 氏</li> </ul>
17:35~17:50 (15分)	研修の振り返り(第2日目)	九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏	
18:00~19:00 (60分)	オプション企画(自由参加)テーマ別交流会		

# 日 程 表

## 【第3日目】11月6日（金）

時 間	科 目	講 師	実践事例紹介者
8:30~9:00	開 場		
9:00~11:00 (120分)	【講義と演習⑥】 相談支援の展開（講義）	大阪市立大学大学院 教授 岩間 伸之 氏	
11:00~11:15	休 憩		
11:15~12:45 (90分)	【講義と演習⑥】 相談支援の展開（演習）	大阪市立大学大学院 教授 岩間 伸之 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊中市社会福祉協議会 事務局参事兼地域福祉課長 勝部 麗子 氏</li> </ul>
12:45~13:35 (50分)	昼食・休憩		
13:35~14:50 (75分)	【講義と演習⑦】 就労支援の実施方法	明治学院大学 教授 新保 美香 氏	
14:50~15:05	休 憩		
15:05~17:00 (115分)	【講義と演習⑦】 就労支援の実施方法 実践報告	明治学院大学 教授 新保 美香 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県労働者福祉基金協会 就職・生活支援パーソナル・サ ポート・センター 次長 岡野 みゆき 氏</li> <li>・NPO 法人 NPO スチューデ ント・サポート・フェイス 代表理事 谷口 仁史 氏</li> <li>・A' ワーク創造館 (大阪地域職業訓練センター) 就労支援室長 西岡 正次 氏</li> </ul>
17:00~17:10	休 憩		
17:10~17:40 (30分)	研修の振り返り(第3日目)	九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏	

## 【後期】就労支援員養成研修

### 日 程 表

#### 【第1日目】12月9日（水）

時 間	科 目	講 師
9:30～10:00		受 付
10:00～10:10		オリエンテーション
10:10～11:40 (90分)	【講義と演習①】 就労支援の実施方法Ⅰ はじめに	明治学院大学 教授 新保 美香 氏
11:40～12:40 (60分)		昼食・休憩
12:40～14:50 (130分)	【講義と演習②】 就労支援の実施方法Ⅰ 包括的な相談支援の視点	一般社団法人 キャリアブリッジ 顧問/キャリアコンサルタント 白水 崇真子 氏  九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏
14:50～15:05		休 憩
15:05～16:05 (60分)	【講義と演習③】 就労支援の実施方法Ⅰ ハローワークの役割と連携	厚生労働省 千葉県労働局 職業安定部 地方訓練受講者支援室 室長補佐 山本 政好 氏
16:05～16:10		休 憩
16:10～17:00 (50分)	【講義と演習③】 就労支援の実施方法Ⅰ ハローワークサービスの実際	厚生労働省 千葉労働局 市川公共職業安定所（ハローワーク） 就職支援ナビゲーター 南川 文 氏
17:00～17:15		休 憩
17:15～18:15 (60分)	【講義と演習④】 就労支援の実施方法Ⅰ 労働行政について	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 室長補佐 高木 剛 氏
18:15～18:25 (10分)	1 日目の振り返り	九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏
18:25～18:45		交流会会場へ移動
18:45～20:00 (75分)		交流会（会場：大楠）

# 日程表

## 【第2日目】12月10日（木）

時間	科目	講師
8:30~9:00	開場	
9:00~9:10	オリエンテーション	
9:10~11:50 (休憩 15分) (研修:145分)	【講義と演習⑤】 就労支援の実施方法Ⅱ 個人への相談支援	<p>〈コーディネーター〉 明治学院大学 教授 新保 美香 氏</p> <p>〈実践事例紹介者〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 釧路市生活相談支援センター 暮らしごと 相談支援員 小林 万理 氏</li> <li>・ 福島県社会福祉協議会 生活自立サポートセンター 会津事務所 就労支援員 渡部 敬二 氏</li> <li>・ 暮らしづくりネットワーク北芝 相談員 四宮 康亮 氏</li> </ul>
11:50~12:50	昼食・休憩	
12:50~15:20 (休憩 15分) (研修:135分)	【講義と演習⑥】 就労支援の実施方法Ⅱ アウトリーチの実際と危機管理	NPO スチューデント・サポート・フェイス 代表理事 谷口 仁史 氏
15:20~15:35	休憩	
15:35~17:15 (100分)	【講義と演習⑦】 就労支援の実施方法Ⅱ 多様なプログラムづくり	沖縄県労働者福祉基金協会 就職・生活支援パーソナル・サポート・センター 次長 岡野 みゆき 氏
17:15~17:30	休憩	
17:30~18:40 (70分)	【講義と演習⑧】 就労支援の実施方法Ⅲ 職場内のチームづくり 地域のネットワークづくり	釧路社会的企業創造協議会 副代表 櫛部 武俊 氏
18:40~18:50 (10分)	2日目の振り返り	九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏
18:50~19:00	交流会準備	
19:00~20:00 (60分)	オプション企画（自由参加）テーマ別交流会 ※8つのテーマをご用意しております。ふるってご参加ください。	

# 日 程 表

【第3日目】12月11日（金）

時 間	科 目	講 師
8:30～9:00	開 場	
9:00～9:10	オリエンテーション	
9:10～11:10 (120分)	【講義と演習⑨】 就労支援の実施方法Ⅲ 自治体による就労支援	<講師> A' ワーク創造館（大阪地域職業訓練センター） 就労支援室 室長 西岡 正次 氏  <コーディネーター> 九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏  <コメンテーター> 沖縄県労働者福祉基金協会 就職・生活支援パーソナル・サポート・センター 次長 岡野 みゆき 氏
11:10～11:20	休 憩	
11:20～12:00 (40分)	【講義と演習⑩】 就労支援の実施方法Ⅲ 企業へのアプローチ	社会福祉法人 光明会 社会貢献部長 山本 樹 氏
12:00～12:50 (50分)	昼食・休憩	
12:50～14:30 (100分)	【講義と演習⑩】 就労支援の実施方法Ⅲ 企業へのアプローチ	
14:30～14:45	休 憩	
14:45～16:35 (110分)	【講義と演習⑪】 就労支援の実施方法Ⅲ まとめ	明治学院大学 教授 新保 美香 氏  九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏
16:35～16:45 (10分)	研修の振り返り	九州大学 客員准教授 加留部 貴行 氏
16:45～17:00 (15分)	修了式	

### 3 受講対象者

#### (1) 主任相談支援員養成研修

自立相談支援事業において主任相談支援員として配置されている者。

なお、以下の①～③までのいずれかに該当する者。

- ① 社会福祉士、精神保健福祉士、保健師として保険、医療、福祉、就労、教育等の分野における業務に5年以上従事している者であり、かつ、生活困窮者への相談支援業務その他の相談支援業務に3年以上従事している者
- ② 生活困窮者への相談支援業務その他の相談支援業務に5年以上従事している者
- ③ 相談支援業務に準ずる業務として、実施主体である地方自治体の長が認めた業務に5年以上従事している者

#### (2) 相談支援員養成研修

自立相談支援事業において相談支援員として配置されている者。

なお、相談支援業務に従事している者(これまで従事していた者も含む。)など、生活困窮者への相談支援を適切に行うことができる者。

#### (3) 就労支援員養成研修

自立相談支援事業において就労支援員として配置されている者。

なお、キャリアコンサルタント、産業カウンセラー等の資格を有する者や就労支援業務に従事している者(これまで従事していた者も含む。)など、生活困窮者への就労支援を適切に行うことができる者。

※受講者は選考を行い決定します。選考は下記に基づいて行われます。

「生活困窮者自立支援制度人材養成研修事業の実施について」(平成27年4月9日付厚生労働省社会・援護局長通知)

「生活困窮者自立支援制度人材養成研修の開催について」(平成27年5月12日付厚生労働省事務連絡)

### 4 受講者定員

各回240名

※平成27年5月12日付厚生労働省事務連絡に基づき、各都道府県の各研修受講者枠を定めております。

都道府県	受講者枠	都道府県	受講者枠	都道府県	受講者枠	都道府県	受講者枠
北海道	10名	東京都	11名	滋賀県	4名	香川県	3名
青森県	3名	神奈川県	7名	京都府	4名	愛媛県	3名
岩手県	4名	新潟県	5名	大阪府	11名	高知県	3名
宮城県	4名	富山県	3名	兵庫県	9名	福岡県	9名
秋田県	4名	石川県	3名	奈良県	4名	佐賀県	3名
山形県	3名	福井県	3名	和歌山県	3名	長崎県	4名
福島県	5名	山梨県	3名	鳥取県	4名	熊本県	4名
茨城県	7名	長野県	5名	島根県	4名	大分県	4名
栃木県	4名	岐阜県	5名	岡山県	6名	宮崎県	3名
群馬県	4名	静岡県	7名	広島県	6名	鹿児島県	5名
埼玉県	11名	愛知県	11名	山口県	4名	沖縄県	3名
千葉県	10名	三重県	3名	徳島県	2名		

## 5 テキスト

各研修で使用するテキストは下記の1冊となります。各自ご用意ください（自己負担）。

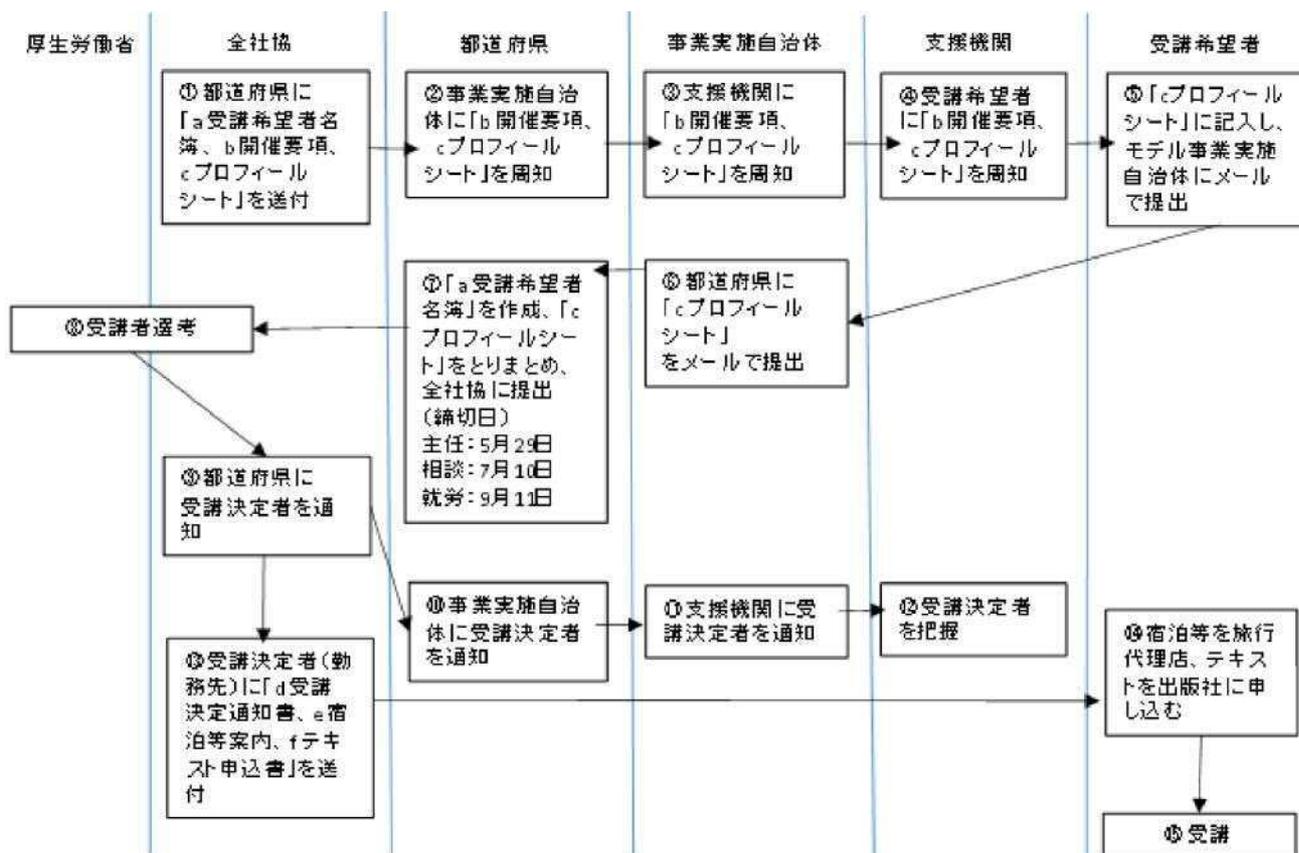
### ①『生活困窮者自立支援法 自立相談支援事業従事者養成研修テキスト』

（中央法規出版株式会社から出版、本体2,800円（税別））

※昨年「平成26年度自立相談支援事業従事者養成研修」に使用したテキストと同様です。

※書店等でお買い求めください。

## 6 申込みから受講までの流れ



## 7 修了証書の交付

- (1) 所定の修了要件を満たした方には「修了証書」を交付します。
- (2) 修了要件は以下のとおりです。
  - ①前・後期のすべての科目に出席すること。
  - ②前期終了後の事後課題を提出すること。
- (3) 修了証書は、後期研修終了時に受講者本人にお渡しします。
- (4) 都道府県には、厚生労働省から修了者名簿をお送りします。

## ◆就労準備支援従事者養成研修

### 1 研修の目的および種類

複合的な課題を抱え、直ちに就労が困難な者に対して、一般就労に従事する準備としての基礎能力の形成を、計画的かつ一貫して支援するため、就労準備支援事業に従事する者に必要とされる姿勢・知識・能力を習得することにより、資質の確保・向上を図ることを目的とした。

平成 27 年度より施行された生活困窮者自立支援制度の就労準備支援事業において配置される就労準備支援担当者を対象とした養成研修を実施した。

### 2 プログラムの概要 日程表、会場

研修名	日程	会場
就労準備 支援事業従事者養成研修	7月27日(月)~7月30日(木)	タイム24

#### <会場>

タイム24ビル HALL1 (1階)

〒135-0064 東京都江東区青海 2-4-32

TEL:03-5531-0024 FAX:03-5531-0025

## 就労準備支援担当者養成研修

### 日 程 表

#### 【第1日目】7月27(月)

時間	科目	講師
12:45~13:30	受付	
13:30~13:40	主催者挨拶、厚生労働省挨拶	
13:40~13:50	オリエンテーション	
13:50~14:00 (10分)	アイスブレイク	
14:00~15:30 (90分)	【講義①】 生活困窮者自立支援法と就労準備支援 事業の基本的な考え方	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 室長補佐 渡邊 由美子 氏
15:30~15:45	休憩	

15:45～17:15 (90分)	<b>【講義と演習②】</b> 就労準備支援担当者の役割と基本姿勢	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 自立支援企画調査官 鍋木 奈津子 氏
17:15～17:25 (10分)	研修の振り返り（第1日目）	
17:25～17:45	交流会会場へ移動	
17:45～18:45 (60分)	交流会（会場：HALL2）	

## 日 程 表

### 【第2日目】7月28日（火）

時 間	科 目	講 師	実践事例紹介者
9:00～9:30	開 場		
9:30～9:40	オリエンテーション		
9:40～12:55 (研修:180分) 途中休憩 15分	<b>【講義③】</b> 本人の状態像に応じた支 援のあり方	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室 室長 熊木 正人 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会 副代表 櫛部 武俊 氏</li> <li>一般社団法人 インクルージョンネットかながわ 理事 鈴木 晶子 氏</li> <li>特定非営利活動法人 ユニバーサル就労ネットワーク ちば 副理事長 平田 智子 氏</li> </ul>
12:55～13:55 (60分)	昼食・休憩		
13:55～15:55 (120分)	<b>【講義④】</b> 支援に向けたインテーク とアセスメントのあり方 ／就労準備支援プログラ ムの作成	特定非営利活動法人 NPO スチューデント・ サポート・フェイス 代表理事 谷口 仁史 氏	/
15:55～16:10	休 憩		
6:10～18:10 (120分)	<b>【講義④】</b> 支援に向けたインテーク とアセスメントのあり方 ／就労準備支援プログラ ムの作成		

18:10～18:20 (10分)	研修の振り返り（第2日目）
18:40～19:40 (60分)	オプション企画（自由参加）テーマ別交流会

## 日 程 表

### 【第3日目】7月29日（水）

時 間	科 目	講 師	実践事例紹介者
9:00～9:30	開 場		
9:30～9:40	オリエンテーション		
9:40～11:10 (90分)	【講義と演習⑤】 支援関係の構築Ⅰ	明治学院大学 教授 新保 美香 氏	
11:10～11:25	休 憩		
11:25～12:25 (60分)	【講義と演習⑥】 支援関係の構築Ⅱ（場面を 想定した具体的な演習）	公益財団法人 沖縄県労働者福祉基金協会 就職・生活支援パーソナル・ サポート・センター 次長 岡野 みゆき 氏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益財団法人 沖縄県労働者福祉基金協会 就職・生活支援パーソナル・サポ ート・センター 就労準備支援事業 統括責任者 名嘉 泰 氏</li> <li>・釧路社会的企業創造協議会 主任相談支援員 新田 摩奈美 氏</li> </ul>
12:25～13:25 (60分)	昼食・休憩		
13:25～14:25 (60分)	【講義と演習⑥】 支援関係の構築Ⅱ（場面を 想定した具体的な演習）		
14:25～14:35	休 憩		
14:35～15:35 (60分)	【講義と演習⑦】 支援プログラム・メニ ューの開発	公益財団法人 沖縄県労働者福祉基金協会 就職・生活支援パーソナル・ サポート・センター 次長 岡野 みゆき 氏	
15:35～15:50	休 憩		
15:50～17:20 (90分)	【講義と演習⑦】 支援プログラム・メニ ューの開発		
17:20～18:20 (60分)	【講義⑧】 ハローワークとの連携	厚生労働省 東京労働局 職業安定部 職業対策課 特別雇用対策係長 津田 武彦 氏	

18:20~18:30 (10分)	研修の振り返り（第3日目）
----------------------	---------------

# 日 程 表

## 【第4日目】7月30日（木）

時 間	科 目	講 師	実践事例紹介者
9:00～9:30	開 場		
9:30～9:40	オリエンテーション		
9:40～10:40 (60分)	【講義と演習◎】 4日間の振り返りとまとめ	明治学院大学 教授 新保 美香 氏  特定非営利活動法人 NPO スチューデント・ サポート・フェイス 代表理事 谷口 仁史 氏	/
10:40～10:55	休 憩		
10:55～12:25 (90分)	【講義と演習◎】 4日間の振り返りとまとめ		
12:25～12:50 (25分)	研修の振り返り（第4日目） 修了式		

### 3 受講対象者

就労準備支援事業において就労準備支援担当者として配置される者。

なお、キャリアコンサルタント、産業カウンセラー等の資格を有する者や就労支援業務に従事している者（これまで従事していた者も含む。）など、生活困窮者への就労支援を適切に行うことができる者。

※受講者は選考を行い決定します。選考は下記に基づいて行われます。

「生活困窮者自立支援制度人材養成研修事業の実施について」（平成27年4月9日付厚生労働省社会・援護局長通知）

「生活困窮者自立支援制度人材養成研修の開催について」（平成27年5月12日付厚生労働省事務連絡）

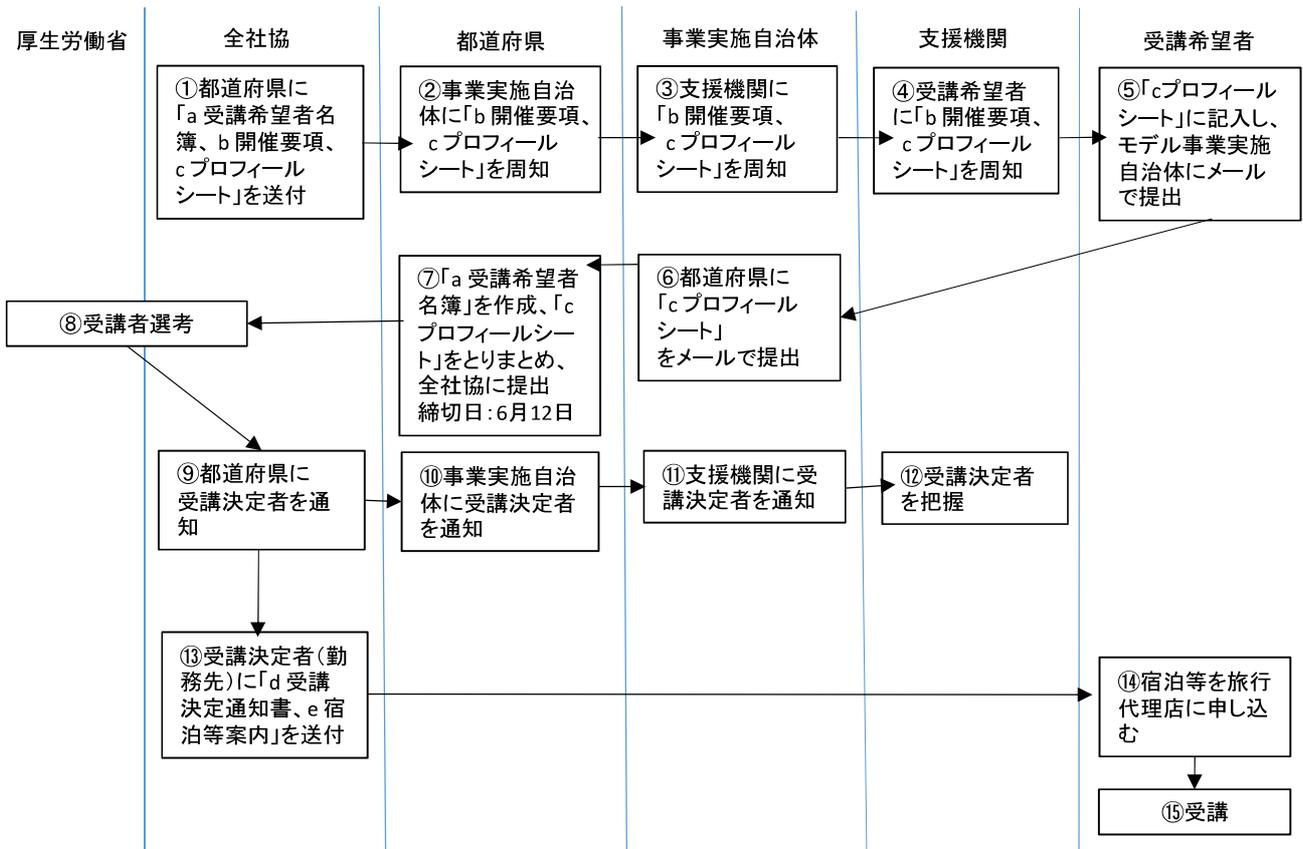
### 4 研修の受講定員

120名

### 5 テキスト

有償の書籍をテキストとして使用することは予定しておりません。詳細は受講決定通知にてご案内いたします。

## 6 申込みから受講までの流れ



## 7 修了証書の交付

- (1) 所定の修了要件を満たした方には「修了証書」を交付します。
- (2) 修了要件は以下のとおりです。
  - ①すべての科目に出席すること。
- (3) 修了証書は、研修終了時に受講者本人にお渡しします。
- (4) 都道府県には、厚生労働省から修了者名簿をお送りします。

## ◆家計相談支援事業従事者養成研修

### 1 研修の目的および種類

生活困窮の背景にある根源的な課題を相談者とともに理解し、相談者自身が主体的に「家計を管理しよう」という意欲を引き出すための、支援姿勢や方法等を学ぶことを目的とする。加えて、相談者が再び生活困窮状態になることを予防する観点からも、家計相談支援のねらいや基本的な考え方を十分に理解したうえで、効率的かつ確実に支援を行うための技術を習得し、家計相談支援事業に従事する者の資質の確保・向上を図ることを目的とした。

平成 27 年度より施行された生活困窮者自立支援制度の家計相談支援事業において配置される家計相談支援員を対象とした養成研修を実施した。研修は 3 回実施したが、各回の内容は同様。

### 2 プログラムの概要 日程表、会場

研修名	日程	会場
第1回 養成研修	6月29日(月)~7月2日(木)	タイム24ビル・研修室
第2回 養成研修	9月15日(火)~9月18日(金)	全社協・会議室
第3回 養成研修	11月30日(月)~12月3日(木)	タイム24ビル・研修室

#### <会場>

タイム 24 ビル (2 階 研修室) 【第 1 回、第 3 回 会場】

〒135-0064 東京都江東区青海 2-4-32

TEL 03-5531-0024 FAX 03-5531-0025

全国社会福祉協議会 (5 階 会議室) 【第 2 回 会場】

〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル

TEL 03-3581-4655 FAX 03-3581-7858

## 【第1回】家計相談支援事業従事者養成研修

### 日 程 表

#### 【第1日目】6月29日（月）

時 間	科 目	講 師
12:40～13:20	受 付	
13:20～13:40 (20分)	オリエンテーション	
13:40～14:40 (60分)	【講義①】 家計相談支援の基本的な考え方	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 自立支援企画調整官 鍋木 奈津子 氏
14:40～15:25 (45分)	【講義②】 家計相談支援員の基本姿勢と役割	北海道大学大学院 教育学研究院 准教授 鳥山 まどか 氏
15:25～15:45 (20分)	休 憩	
15:45～16:55 (70分)	【講義③-1】 利用できる制度および多重・過剰債務の 解決方法の理解①	野洲市役所 市民生活相談課 課長補佐 生水 裕美 氏
16:55～17:00 (5分)	研修の振り返り（第1日目）	
17:00～17:15	交流会準備	
17:15～18:15 (60分)	交流会（任意参加・当日申込可能）	

### 日 程 表

#### 【第2日目】6月30日（火）

時 間	科 目	講 師
9:00～9:30	受 付	
9:30～10:30 (60分)	【講義③-2】 利用できる制度および多重・過剰債務の 解決方法の理解②	日本司法支援センター 常勤弁護士 横堀 真美 氏
10:30～11:30 (60分)	【講義・演習④】 相談者像の理解 ～家計相談支援事業所を訪れるのはどの様 な人？～	グリーンコープ連合 常務理事・生活再生事業推進室長 行岡 みち子 氏 藤浦 久美 氏（宗像市家計相談支援事業所）
11:30～12:30 (60分)	昼食・休憩	

12:30～14:40 (130分)	【講義・演習⑤-1】 家計相談支援の基本的な考え方と相談の流れ ～相談者のエンパワーメントを！！～	グリーンコープ連合 ＜前半＞ 行岡 みち子 氏 藤浦 久美 氏（宗像市家計相談支援事業所） ＜後半＞ 行岡 みち子 氏 吉田 文子 氏（生活再生相談室・下関相談室） 一丸 直子 氏（福岡県域自立相談支援事業所）
14:40～14:55	休 憩	
14:55～16:25 (90分)	【講義・演習⑤-2】 家計相談支援の基本的な考え方と相談の流れ ～相談者のエンパワーメントを！！～	グリーンコープ連合 ＜前半＞ 行岡 みち子 氏 吉田 文子 氏（生活再生相談室・下関相談室） 北島 千恵 氏（福岡県域家計相談支援事業所） ＜後半＞ 行岡 みち子 氏 一丸 直子 氏（福岡県域自立相談支援事業所） 藤浦 久美 氏（宗像市家計相談支援事業所）
16:25～16:40	休 憩	
16:40～17:40 (60分)	【講義・演習⑥】 家計相談支援の失敗事例の検討 ～相談時の留意点や連携のあり方～	グリーンコープ連合 行岡 みち子 氏 一丸 直子 氏（福岡県域自立相談支援事業所）
17:40～17:45 (5分)	研修の振り返り（第2日目）	
17:55～18:50 (55分)	オプション交流会（任意参加）	

## 日 程 表

### 【第3日目】7月1日（水）

時 間	科 目	講 師
9:00～9:30	受 付	
9:30～11:00 (90分)	【講義・演習⑦】 家計相談支援の帳票の書き方	グリーンコープ連合 行岡 みち子 氏 北島 千恵 氏（福岡県域家計相談支援事業所）
11:00～11:15	休 憩	
11:15～12:05 (50分)	【実習①】 家計相談支援の実務に必要な帳票と家計表の作成	グリーンコープ連合 行岡 みち子 氏 丸山 恵子 氏（北九州市家計相談支援事業所） 吉田 文子 氏（生活再生相談室・下関相談室）

12:05～13:05 (60分)	昼食・休憩	
13:05～14:00 (55分)	【実習①】 家計相談支援の実務に必要な帳票と家計表の作成	
14:00～15:40 (100分)	【実習②】 家計表とライフイベント表を作成する	グリーンコープ連合 近澤 和子 氏 (大分県域・大分市家計相談支援事業所) 丸山 恵子 氏 (北九州市家計相談支援事業所)
15:40～15:55	休 憩	
15:55～17:00 (65分)	【実習②】 家計表とライフイベント表を作成する	
17:00～18:00 (60分)	【実習③-1】 キャッシュフロー表の作成と家計再生プランなどの立案	グリーンコープ連合 中島 明美 氏 (熊本県域・熊本市家計相談支援事業所) 近澤 和子 氏 (大分県域・大分市家計相談支援事業所) 丸山 恵子 氏 (北九州市家計相談支援事業所)
18:00～18:05 (5分)	研修の振り返り(第3日目)	

## 日 程 表

### 【第4日目】7月2日(木)

時 間	科 目	講 師
8:30～9:00	受 付	
9:00～12:45 (225分)	【実習③-2】 キャッシュフロー表の作成と家計再生プランの立案、貸付斡旋書の書き方	グリーンコープ連合 行岡 みち子 氏 中島 明美 氏 (熊本県域・熊本市家計相談支援事業所) 近澤 和子 氏 (大分県域・大分市家計相談支援事業所) 丸山 恵子 氏 (北九州市家計相談支援事業所)
12:45～13:00 (15分)	振り返り(第4日目) 修了式	

## 【第2回】家計相談支援事業従事者養成研修

### 日 程 表

【第1日目】9月15日（火） 会場：第1・2会議室

時 間	科 目	講 師
12:40～13:20	受 付	
13:20～13:40	挨拶・オリエンテーション	
13:40～14:40 (60分)	【講義①】 家計相談支援の基本的な考え方	厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 自立支援企画調整官 鍋木 奈津子 氏
14:40～15:25 (45分)	【講義②】 家計相談支援員の基本姿勢と役割	北海道大学大学院 教育学研究院 准教授 鳥山 まどか 氏
15:25～15:45	休 憩	
15:45～16:55 (70分)	【講義③-1】 利用できる制度および多重・過剰債務の 解決方法の理解①	野洲市役所 市民生活相談課 主任 宇都宮 誠実 氏
16:55～17:00 (5分)	研修の振り返り（第1日目）	
17:00～17:15	交流会準備	
17:15～18:15 (60分)	交流会（任意参加・当日申込可能）	

### 日 程 表

【第2日目】9月16日（水） 会場：第1・2会議室

時 間	科 目	講 師
9:00～9:30	受 付	
9:30～10:30 (60分)	【講義③-2】 利用できる制度および多重・過剰債務の 解決方法の理解②	日本司法支援センター 常勤弁護士 浅川 剛志 氏
10:30～10:40	休 憩	
10:40～11:40 (60分)	【講義・演習④】 相談者像の理解 ～家計相談支援事業所を訪れるのはど の様な人？～	グリーンコープ連合 常務理事・生活再生事業推進室長 行岡 みち子 氏 藤浦 久美 氏（宗像市家計相談支援事業所）

11:40～12:40 (60分)	昼食・休憩	
12:40～14:50 (130分)	<b>【講義・演習⑤-1】</b> <b>家計相談支援の基本的な考え方と相談の流れ</b> <b>～相談者のエンパワーメントを！！～</b>	グリーンコープ連合 行岡 みち子 氏 藤浦 久美 氏（宗像市家計相談支援事業所） 一丸 直子 氏（福岡県域自立相談支援事業所） 近澤 和子 氏 （大分県域・大分市家計相談支援事業所）
14:50～15:05	休 憩	
15:05～16:35 (90分)	<b>【講義・演習⑤-2】</b> <b>家計相談支援の基本的な考え方と相談の流れ</b> <b>～相談者のエンパワーメントを！！～</b>	グリーンコープ連合 行岡 みち子 氏 名張市社会福祉協議会 事務局次長 福井 浩司 氏  グリーンコープ連合 北島 千恵 氏（福岡県域家計相談支援事業所） 近澤 和子 氏 （大分県域・大分市家計相談支援事業所） 一丸 直子 氏（福岡県域自立相談支援事業所） 藤浦 久美 氏（宗像市家計相談支援事業所）
16:35～16:50	休 憩	
16:50～17:50 (60分)	<b>【講義・演習⑥】</b> <b>家計相談支援の失敗事例の検討</b> <b>～相談時の留意点や連携のあり方～</b>	グリーンコープ連合 行岡 みち子 氏 一丸 直子 氏（福岡県域自立相談支援事業所）
17:50～17:55 (5分)	研修の振り返り（第2日目）	
18:05～18:55 (50分)	オプション交流会（任意参加）	

## 日 程 表

**【第3日目】9月17日（木） 会場：第3・4・5会議室**

時 間	科 目	講 師
9:00～9:30	受 付	
9:30～11:15 (105分)	<b>【実習①】</b> <b>家計相談支援の実務に必要な帳票と家計表の作成</b>	グリーンコープ連合 行岡 みち子 氏 丸山 恵子 氏（北九州市家計相談支援事業所）
11:15～11:25	休 憩	
11:25～12:15 (50分)	<b>【実習②】</b> <b>家計表とライフイベント表の作成</b>	グリーンコープ連合 行岡 みち子 氏 丸山 恵子 氏（北九州市家計相談支援事業所）

12:15～13:15 (60分)	昼食・休憩	
13:15～15:10 (115分)	【実習②】 家計表とライフイベント表の作成	
15:10～15:25	休 憩	
15:25～16:25 (60分)	【実習③-1】 キャッシュフロー表の作成と家計再生 プランなどの立案	グリーンコープ連合 行岡 みち子 氏 丸山 恵子 氏 (北九州市家計相談支援事業所)
16:25～18:05 (100分)	【実習③-2】 キャッシュフロー表の作成と家計再生 プランなどの立案	中島 明美 氏 (熊本県域・熊本市家計相談支援事業所)
18:05～18:10 (5分)	研修の振り返り (第3日目)	

## 日 程 表

【第4日目】9月18日(金) 会場：第3・4・5会議室

時 間	科 目	講 師
8:30～9:00	受 付	
9:00～10:50 (110分)	【実習③-2】 キャッシュフロー表の作成と家計再生 プランなどの立案	グリーンコープ連合 行岡 みち子 氏 丸山 恵子 氏 (北九州市家計相談支援事業所)
10:50～11:00	休 憩	
11:00～12:30 (90分)	【講義・演習⑦】 家計相談支援の帳票の書き方	グリーンコープ連合 行岡 みち子 氏 北島 千恵 氏 (福岡県域家計相談支援事業所)
12:30～12:50 (20分)	振り返り (第4日目) 修了式	

## 【第3回】家計相談支援事業従事者養成研修

### 日 程 表

#### 【第1日目】11月30日（月）

時 間	科 目	講 師
12:40～13:20	受 付	
13:20～13:40 (20分)	挨拶・オリエンテーション	
13:40～14:40 (60分)	【講義①】 家計相談支援の基本的な考え方	厚生労働省社会・援護局地域福祉課 自立支援企画調整官 鍋木 奈津子 氏
14:40～15:25 (45分)	【講義②】 家計相談支援員の基本姿勢と役割	北海道大学大学院 教育学研究院 准教授 鳥山 まどか 氏
15:25～15:45 (20分)	休 憩	
15:45～16:55 (70分)	【講義③-1】 利用できる制度および多重・過剰債務の 解決方法の理解①	野洲市役所 市民生活相談課 課長補佐 生水 裕美 氏
16:55～17:00 (5分)	研修の振り返り（第1日目）	
17:00～17:15	交流会準備	
17:15～18:15 (60分)	交流会（任意参加・当日申込可能）	

### 日 程 表

#### 【第2日目】12月1日（火）

時 間	科 目	講 師
9:00～9:30	受 付	
9:30～10:30 (60分)	【講義③-2】 利用できる制度および多重・過剰債務の 解決方法の理解②	日本司法支援センター 常勤弁護士 横堀 真美 氏
10:30～10:40	休 憩	

10:40～11:40 (60分)	【講義・演習④】 相談者像の理解 ～家計相談支援事業所を訪れるのはどの様な人？～	グリーンコープ連合 常務理事・生活再生事業推進室長 行岡 みち子 氏  藤浦久美氏（宗像市家計相談支援事業所）
11:40～12:40 (60分)	昼 食 休 憩	
12:40～15:00 (140分)	【講義・演習⑤-1】 家計相談支援の基本的な考え方と相談の流れ ～相談者のエンパワメントを！！～	グリーンコープ連合 行岡みち子氏 藤浦久美氏（宗像市家計相談支援事業所） 一丸直子氏（福岡県域自立相談支援事業所） 近澤和子氏 （大分県域・大分市家計相談支援事業所）
15:00～15:15 (15分)	休 憩	
15:15～16:45 (90分)	【講義・演習⑤-2】 家計相談支援の基本的な考え方と相談の流れ ～相談者のエンパワメントを！！～	グリーンコープ連合 行岡みち子氏 名張市社会福祉協議会 事務局次長 福井 浩司 氏  グリーンコープ連合 北島千恵氏（福岡県域家計相談支援事業所） 近澤和子氏 （大分県域・大分市家計相談支援事業所） 一丸直子氏（福岡県域自立相談支援事業所） 藤浦久美氏（宗像市家計相談支援事業所）
16:45～17:00 (15分)	休 憩	
17:00～18:00 (60分)	【講義・演習⑥】 家計相談支援の失敗事例の検討 ～相談時の留意点や連携のあり方～	グリーンコープ連合 行岡みち子氏 一丸直子氏（福岡県域自立相談支援事業所）
18:00～18:05 (5分)	研修の振り返り（第2日目）	
18:05～18:55 (50分)	オプション交流会（任意参加）	

## 日 程 表

### 【第3日目】12月2日（水）

時 間	科 目	講 師
9:00～9:30	受 付	
9:30～11:25 (115分)	【実習①】 家計相談支援の実務に必要な帳票と家計表の作成	グリーンコープ連合 行岡みち子氏  丸山恵子氏（北九州市家計相談支援事業所）

11:25～11:35 (10分)	休 憩	
11:35～12:15 (50分)	【実習②】 家計表とライフイベント表の作成	グリーンコープ連合 行岡みち子氏 丸山恵子氏（北九州市家計相談支援事業所）
12:15～13:15 (60分)	昼 食 休 憩	
13:15～15:20 (125分)	【実習②】 家計表とライフイベント表の作成	
15:20～15:35 (15分)	休 憩	
15:35～16:35 (60分)	【実習③-1】 キャッシュフロー表の作成と家計再生 プランなどの立案	グリーンコープ連合 行岡みち子氏 丸山恵子氏（北九州市家計相談支援事業所）
16:35～18:15 (100分)	【実習③-2】 キャッシュフロー表の作成と家計再生 プランなどの立案	中島明美氏 （熊本県域・熊本市家計相談支援事業所）
18:15～18:20 (5分)	研修の振り返り（第3日目）	

## 日 程 表

### 【第4日目】12月3日（木）

時 間	科 目	講 師
8:30～9:00	受 付	
9:00～10:50 (110分)	【実習③-2】 キャッシュフロー表の作成と家計再生 プランなどの立案	グリーンコープ連合 行岡みち子氏 丸山恵子氏（北九州市家計相談支援事業所）
10:50～11:00 (10分)	休 憩	
11:00～12:30 (90分)	【講義・演習⑦】 家計相談支援の帳票の書き方	グリーンコープ連合 行岡みち子氏 北島千恵氏（福岡県域家計相談支援事業所）
12:30～12:50 (20分)	振り返り（第4日目） 修了式	

### 3 受講対象者

家計相談支援事業において家計相談支援員として配置される者。

なお、相談支援に関わる知識・技術、家計管理に関わる知識・技術、社会保障制度や金融に関わる知識等を有している者で以下の①～⑤のような者。

- ① 消費生活専門相談員、消費生活アドバイザー又は消費生活コンサルタントの資格を有する者
- ② 社会福祉士の資格を有する者
- ③ 社会保険労務士の資格を有する者
- ④ ファイナンシャルプランナーの資格を有する者
- ⑤ 上記①～④に掲げる者同等の能力または実務経験を有する者

※受講者は選考を行い決定します。選考は下記に基づいて行われます。

「生活困窮者自立支援制度人材養成研修事業の実施について」（平成27年4月9日付厚生労働省社会・援護局長通知）

「生活困窮者自立支援制度人材養成研修の開催について」（平成27年5月12日付厚生労働省事務連絡）

### 4 研修の受講定員

1回あたり 40名

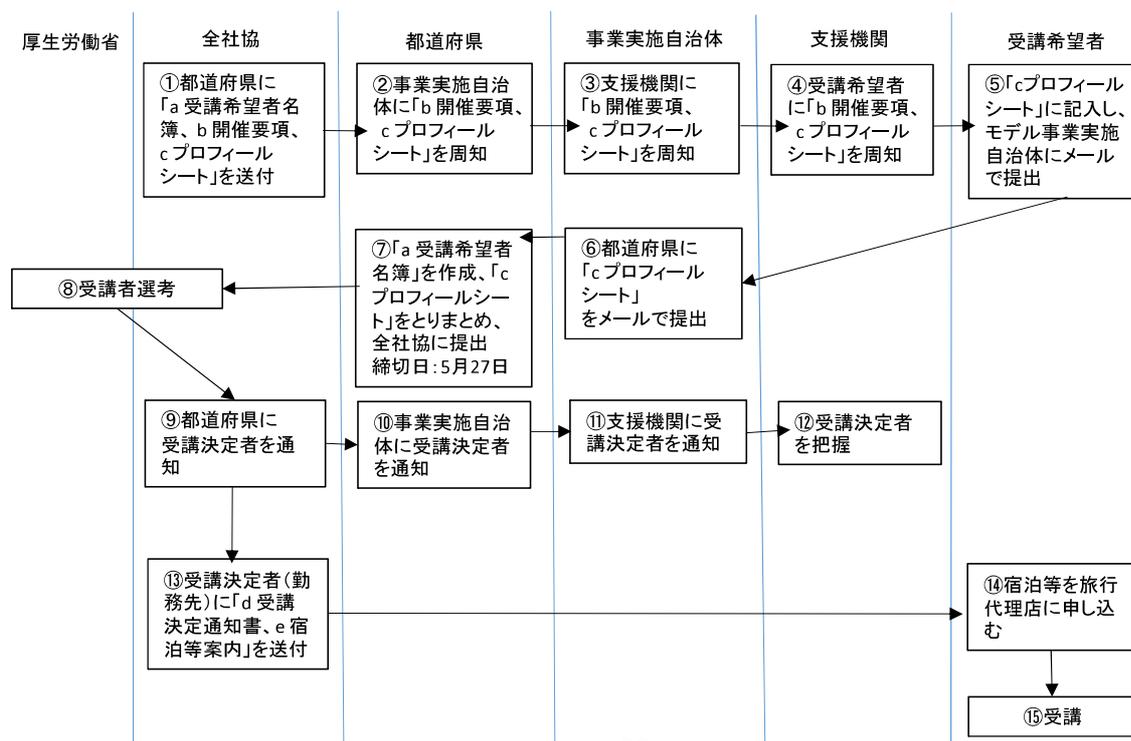
### 5 テキストおよびノートパソコン

(1) 有償の書籍をテキストとして使用することは予定しておりません。

(2) 第3日目、第4日目においてノートパソコン（Microsoft Word、Microsoft Excel を使用）を使用します。持参できない方には、レンタルサービスを提供する予定です。

※詳細は受講決定通知にてご案内いたします。

### 6 申込みから受講までの流れ



## 7 修了証書の交付

- (1) 所定の修了要件を満たした方には「修了証書」を交付します。
- (2) 修了要件は以下のとおりです。
- ①すべての科目に出席すること。
  - ②事前課題及び事後課題を提出すること。
- (3) 修了証書は、研修終了時に受講者本人にお渡しします。
- (4) 都道府県には、厚生労働省から修了者名簿をお送りします。

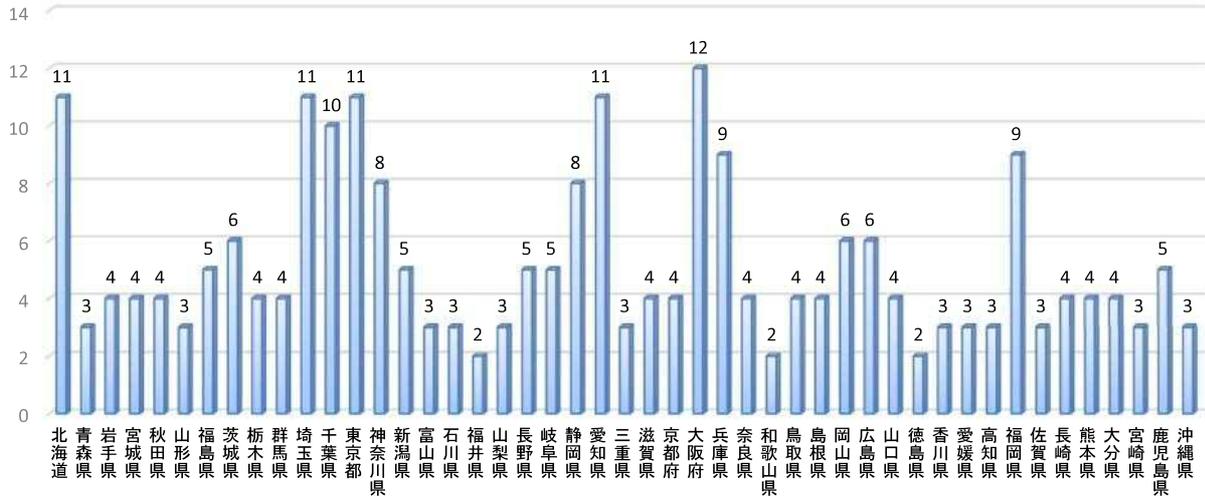
### ◆全研修の受講者数と修了者数

	主任相談 支援員 養成研修	相談 支援員 養成研修	就労 支援員 養成研修	就労準備 支援事業 従事者 養成研修	家計相談 支援事業 従事者 養成研修	合計
受講者数	247名	240名	231名	117名	141名	976名
修了者数	241名 <small>(講師5名含む)</small>	234名	217名	119名 <small>(講師2名含む)</small>	227名 <small>(講師8名・特例措置79名含む)</small>	1038名

※受講者数の定義 受講決定通知を発行した人数

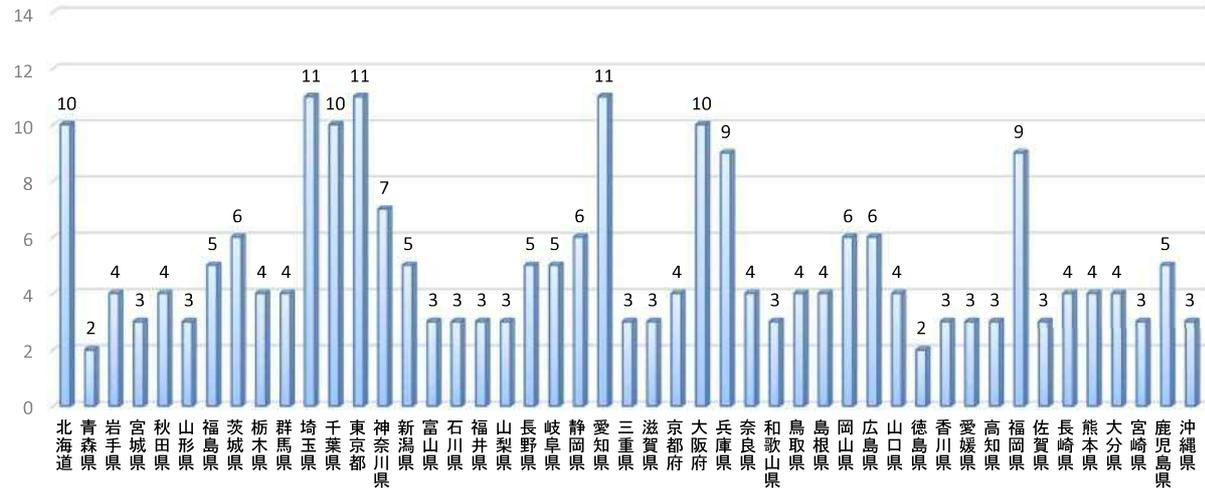
主任相談支援員養成研修 都道府県別 修了者数

修了者241名／受講者247名



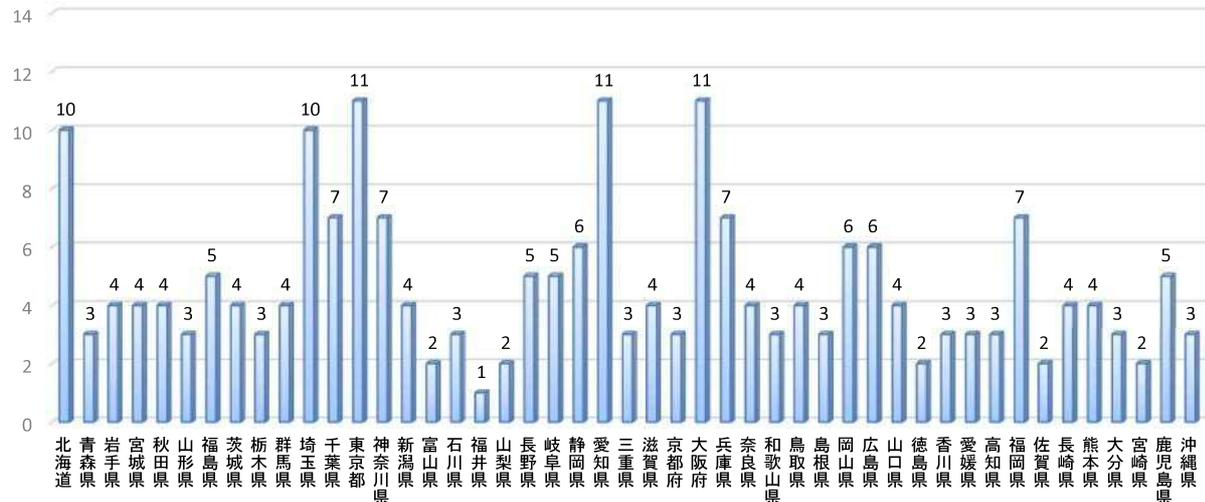
相談支援員養成研修 都道府県別 修了者数

修了者234名／受講者240名



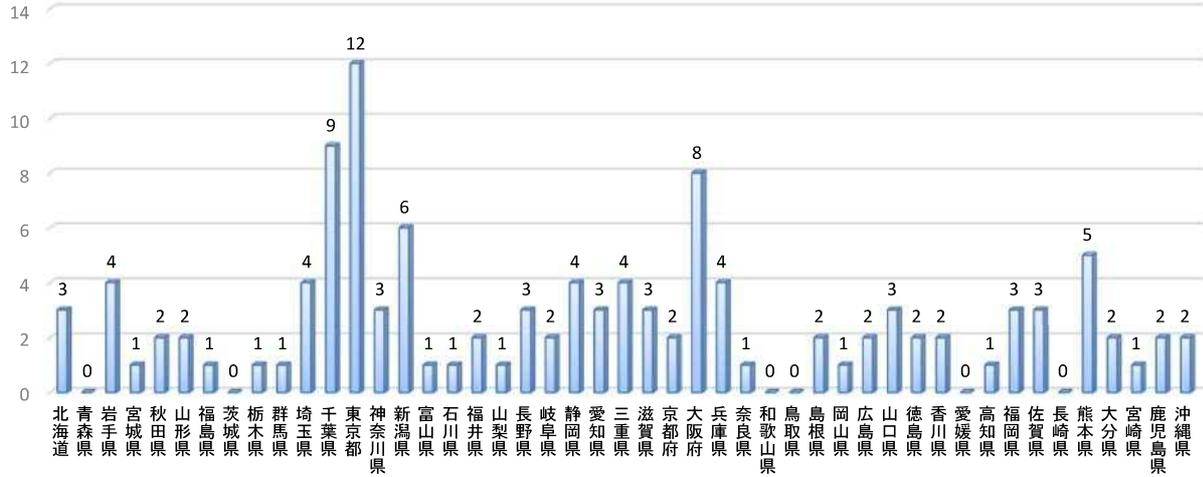
就労支援員養成研修 都道府県別 修了者数

修了者217名／受講者231名



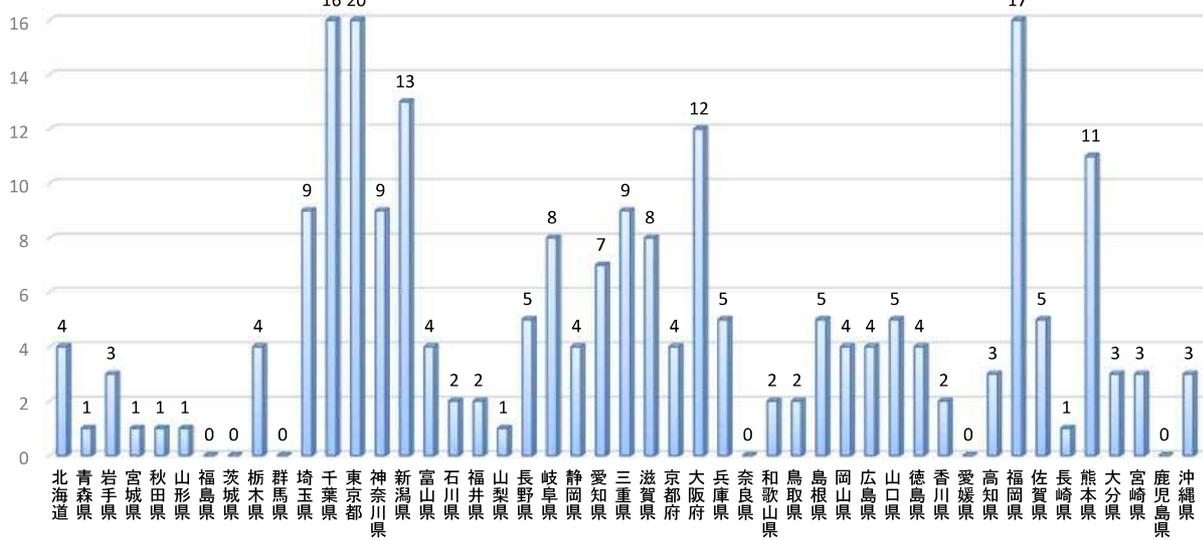
就労準備支援事業従事者養成研修 都道府県別 修了者数

修了者119名／受講者117名



家計相談支援事業従事者養成研修 都道府県別 修了者数

修了者227名／受講者141名



◆全研修の修了者の傾向

平成27年度  
自立相談支援事業従事者養成研修  
主任相談支援員養成研修  
修了者の状況

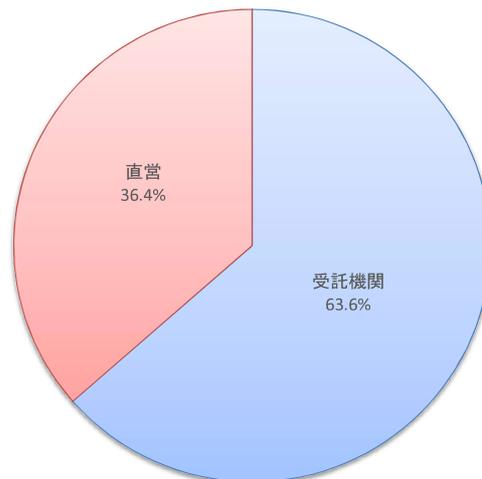
平成27年度 主任相談支援員養成研修 修了者の割合

	人数
受託機関	150
直営	86
計	236

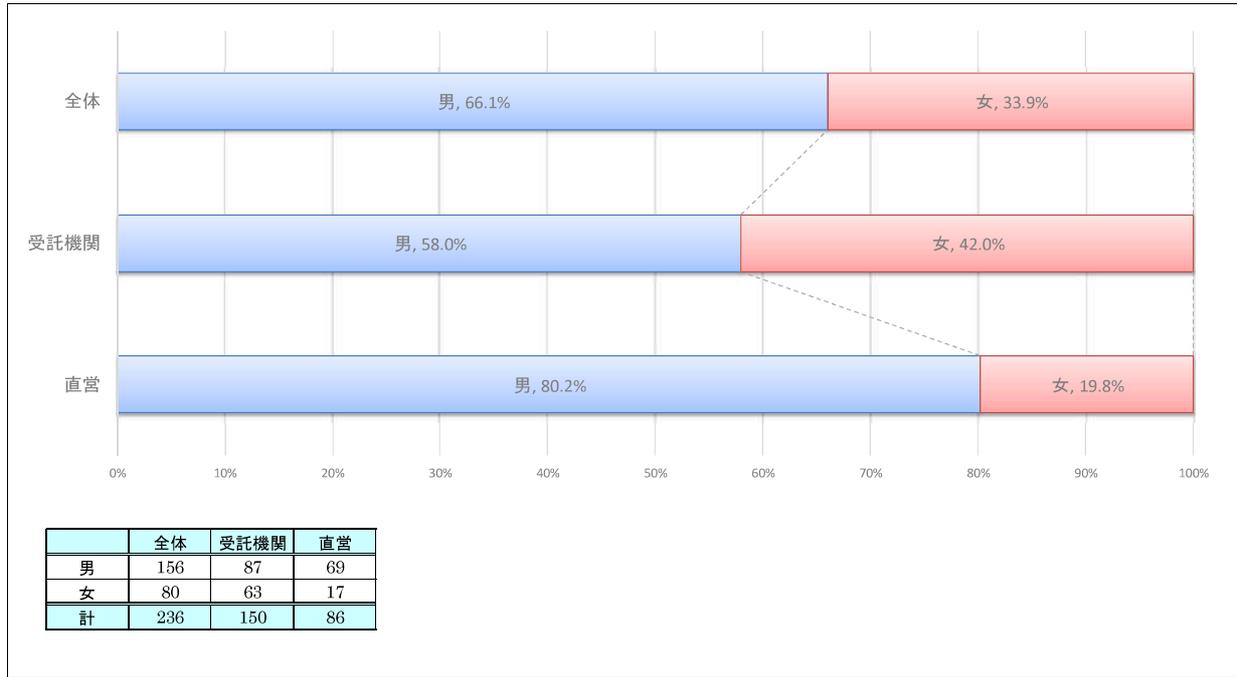
うち

前期免除者	8
-------	---

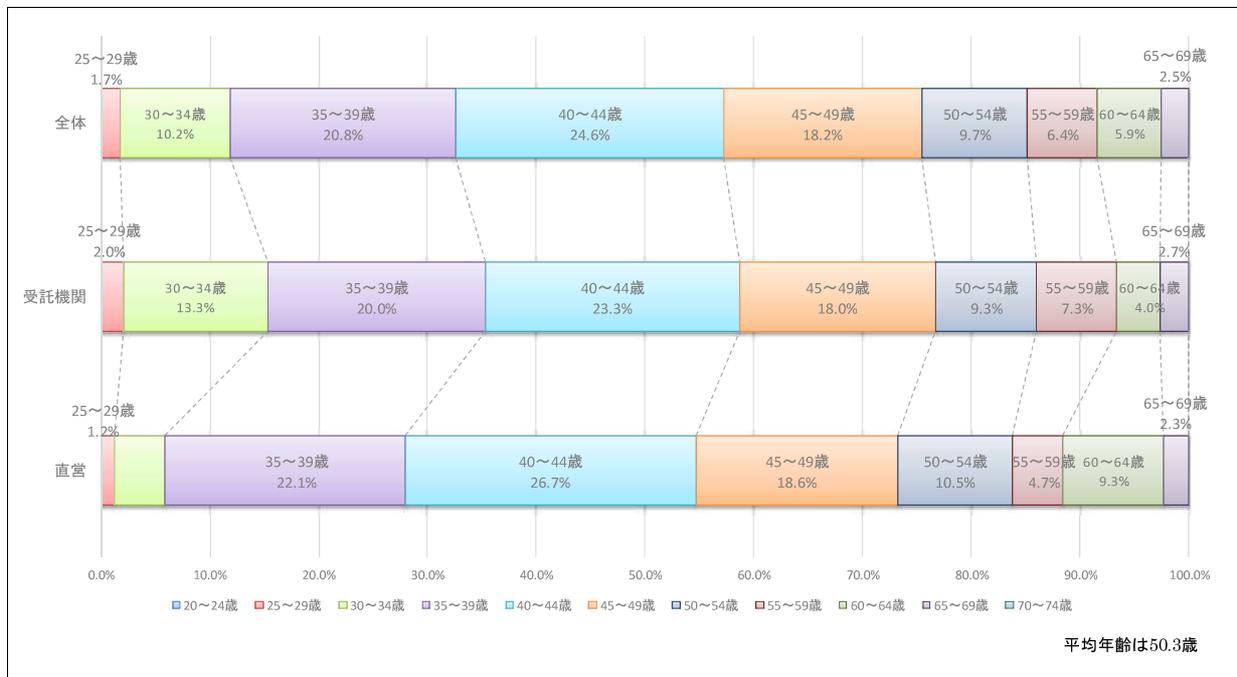
※受託機関150のうち  
社協は114(約76.0%)  
となっている。



## 平成27年度 主任相談支援員養成研修 修了者の男女比



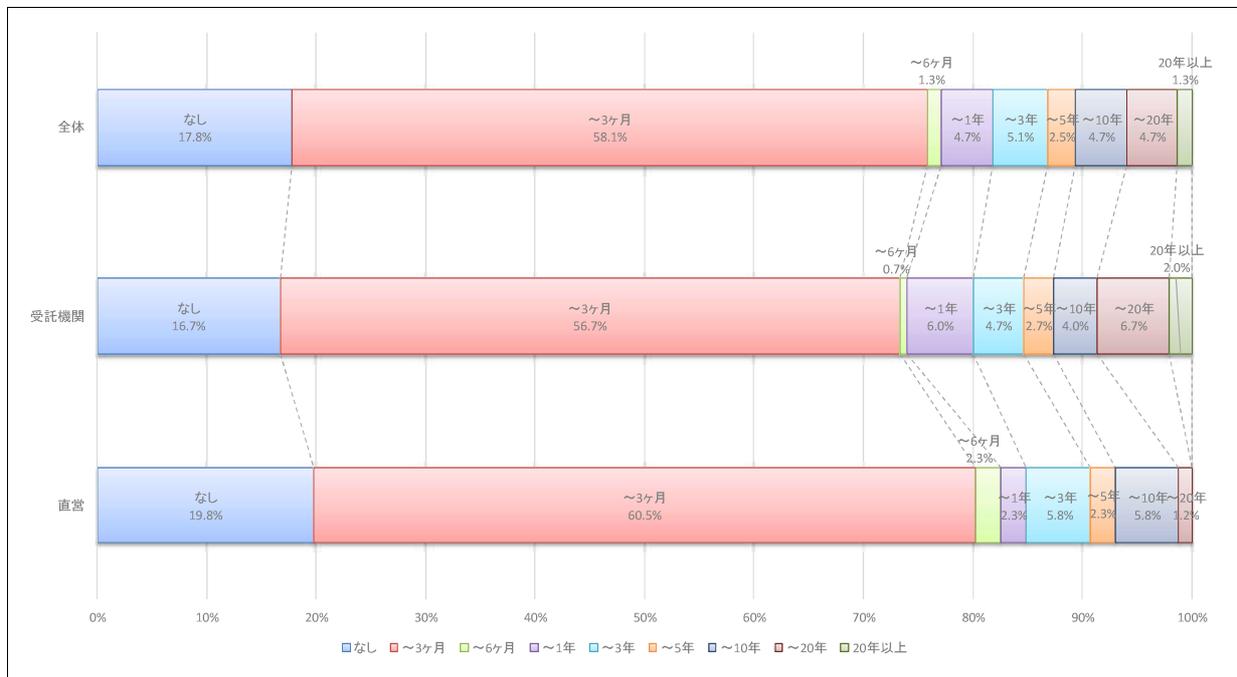
## 平成27年度 主任相談支援員養成研修 修了者の年齢構成



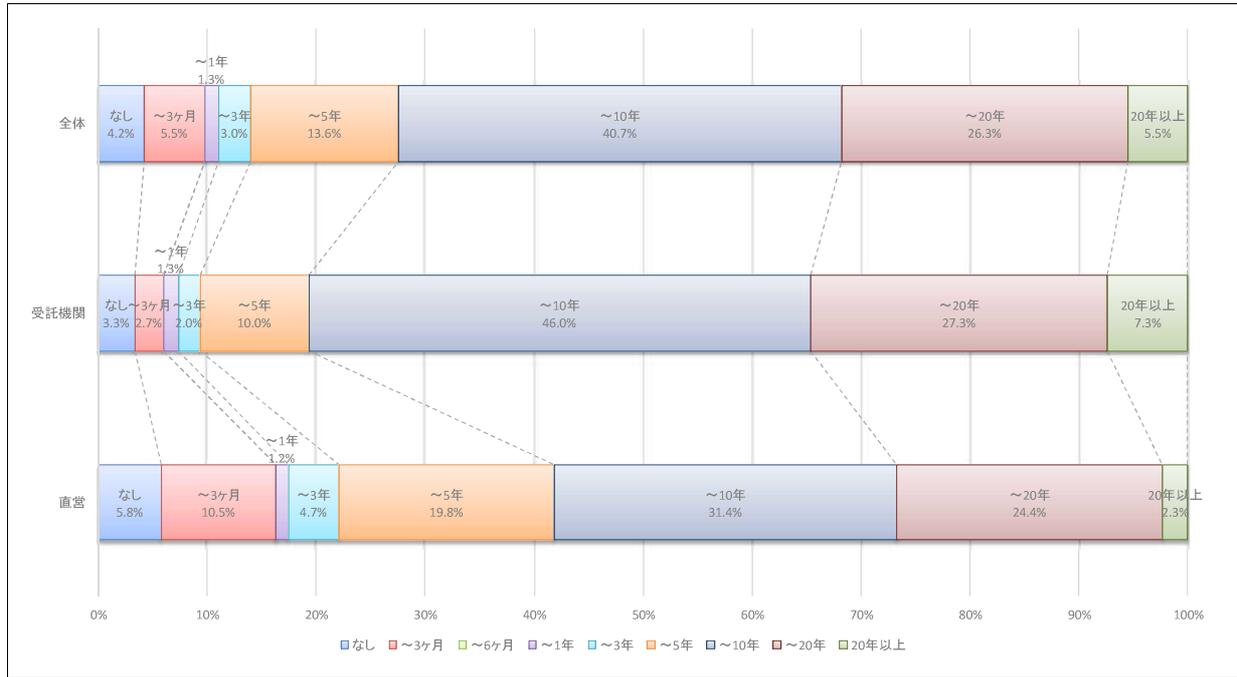
## 平成27年度 主任相談支援員養成研修 修了者の勤務形態



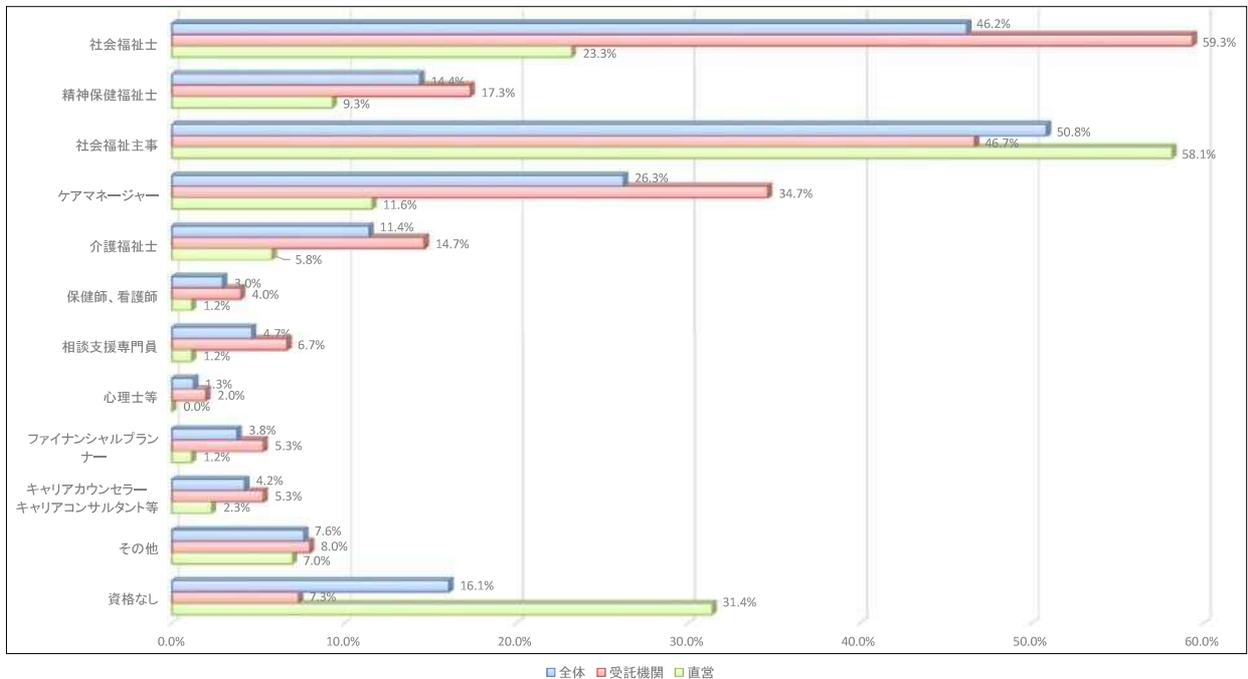
## 平成27年度 主任相談支援員養成研修 修了者の現職経験年数



### 平成27年度 主任相談支援員養成研修 修了者の相談就労支援通算経験年数



### 平成27年度 主任相談支援員養成研修 修了者の資格保有状況



# 平成27年度 自立相談支援事業従事者養成研修

## 相談支援員養成研修 修了者の状況

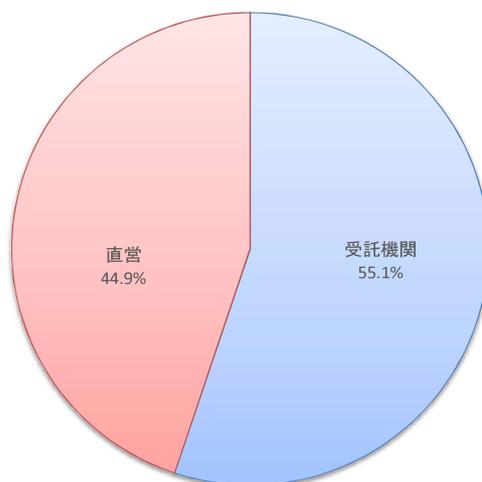
### 平成27年度 相談支援員養成研修 修了者の割合

	人数
受託機関	129
直営	105
計	234

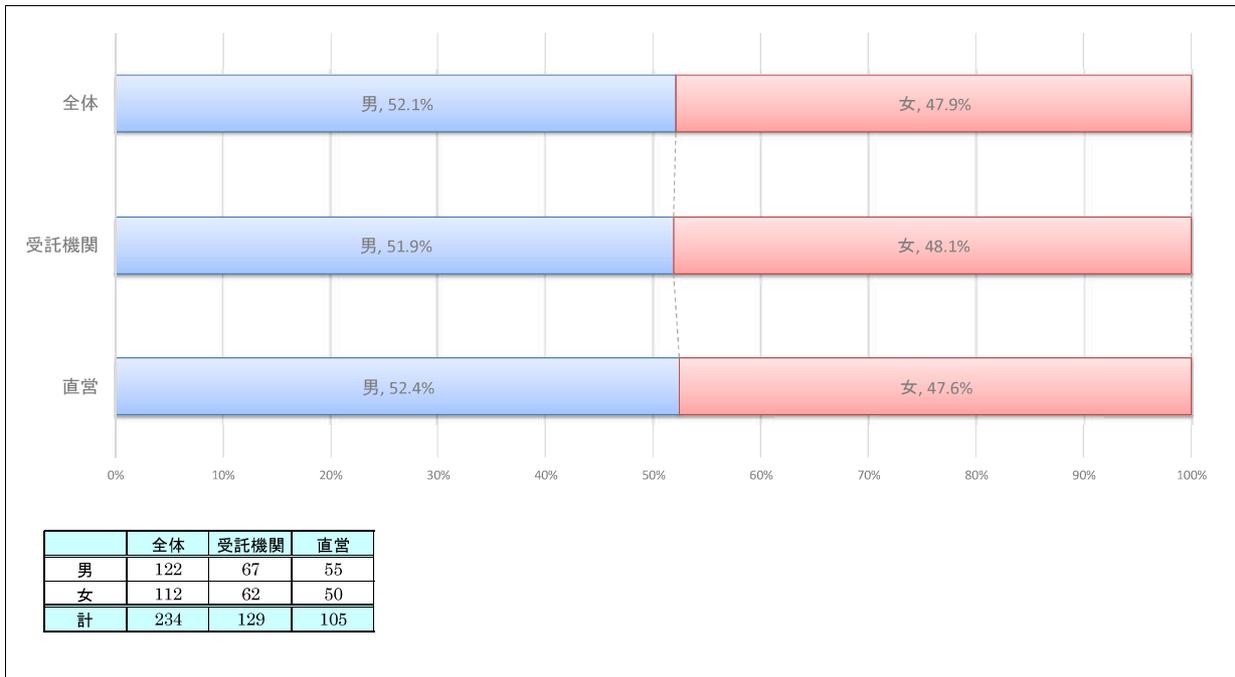
うち

前期免除者	3
-------	---

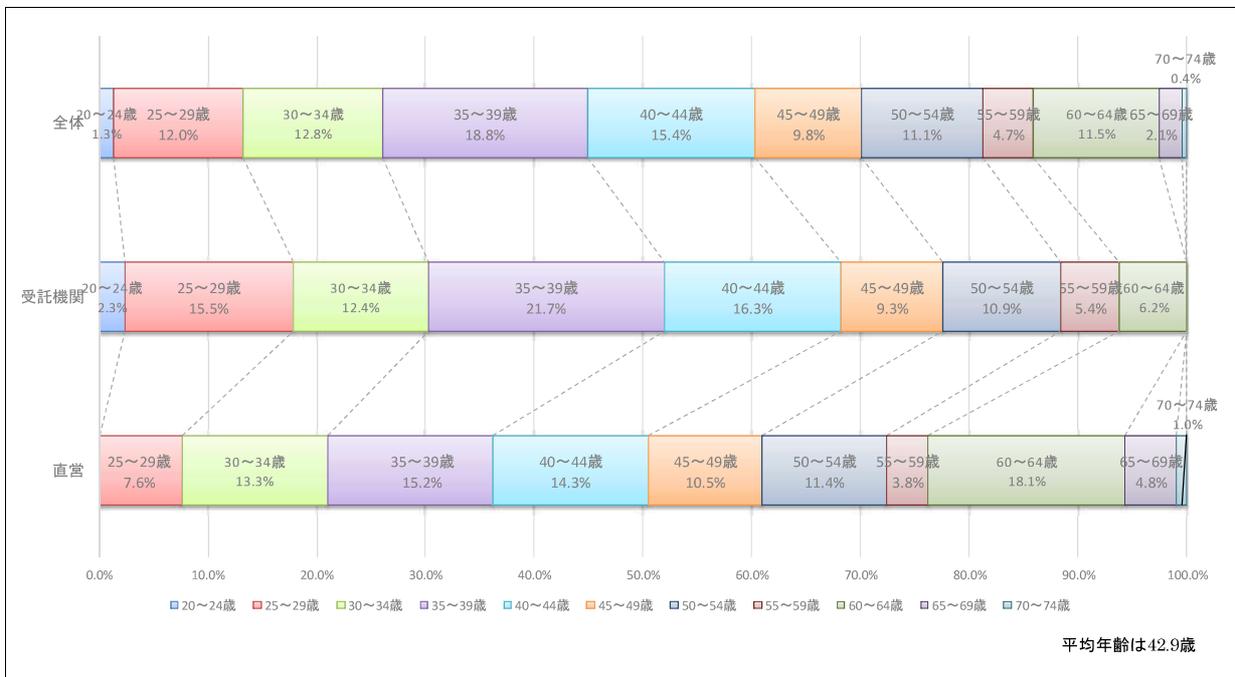
※受託機関129のうち  
社協は96(約74.4%)  
となっている。



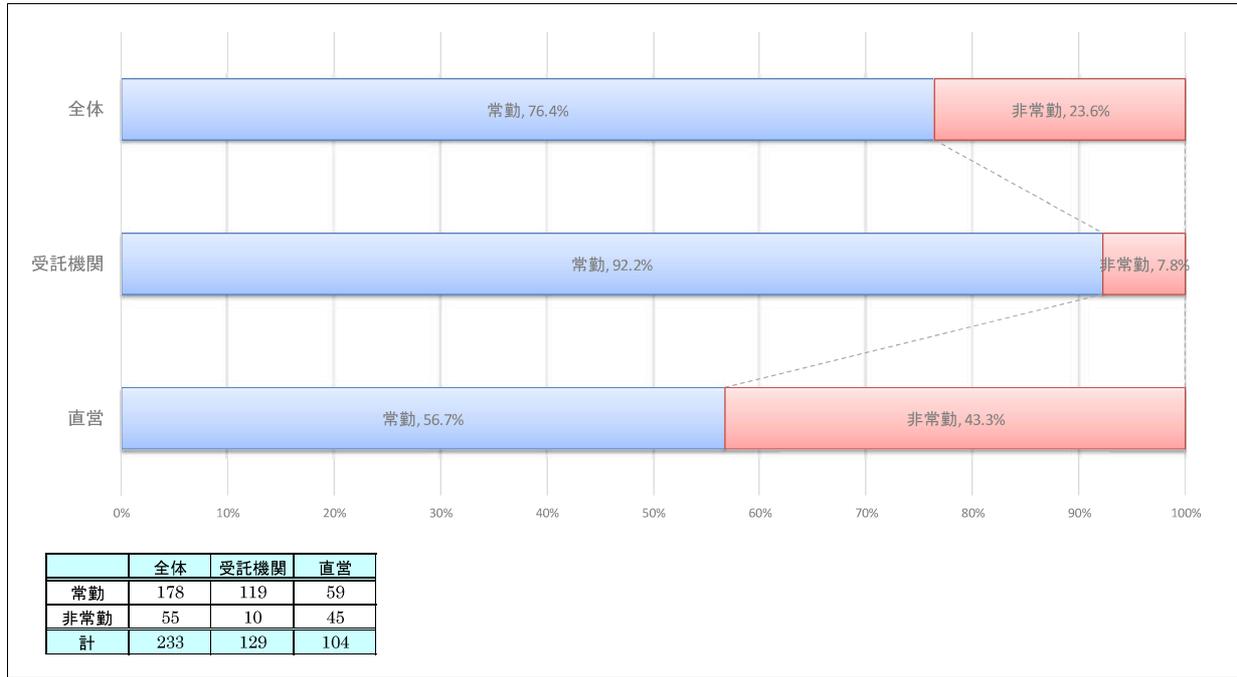
## 平成27年度 相談支援員養成研修 修了者の男女比



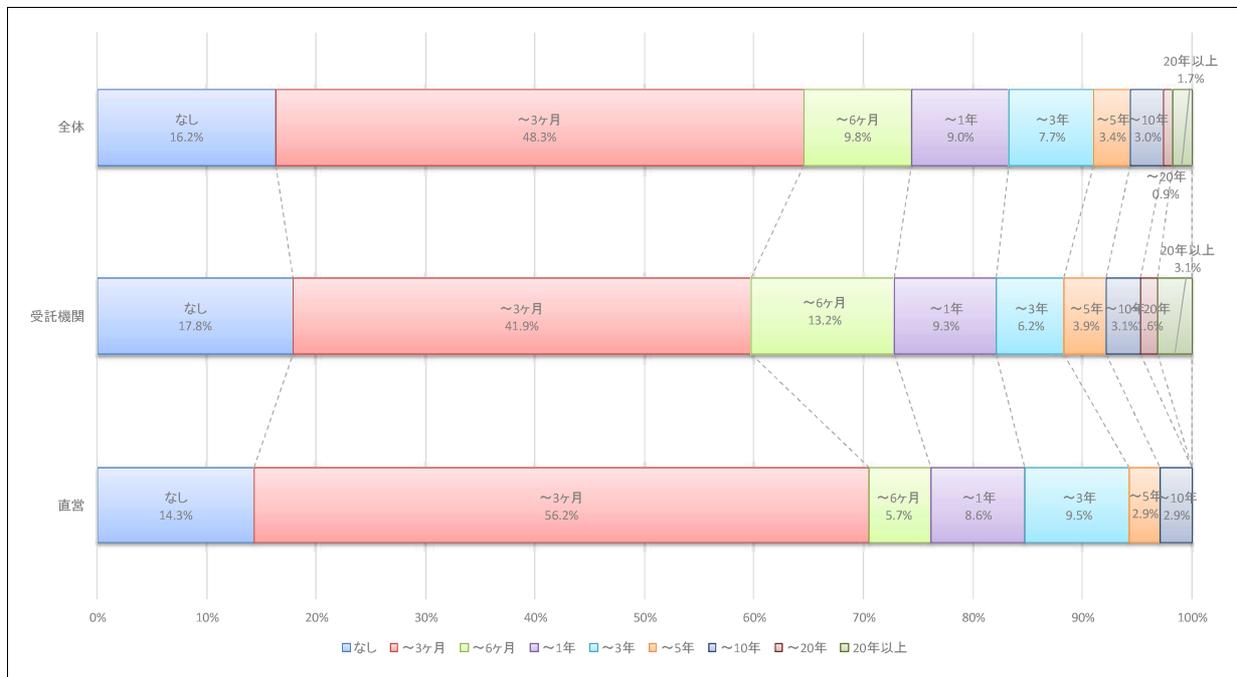
## 平成27年度 相談支援員養成研修 修了者の年齢構成



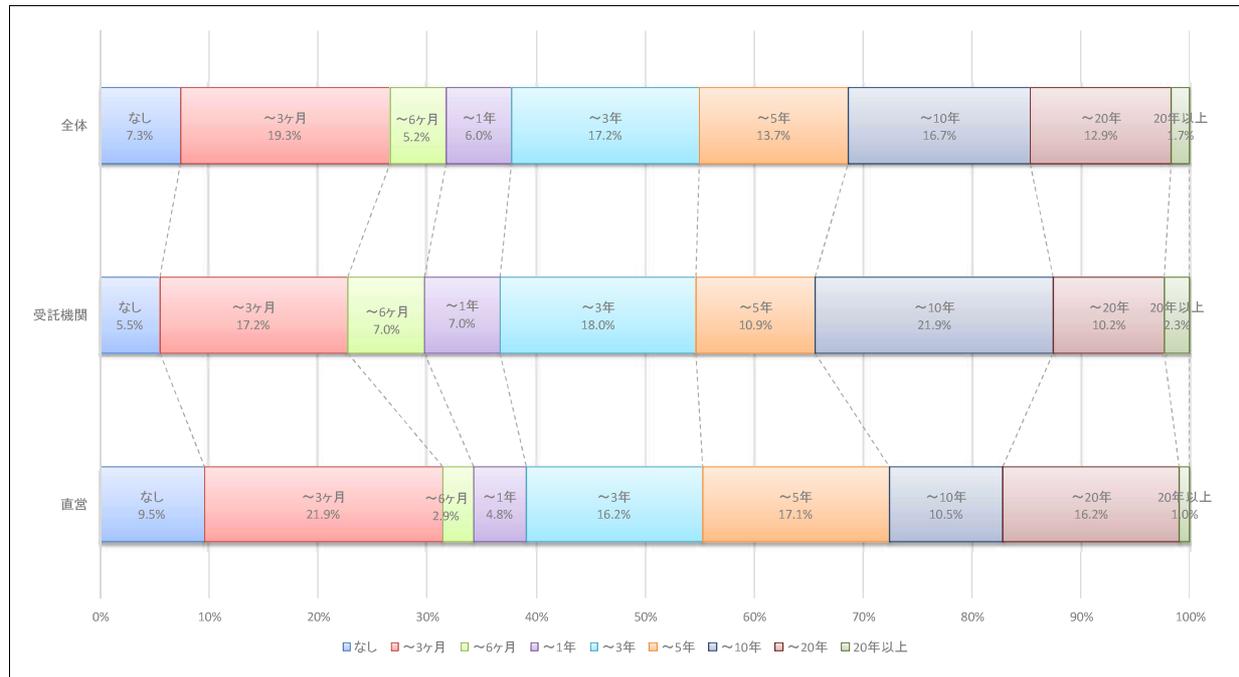
## 平成27年度 相談支援員養成研修 修了者の勤務形態



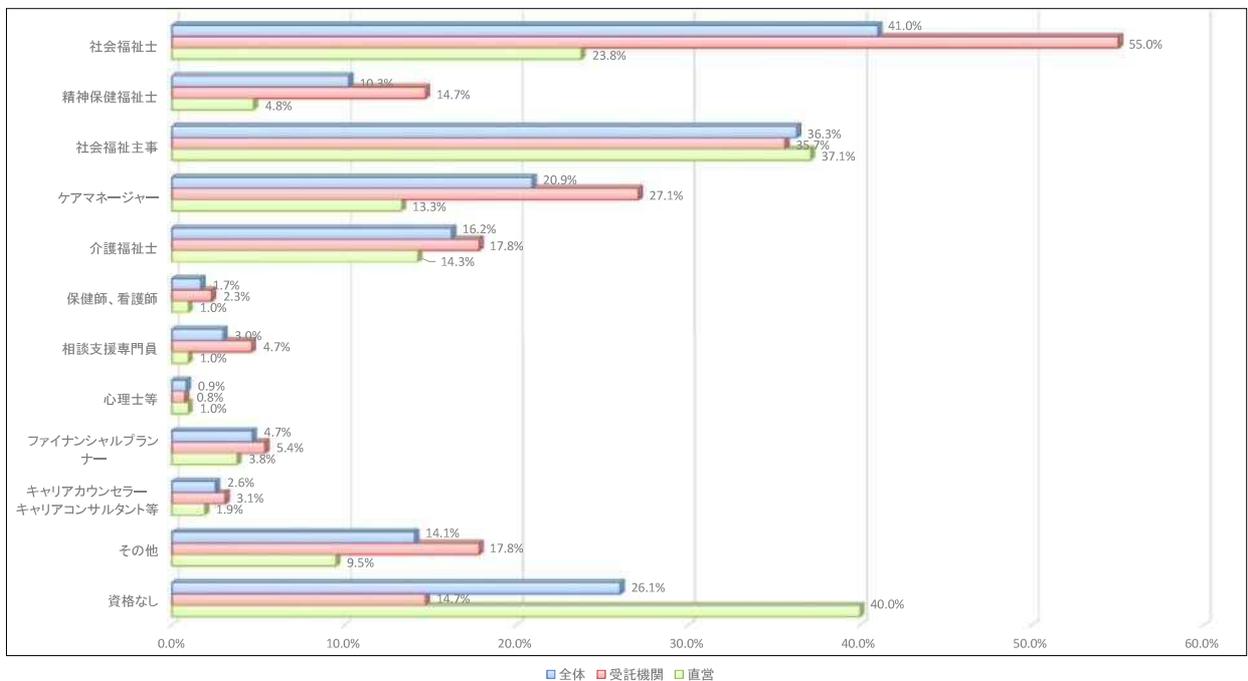
## 平成27年度 相談支援員養成研修 修了者の現職経験年数



## 平成27年度 相談支援員養成研修 修了者の相談就労支援通算経験年数



## 平成27年度 相談支援員養成研修 修了者の資格保有状況



# 平成27年度 自立相談支援事業従事者養成研修

## 就労支援員養成研修 修了者傾向

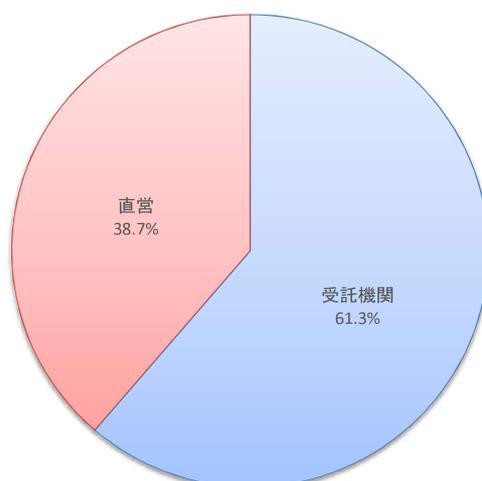
### 平成27年度 就労支援員養成研修 修了者の割合

	人数
受託機関	133
直営	84
計	217

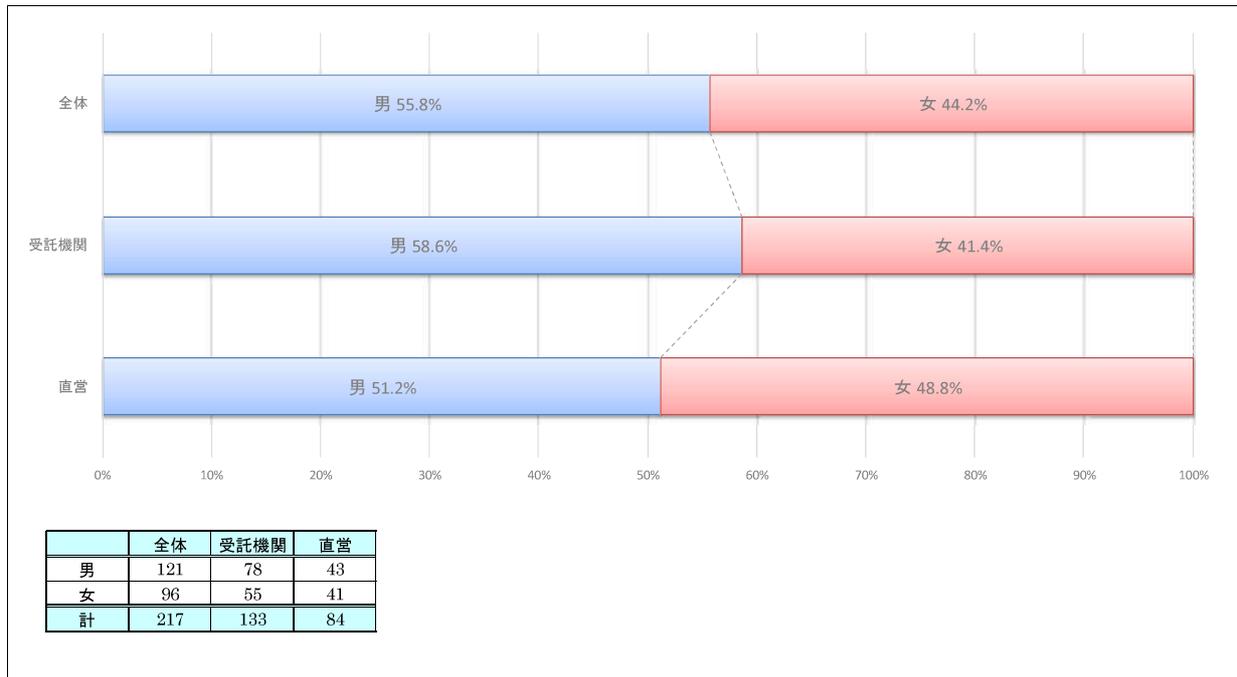
うち

前期免除者	8
-------	---

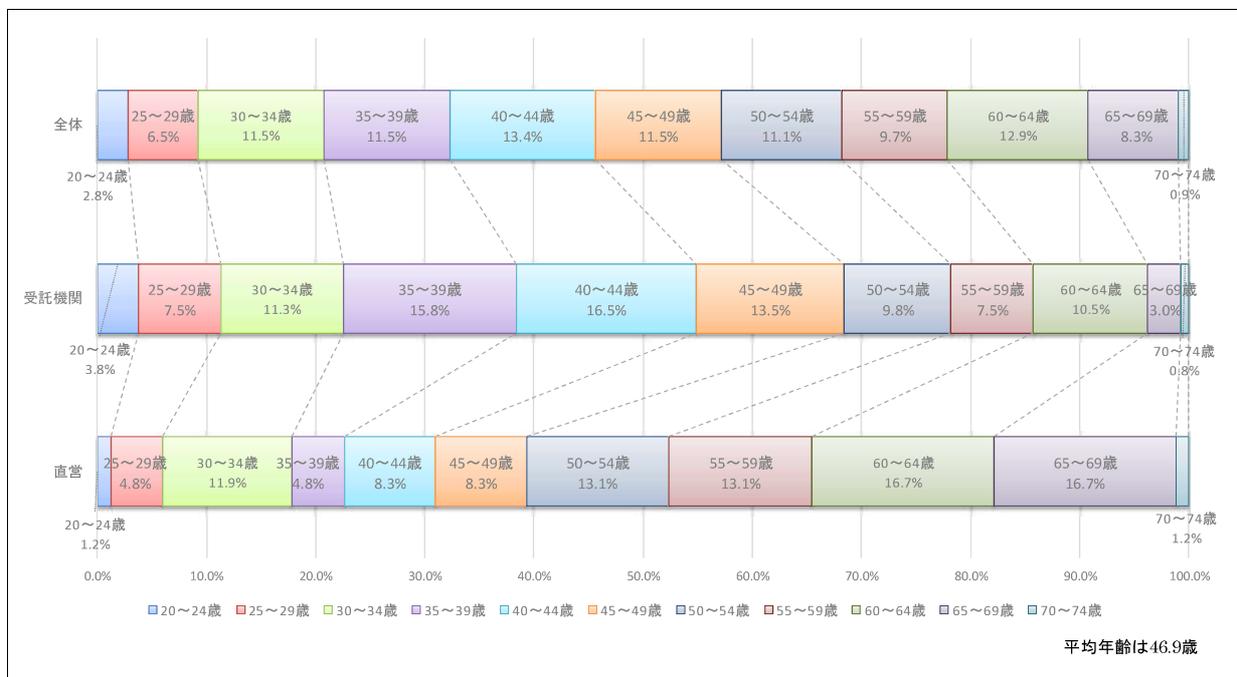
※受託機関133のうち  
社協は94(約70.7%)  
となっている。



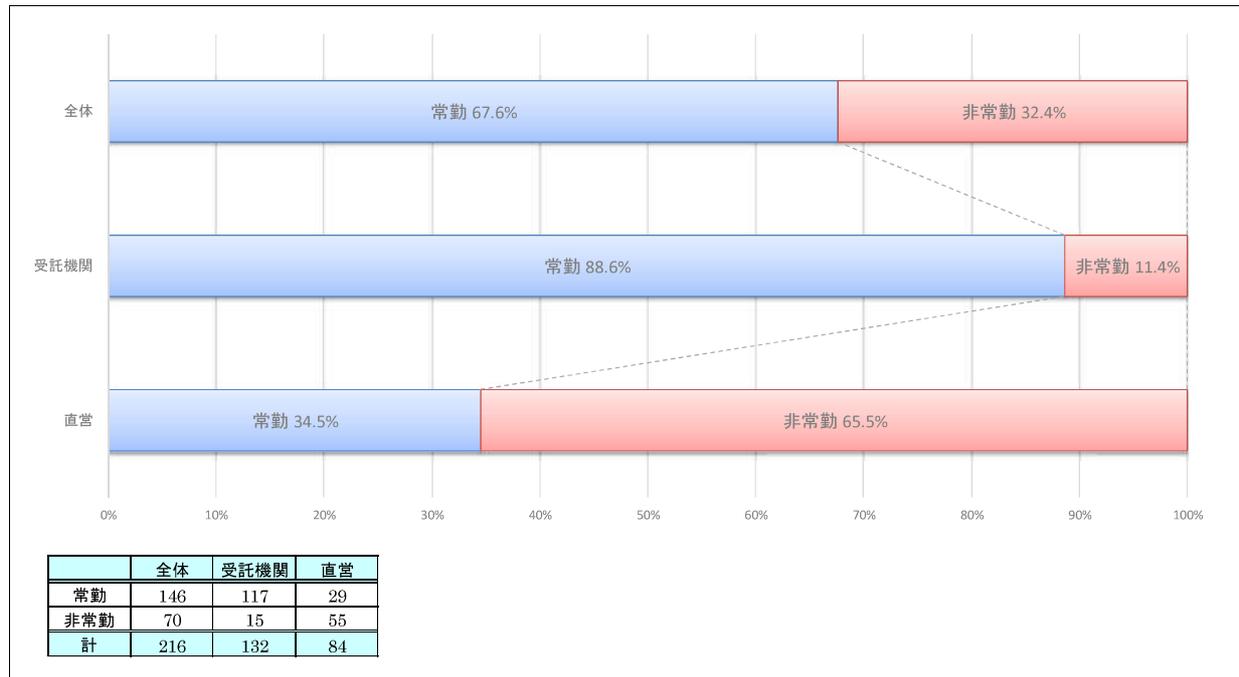
## 平成27年度 就労支援員養成研修 修了者の男女比



## 平成27年度 就労支援員養成研修 修了者の年齢構成



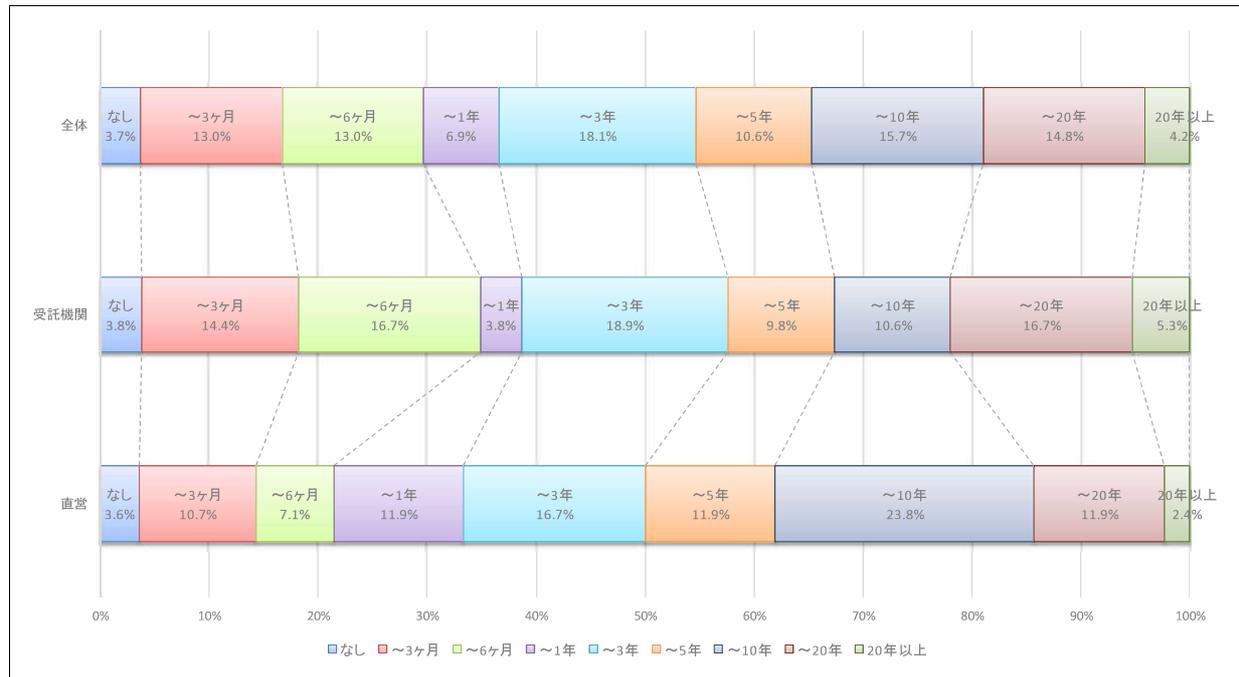
## 平成27年度 就労支援員養成研修 修了者の勤務形態



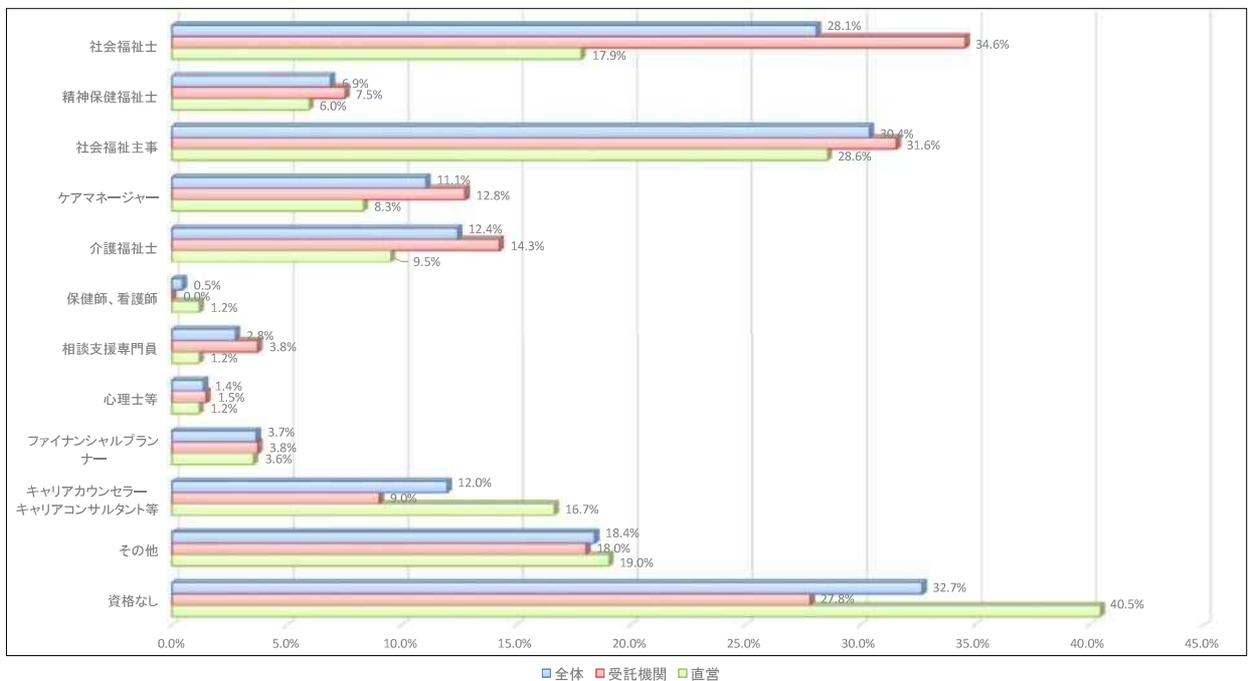
## 平成27年度 就労支援員養成研修 修了者の現職経験年数



## 平成27年度 就労支援員養成研修 修了者の相談就労支援通算経験年数



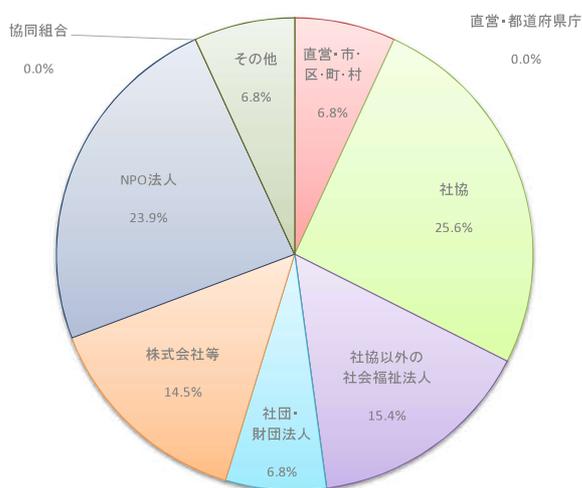
## 平成27年度 就労支援員養成研修 修了者の資格保有状況



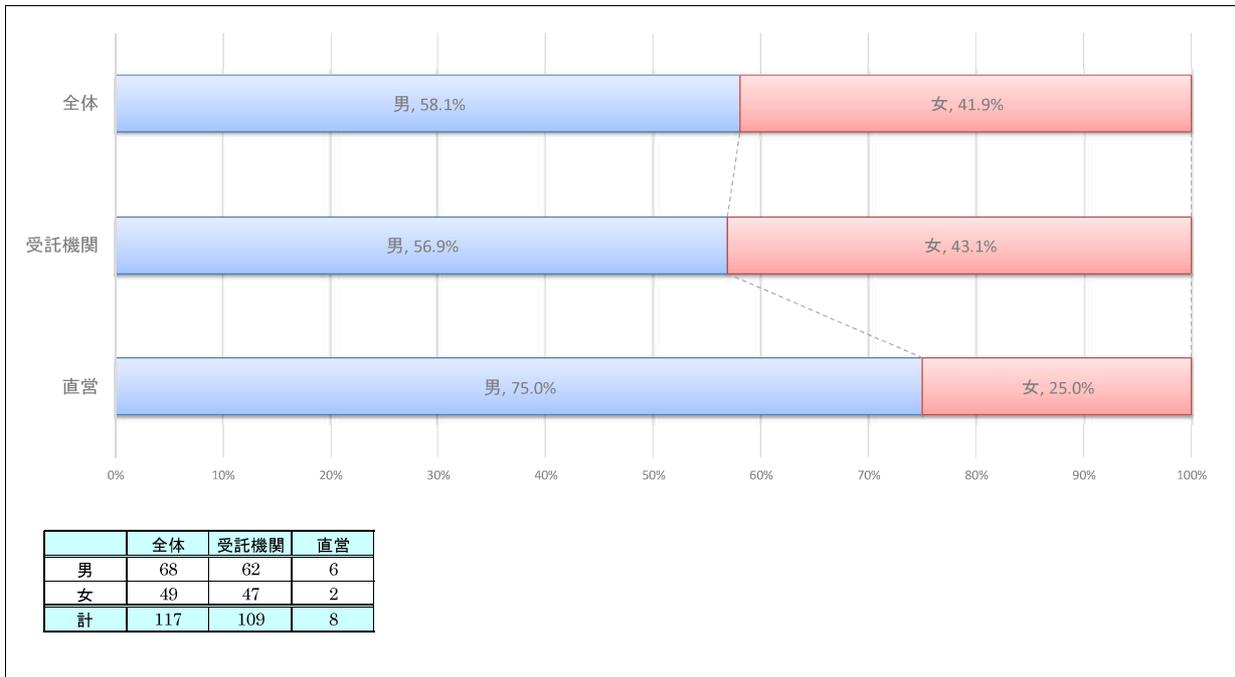
# 平成27年度 就労準備支援事業従事者養成研修 修了者の状況

平成27年度 就労準備支援事業従事者養成研修 修了者の割合

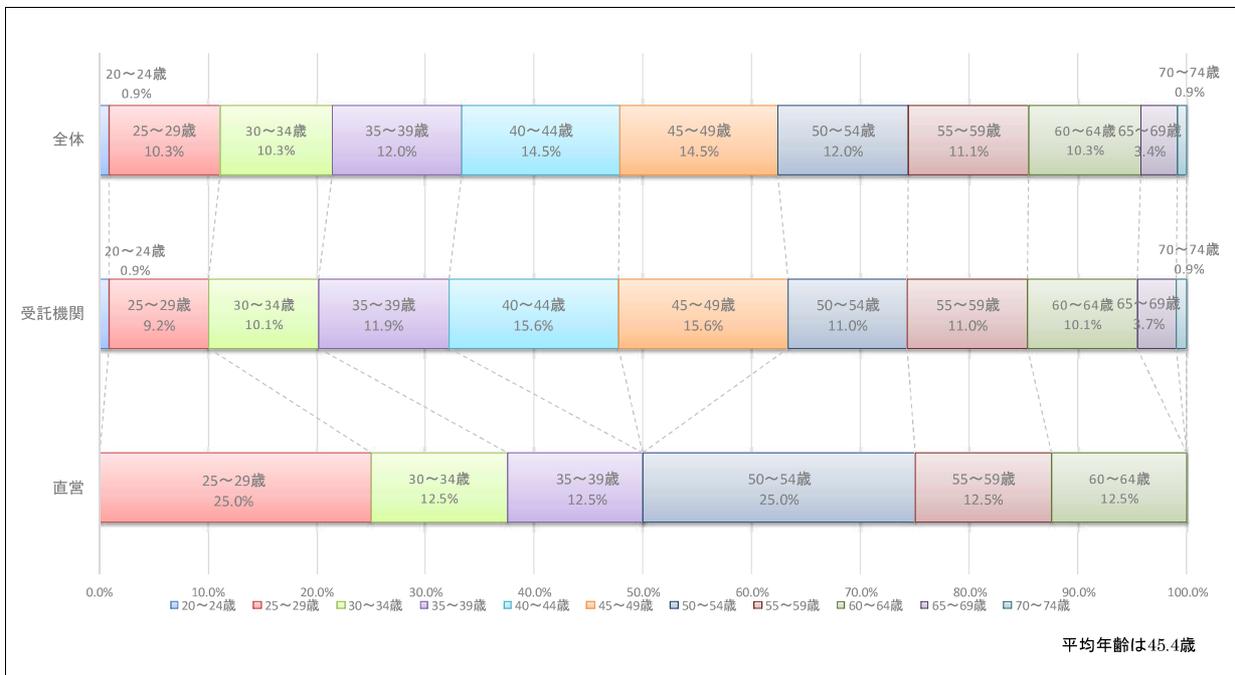
	人数
直営・都道府県庁	0
直営・市・区・町・村	8
社協	30
社協以外の社会福祉法人	18
社団・財団法人	8
株式会社等	17
NPO法人	28
協同組合	0
その他	8
計	117



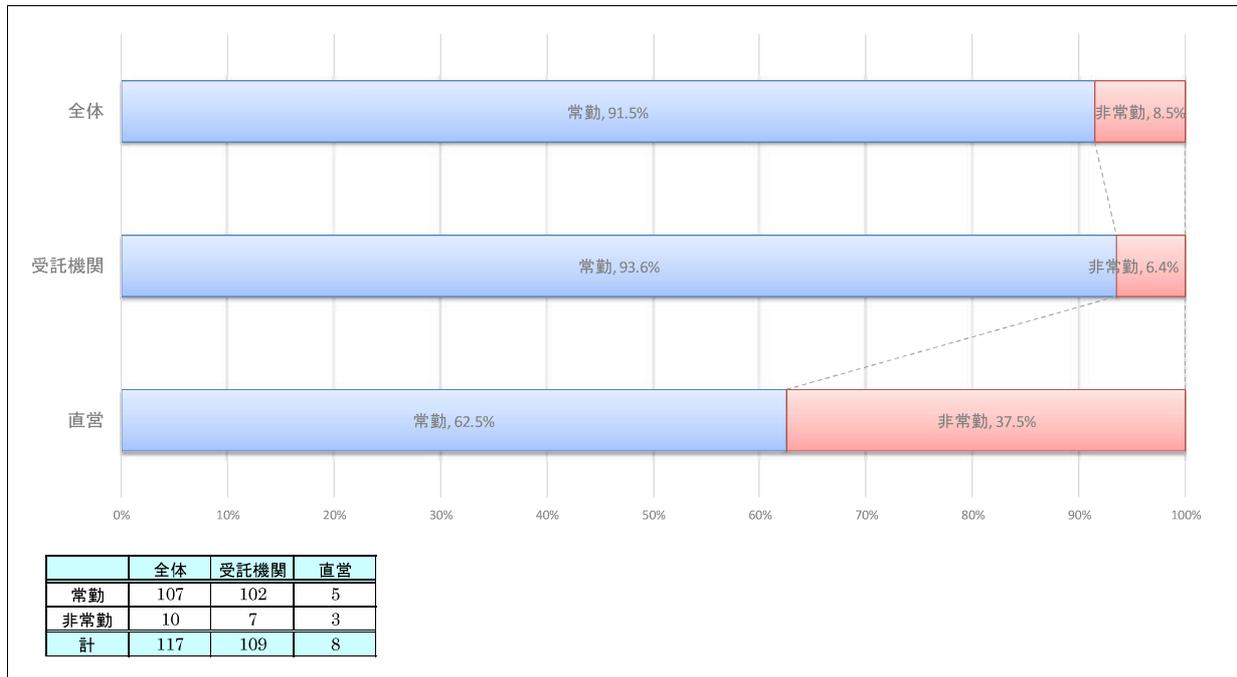
## 平成27年度 就労準備支援事業従事者養成研修 修了者の男女比



## 平成27年度 就労準備支援事業従事者養成研修 修了者の年齢構成



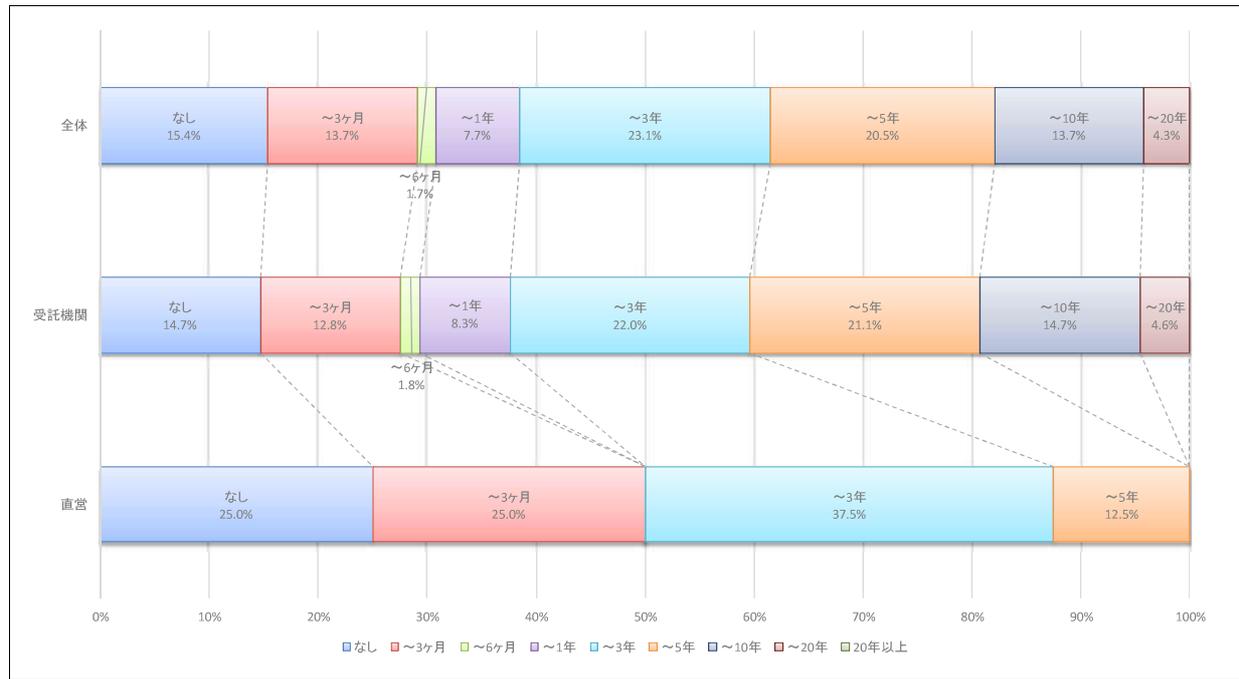
## 平成27年度 就労準備支援事業従事者養成研修 修了者の勤務形態



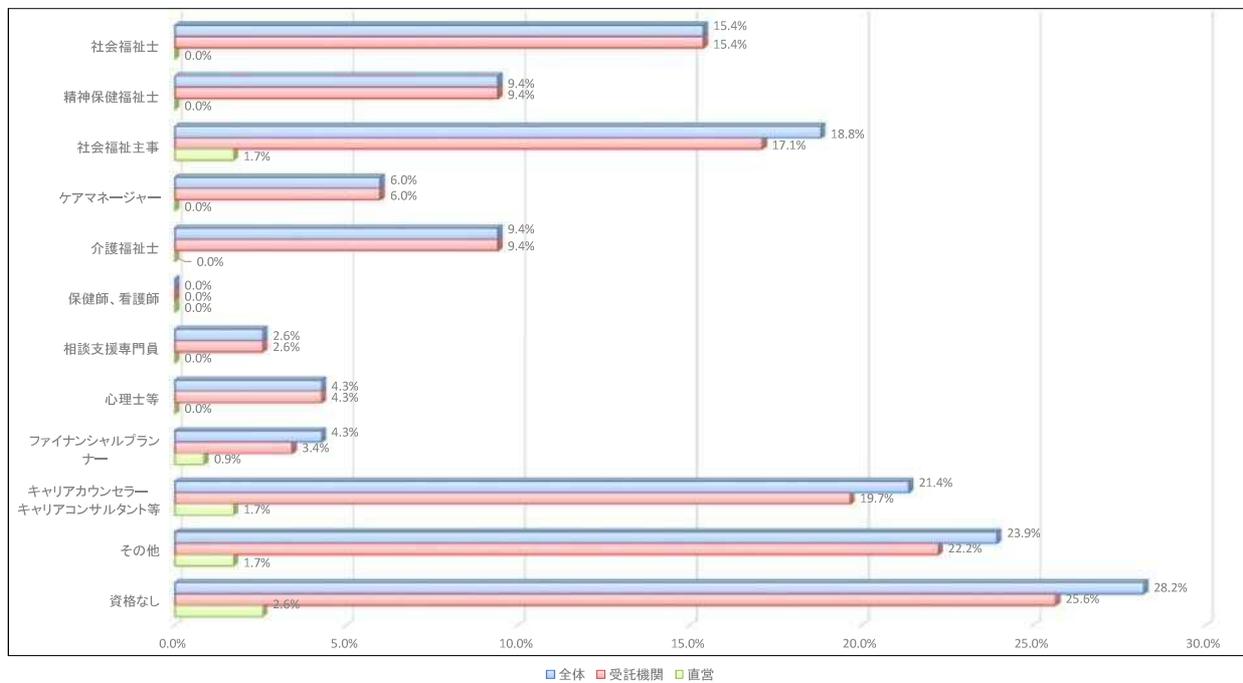
## 平成27年度 就労準備支援事業従事者養成研修 修了者の現職経験年数



平成27年度 就労準備支援事業従事者養成研修 修了者の相談就労支援通算経験年数



平成27年度 就労準備支援事業従事者養成研修 修了者の資格保有状況



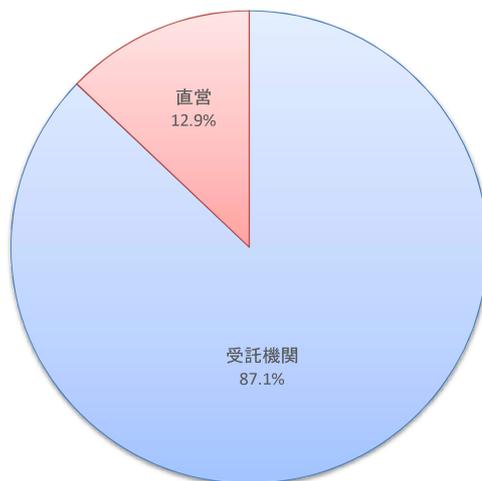
# 平成27年度 家計相談支援事業従事者養成研修 【第1.2.3回】

## 修了者の傾向

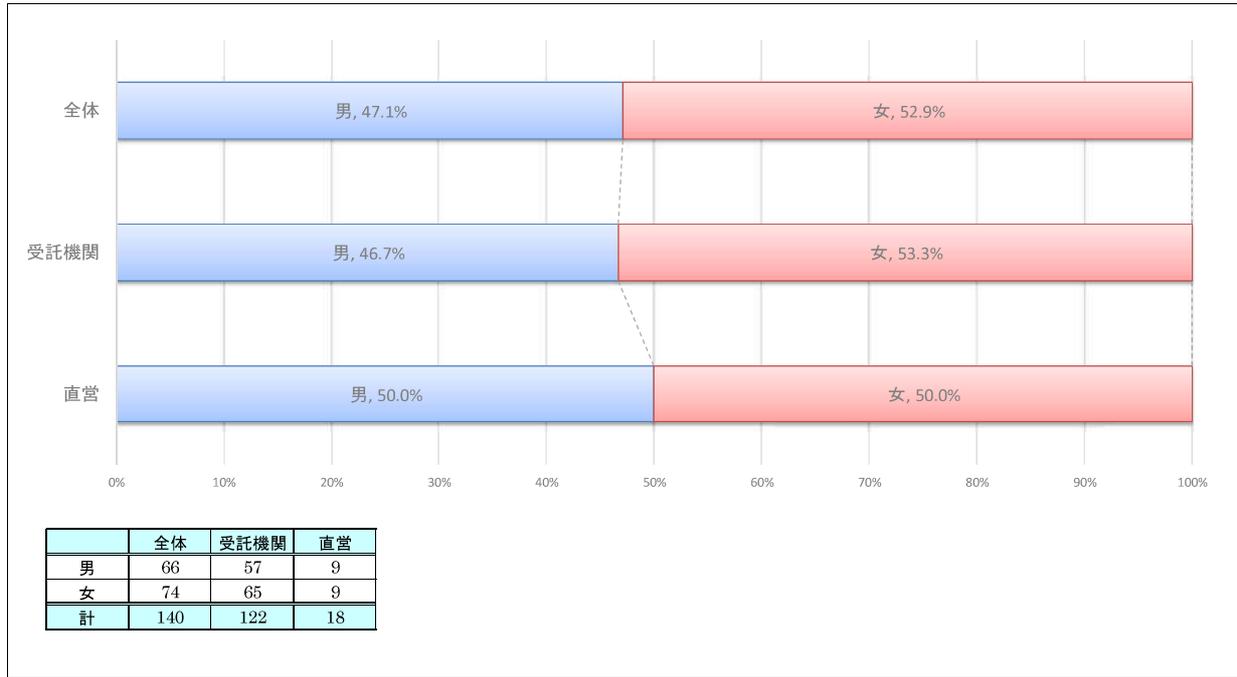
### 平成27年度 家計相談支援事業従事者養成研修 修了者の割合

	人数
受託機関	122
直営	18
計	140

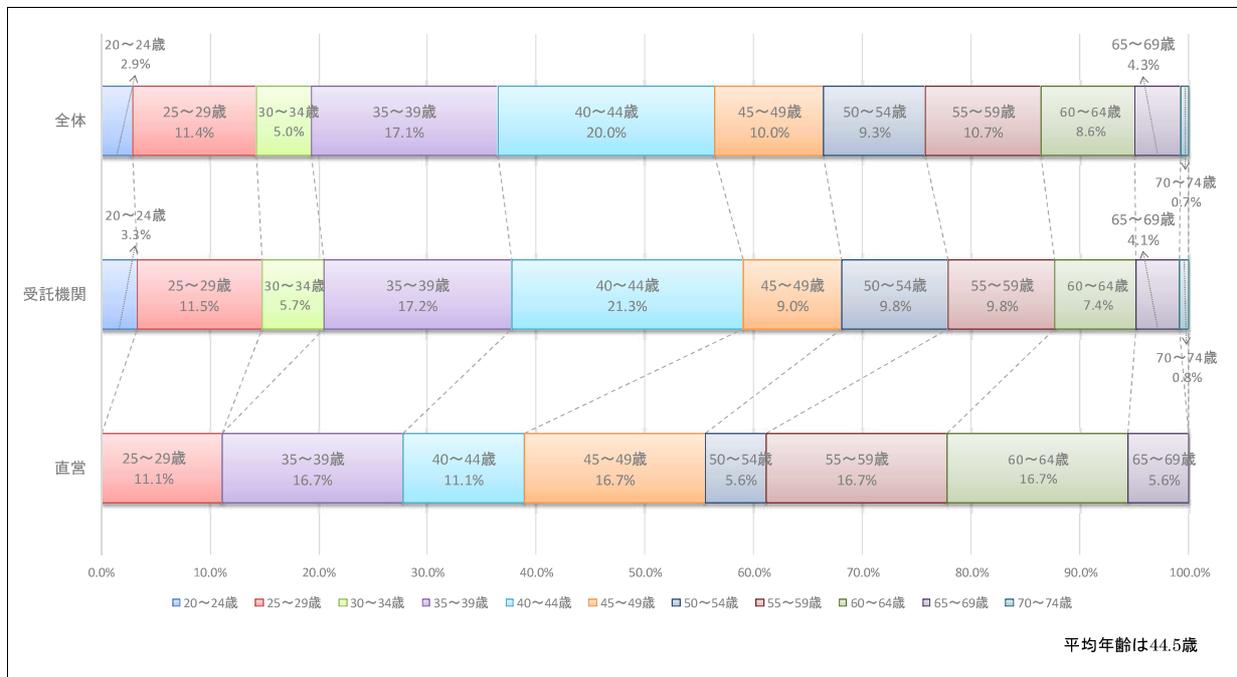
※受託機関122のうち  
社協は93(76.2%)  
となっている。



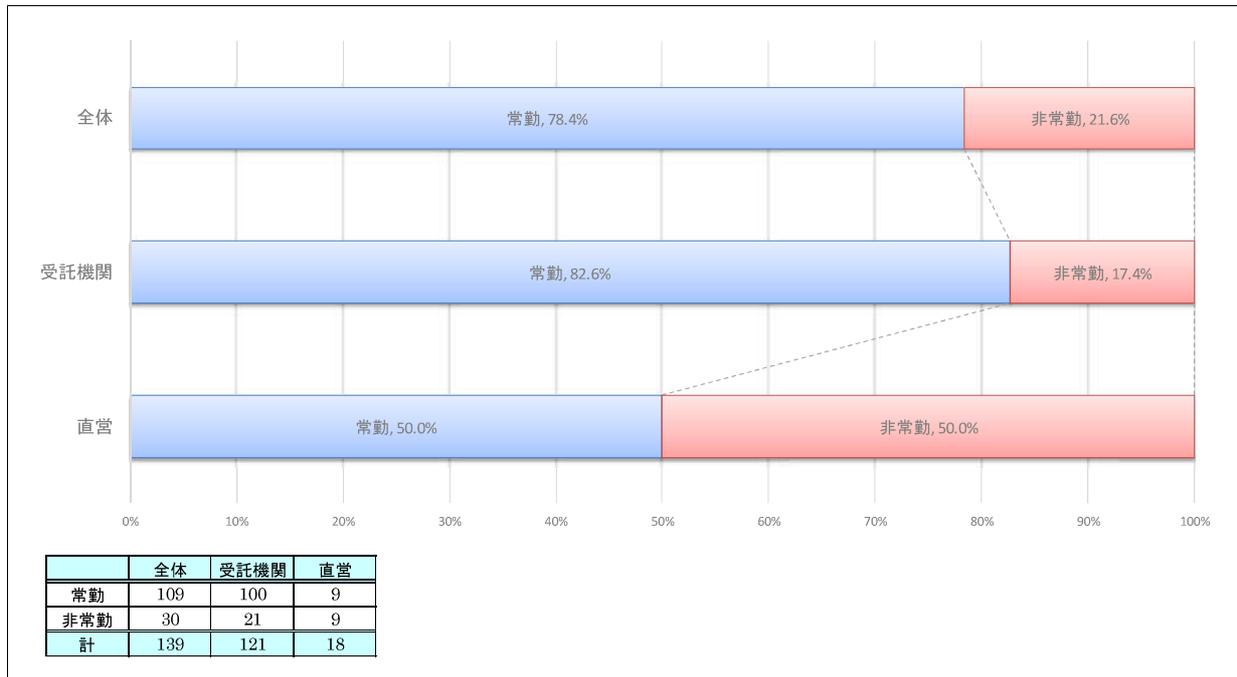
## 平成27年度 家計相談支援事業従事者養成研修 修了者の男女比



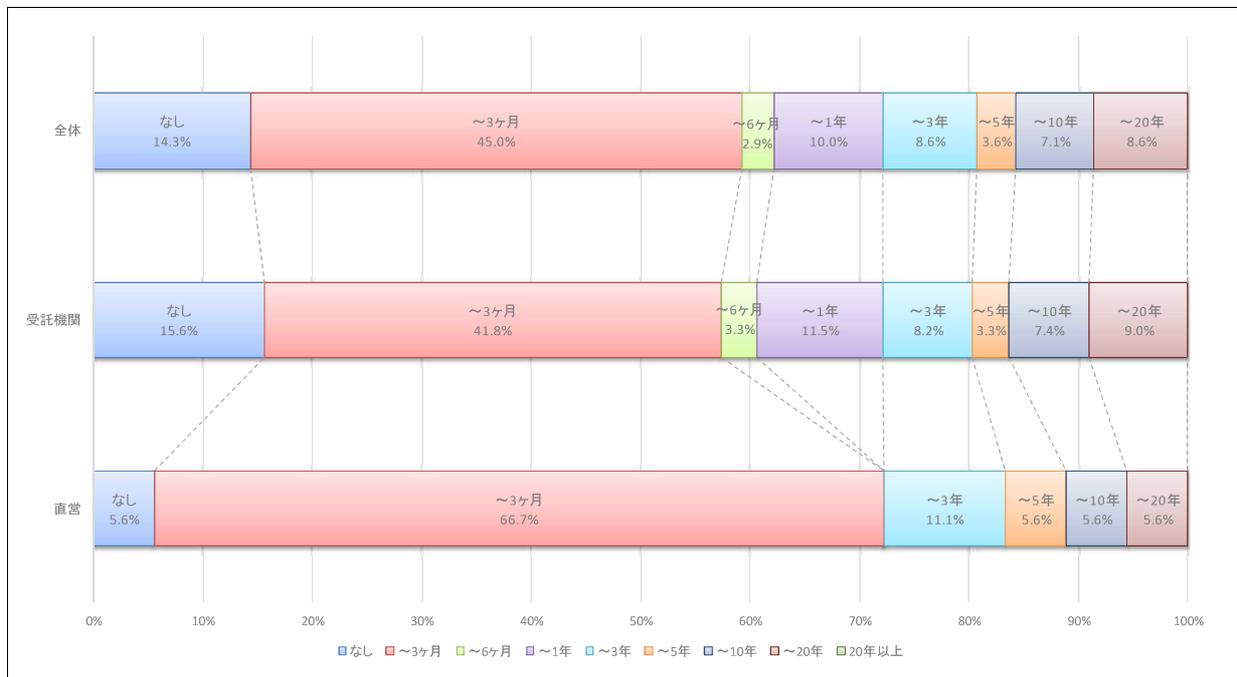
## 平成27年度 家計相談支援事業従事者養成研修 修了者の年齢構成



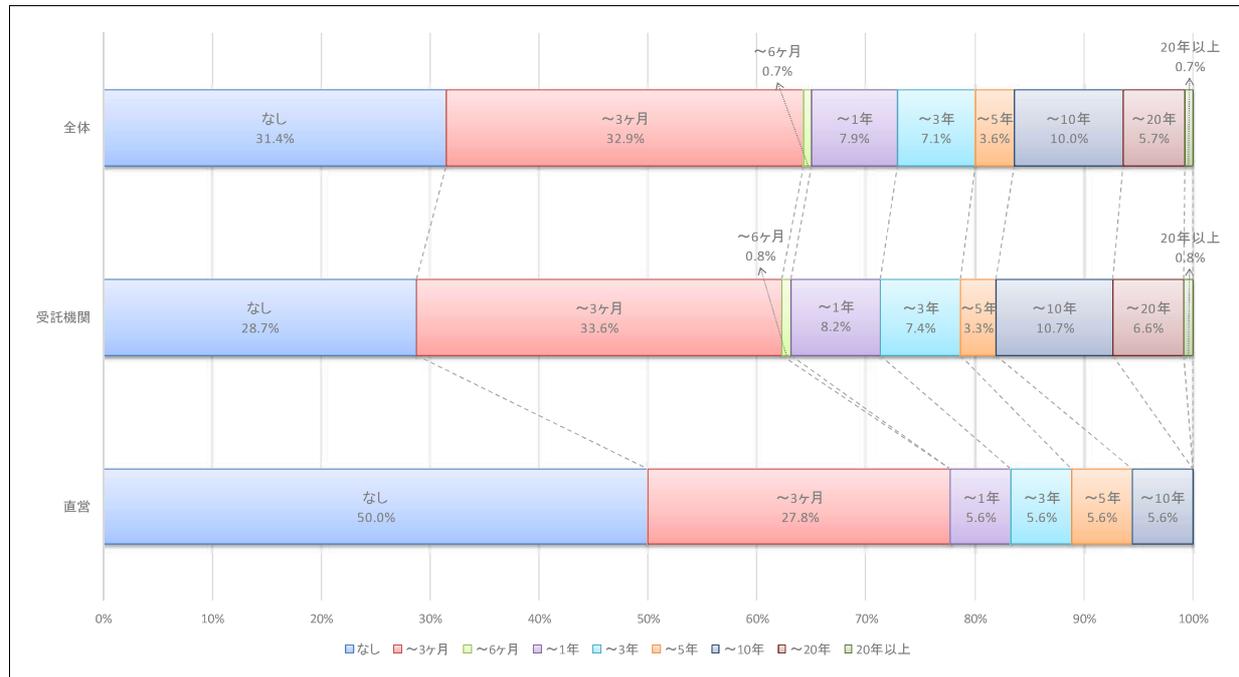
## 平成27年度 家計相談支援事業従事者養成研修 修了者の勤務形態



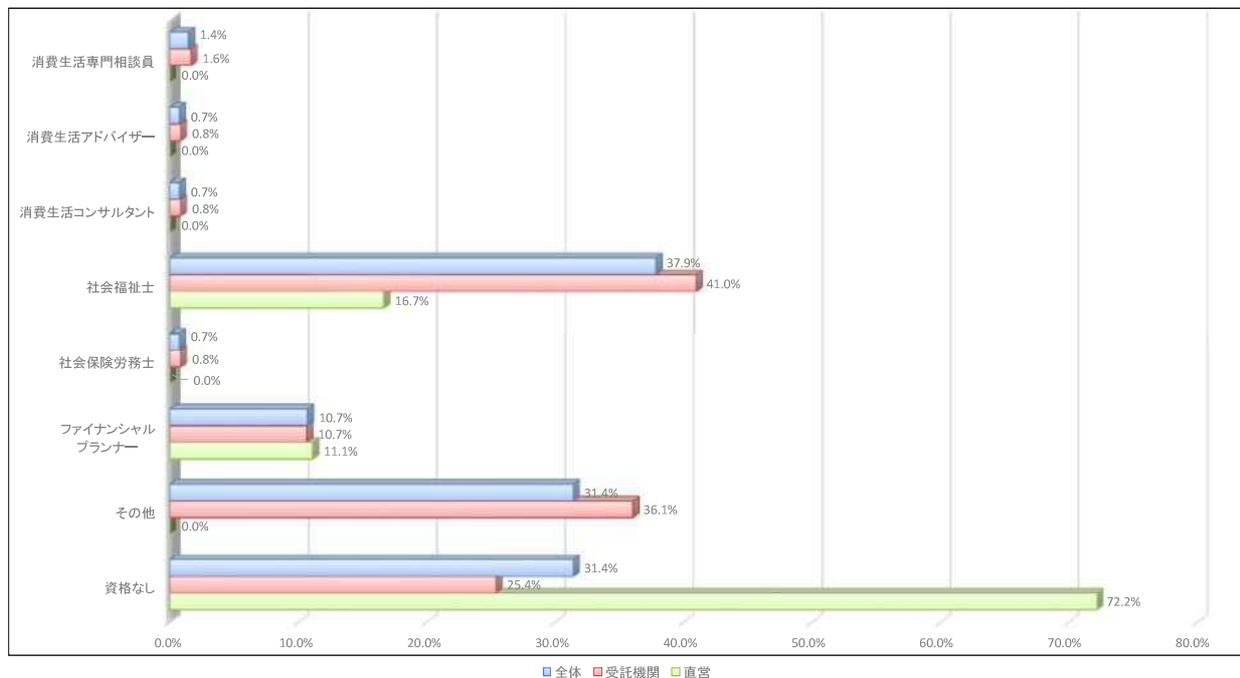
## 平成27年度 家計相談支援事業従事者養成研修 修了者の現職経験年数



平成27年度 家計相談支援事業従事者養成研修 修了者の家計相談支援通算経験年数



平成27年度 家計相談支援事業従事者養成研修 修了者の資格保有状況



## 第2章 研修内容の企画

### 1 企画委員会の概要

#### 委員名簿

氏名(敬称略)	所属	役職	備考
企画・運営委員会			
岩間 伸之	大阪市立大学大学院	教授	
奥田 知志	特定非営利活動法人 抱樸	理事長	
新保 美香	明治学院大学	教授	
谷口 仁史	特定非営利活動法人 NPO スチューデント・サポート・フェイス	代表理事	
原田 正樹	日本福祉大学	教授	
行岡 みち子	生活協同組合連合会グリーンコープ連合・共同体	常務理事・生活再生 事業推進室室長	
和田 敏明	ルーテル学院大学	教授	委員長
佐甲 学	全国社会福祉協議会 地域福祉部	部長	
自立相談支援研修企画部会 前期研修、後期主任相談支援員研修チーム			
朝比奈 ミカ	中核地域生活支援センターがじゅまる	センター長	
岩間 伸之	大阪市立大学大学院	教授	
奥田 知志	特定非営利活動法人 抱樸	理事長	
加留部 貴行	九州大学	客員准教授	
勝部 麗子	豊中市社会福祉協議会	事務局参事 兼地域福祉課長	
新保 美香	明治学院大学	教授	
原田 正樹	日本福祉大学	教授	後期主任 委員長
和田 敏明	ルーテル学院大学	教授	前期共通 委員長
自立相談支援研修企画部会 後期相談支援員研修チーム			
朝比奈 ミカ	中核地域生活支援センターがじゅまる	センター長	

岩間 伸之	大阪市立大学大学院	教授	委員長
鈴木 晶子	一般社団法人インクルージョンネットよこはま	理事	
田中 奈美	愛媛県・八幡浜市社会福祉協議会	地域福祉課長	
自立相談支援研修企画部会 後期就労支援員研修チーム			
岡野 みゆき	公益財団法人 沖縄県労働者福祉基金協会 就職・生活支援パーソナル・サポート・センター	次長兼パーソナル・サ ポート・アドバイザー	
加留部 貴行	九州大学	客員准教授	
櫛部 武俊	一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会	副代表	
新保 美香	明治学院大学	教授	委員長
谷口 仁史	特定非営利活動法人 NPO スチューデント・サポート・フェイス	代表理事	
西岡 正次	A'ワーク創造館（大阪地域職業訓練センター）	就労支援室室長	
就労準備支援事業従事者養成研修部会			
岡野 みゆき	公益財団法人 沖縄県労働者福祉基金協会 就職・生活支援パーソナル・サポート・センター	次長兼パーソナル・サ ポート・アドバイザー	
加留部 貴行	九州大学	客員准教授	
櫛部 武俊	一般社団法人 釧路社会的企業創造協議会	副代表	
新保 美香	明治学院大学	教授	
谷口 仁史	特定非営利活動法人 NPO スチューデント・サポート・フェイス	代表理事	委員長
家計相談支援事業従事者養成研修部会			
和田 敏明	ルーテル学院大学	教授	委員長
行岡 みち子	生活協同組合連合会グリーンコープ連合・共同体	常務理事・生活再生 事業推進室室長	
鳥山 まどか	北海道大学大学院 教育学研究院	准教授	
北島 千恵	福岡県自立相談支援事務所（筑紫郡・糟屋郡） くらし・しごと・家計 困りごと相談室	家計相談支援員	
福井 浩司	三重県・名張市社会福祉協議会	事務局次長 兼地域福祉課長	
横堀 真美	日本司法支援センター本部 第一事業部	部付弁護士	
浅川 剛志	日本司法支援センター本部 総務部	部付弁護士	

## 2 企画に係る会議の実施スケジュール

	開催日時・場所	主な議題
第1回 企画運営 委員会	平成27年4月26日(日) 13:00～17:00 フクラシア東京ステーション	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今年度研修企画検討の進め方について</li> <li>2. 各研修プログラムの企画検討にあたって (昨年度研修からの改善点、変更点に関する意見交換) <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 前期共通研修(自立相談支援)</li> <li>(2) 後期主任相談支援員研修</li> <li>(3) 後期相談支援員研修</li> <li>(4) 後期就労支援員研修</li> <li>(5) 家計相談支援研修</li> <li>(6) 就労準備支援研修</li> </ol> </li> <li>3. 自立相談支援3職種対象の前期共通研修プログラムの企画検討について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 昨年度研修を踏まえた改善点、変更点に関する意見交換</li> <li>(2) 今後の進め方</li> </ol> </li> <li>4. 企画運営委員会の進め方</li> <li>5. その他 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 研修講師謝金基準について</li> <li>(2) 県伝達研修推進会議の開催検討について</li> </ol> </li> </ol> <p>◆岩間・新保・谷口・原田・行岡・和田・佐甲</p>
第1回 家計相談 企画部会	平成27年4月28日(火) 18:00～20:00 全社協 第1会議室	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家計相談支援事業従事者養成研修の企画検討 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 平成26年度(社会福祉推進事業)研修の概要 (実施主体:グリーンコープ連合)</li> <li>(2) 今年度研修内容の企画検討</li> </ol> </li> <li>2. 今後の進め方 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第2回部会の開催予定 ・第1回研修終了後の7月開催を予定</li> <li>(2) 関連スケジュール</li> </ol> </li> <li>3. その他</li> </ol> <p>◆北島・鳥山・福井・行岡・横堀・和田・佐甲 (浅川・平本)</p>
第1回 就労準備 企画部会	平成27年5月8日(金) 10:00～12:00 全社協 第7会議室	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 就労準備支援事業従事者養成研修カリキュラムの企画検討について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 本研修の目標について</li> <li>(2) カリキュラム内容面について</li> <li>(3) 講義・演習等の役割分担について</li> </ol> </li> <li>2. 今後の進め方</li> <li>3. その他</li> </ol> <p>◆岡野・加留部・櫛部・新保・谷口・佐甲</p>

第1回 自立相談 企画部会	平成27年5月23日(土) 19:00～21:00 フクラシア品川	1.自立相談支援事業従事者養成研修【前期】共通プログラムの検討について (1)プログラムの内容について 2.自立相談支援事業従事者養成研修【後期】主任プログラムの検討について (1)プログラムの内容について 3.今後の進め方 4.その他 ◆朝比奈・岩間・奥田・勝部・加留部・原田・和田・佐甲
第2回 就労準備 企画部会	平成27年7月6日(月) 18:30～20:30 商工会館B・C会議室	1.研修全体の目標について 2.研修各カリキュラムの企画概要と進め方について (1)第1日目～第4日目のそれぞれのカリキュラムについて (2)2日目夕方開催の(参加希望制)「テーマ別交流会」について (3)4日間の受講者のグループ構成について 3.今後の進め方 4.その他 ◆岡野・加留部・榎部・新保・谷口・名嘉・新田・佐甲
第1回 相談支援 企画部会	平成27年8月2日(日) 13:00～16:00 全社協 第1会議室	2.自立相談支援事業従事者養成研修【後期】相談プログラムの検討について (1)プログラムの内容について 3.今後の進め方 4.その他 ◆朝比奈・岩間・鈴木
第1回 就労支援 企画部会	平成27年8月21日(金) 18:00～20:00 全社協 第1会議室	1.カリキュラムの企画検討について (1)本研修の目標について (2)カリキュラム内容面について (3)講義・演習等の役割分担について 2.今後の進め方 3.その他 ◆岡野・加留部・榎部・新保・谷口・西岡・佐甲
第2回 就労支援 企画部会	平成27年11月12日(木) 18:00～20:00 全社協 第2会議室	1.【後期】就労支援員養成研修 各講義・演習の概要・進め方について 2.今後の進め方 3.その他 ◆岡野・加留部・榎部・白水・新保・谷口・西岡・山本・佐甲
第2回 家計相談 企画部会	平成28年1月18日(月) 14:00～16:00 全社協 第5会議室	1.研修の振り返り 2.その他 ◆北島・鳥山・行岡・横堀・和田
第2回 運営・ 企画部会	平成28年2月8日(月) 18:30～20:30 フクラシア東京ステーション	1.実施報告書について 2.その他 ◆奥田・新保・谷口・原田・行岡・和田・佐甲

### 3 個別打合せの実施状況

開催日時・場所	主な議題
前期共通	
平成 27 年 6 月 5 日(金) 14:00～16:30 全社協 4F	(1) 前期共通研修プログラム 生活困窮者支援を通じた地域づくり(講義と演習⑤)について ◆和田、葛城、新田、厚労省、全社協
後期主任	
平成 27 年 6 月 8 日(月) 13:30～16:00 全社協 4F	(1) 後期主任プログラム 支援困難事例の検討(講義と演習⑥)について (2) その他 ◆田中、厚労省、全社協
平成 27 年 6 月 18 日(木) 10:00～12:00 厚労省地域福祉課 4F	(1) 後期主任プログラム アウトリーチ・インテーク(講義⑦)について (2) その他 ◆上原、佐藤、厚労省、全社協
平成 27 年 6 月 18 日(木) 16:00～19:00 全社協 4F	(1) 後期主任プログラム アセスメント・プラン作成(講義と演習⑧)について (2) その他 ◆朝比奈、岩間、上原、厚労省、全社協
平成 27 年 6 月 23 日(火) 18:00～20:00 全社協 第 7 会議室	(1) 後期主任プログラム 支援困難事例の検討(講義と演習⑥)について (2) その他 ◆上原、大戸、田中、厚労省、全社協
平成 27 年 7 月 8 日(水) 19:00～21:00 日本福祉大学名古屋キャンパス	(1) 後期主任プログラム 社会資源とネットワークの開発(講義と演習⑤)について (2) その他 ◆井岡、西岡、原田、厚労省、全社協
平成 27 年 7 月 9 日(木) 18:30～20:30 フクラシア東京ステーション	(1) 後期主任プログラム 生活困窮者と地域づくりの意義(講義③)について (2) その他 ◆和田、原田、全社協
平成 27 年 7 月 16 日(木) 19:00～20:00 全社協 灘尾ホール	(1) 後期主任プログラム アセスメント・プラン作成(講義と演習⑧)について (2) その他 ◆朝比奈、岩間、上原、厚労省、全社協
平成 27 年 7 月 28 日(火) 20:00～20:30 航空会館	(1) 後期主任プログラム アセスメント・プラン作成(講義と演習⑧)について (2) その他 ◆岩間、厚労省、全社協
平成 27 年 8 月 2 日(日) 12:00～13:00 全社協 第 1 会議室	(1) 後期主任プログラム アセスメント・プラン作成(講義と演習⑧)について (2) その他 ◆朝比奈、岩間、鈴木、厚労省、全社協
平成 27 年 8 月 7 日(金) 16:00～18:00 豊中市社旗福祉協議会	(1) 後期主任プログラム 個を支える地域づくり(講義と演習④)について (2) その他 ◆勝部、原田、厚労省、全社協

平成 27 年 8 月 17 日(月) 18:00～20:00 フクラシア東京ステーション	(1) 後期主任プログラム アセスメント・プラン作成(講義と演習⑧)について (2) その他 ◆朝比奈、岩間、上原、厚労省、全社協
後期相談	
平成 27 年 8 月 27 日(木) 13:00～16:00 ロフォス 第 5 会議室	(1) 後期相談支援員養成研修プログラムに関する協議 (2) その他 ◆岩間、朝比奈、上原、鈴木、田中、厚労省、全社協
平成 27 年 8 月 30 日(金) 17:00～20:00 都内会議室	(1) 後期相談プログラム 相談支援の展開(講義と演習⑧)について ◆岩間、朝比奈、鈴木、厚労省、全社協
平成 27 年 9 月 3 日 11:00～12:00 タイム 24 ビル内会議室	(1) 後期相談プログラム 地域を基盤とした相談支援の方法(講義と演習⑦)について ◆勝部、全社協
平成 27 年 9 月 14 日(月) 9:30～14:00 豊中市社会福祉協議会	(1) 後期相談プログラム 地域を基盤とした相談支援の方法(講義と演習⑦)・個別支援の基本(講義と演習①)について ◆岩間、田中、勝部、厚労省、全社協
平成 27 年 9 月 28 日(月) 19:00～20:00 全社協 4F	(1) 後期相談プログラム 相談支援の展開(講義と演習⑧)について ◆岩間、厚労省、全社協
後期就労	
平成 27 年 9 月 9 日(水) 18:00～20:00 全社協 4F	(1) 後期就労支援員養成研修プログラムに関する協議 ◆新保、厚労省、全社協
平成 27 年 9 月 14 日(月) 17:00～18:00 大阪市内会議室	(1) 後期就労プログラム 包括的な相談支援の視点(講義と演習②)について ◆白水、全社協
平成 27 年 9 月 30 日(水) 13:30～15:30 社会福祉法人 光明会	(1) 後期就労プログラム 企業へのアプローチ(講義と演習⑩)について (2) その他 ◆山本、厚労省、全社協
平成 27 年 10 月 13 日(火) 10:30～12:00 全社協 4F	(1) 後期就労プログラム 包括的な相談支援の視点(講義と演習②)について ◆新保、加留部、白水、厚労省、全社協
平成 27 年 10 月 30 日(金) 15:00～17:00 ハローワーク市川	(1) 後期就労プログラム ハローワークの役割と連携・ハローワークサービスの実際(講義と演習③)について ◆山本、南川、厚労省、全社協
平成 27 年 11 月 13 日(金) 13:30～16:30 全社協 第 1 会議室	(1) 後期就労プログラム 個人への相談支援(講義と演習⑤)について (2) その他 ◆新保、小林、四宮、渡部、厚労省、全社協
平成 27 年 12 月 3 日(木) 16:00～18:00 厚生労働省 地域福祉課	(1) 後期就労プログラム 自治体による就労支援(講義と演習⑨)について ◆加留部、厚労省、全社協

就労準備	
平成 27 年 4 月 9 日(木) 10:00～12:00 全社協 4F	(1) 就労準備支援事業従事者養成研修について (2) その他 ◆谷口、厚労省、全社協
平成 27 年 6 月 2 日(火) 14:00～16:00 労働局庁舎	(1) 就労準備研修プログラム ハローワークとの連携(講義⑧)について (2) その他 ◆津田、厚労省、全社協
平成 27 年 7 月 2 日(木) 16:00～18:00 全社協 4F	(1) 就労準備支援事業従事者養成研修プログラム内容について ◆新保、厚労省、全社協
平成 27 年 8 月 4 日(火) 17:30～18:30 明治学院大学	(1) 就労準備研修プログラム 4日間の振り返りとまとめ(講義と演習⑨)について ◆新保、加留部、全社協

家計相談	
平成 27 年 4 月 7 日(火) 10:30～12:30 全社協 4F	(1) 家計相談支援事業従事者養成研修について (2) その他 ◆行岡、平本、厚労省、全社協
平成 27 年 5 月 27 日(水) 9:30～14:00 グリーンコープ連合会議室	(1) 家計相談支援事業従事者養成研修プログラム内容について (2) その他 ◆グリーンコープ連合、全社協
平成 27 年 6 月 6 日(土) 10:30～16:00 グリーンコープ連合会議室	(1) 家計相談支援事業従事者養成研修プログラム内容について (2) その他 ◆グリーンコープ連合、全社協
平成 27 年 6 月 20 日(土) 10:30～16:00 グリーンコープ連合会議室	(1) 家計相談支援事業従事者養成研修プログラム内容について (2) その他 ◆グリーンコープ連合、厚労省、全社協
平成 27 年 8 月 24 日(月) 11:00～13:00 全社協 第 6 会議室	(1) 家計相談支援事業従事者養成研修プログラム内容について (2) その他 ◆行岡、厚労省、全社協
平成 27 年 11 月 7 日(土) 20:00～21:00 福岡大学内会議室	(1) 家計相談支援事業従事者養成研修プログラム内容についての振り返り ◆行岡、全社協

### 第3章 研修内容の詳細

#### 1 【前期】共通プログラム 養成研修

##### <前期>共通プログラム 第1日目 7月15日(水)、9月7日(月)、11月4日(水)

科目	オリエンテーション、主催者挨拶、厚生労働省挨拶、アイスブレイク/付箋の使い方について
時間	9:00～9:30(30分)
目的	
到達目標	

時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
8:15 ～9:00	受付	・研修全体の目標3点をプロジェクターで示す。	研修全体の目標 ①基本を学ぶ、②学んだことを実践できる、 ③伝達できる(講師になれる)	
9:00 ～9:10 (10分)	オリエンテーション	・事務局が事務連絡を行う。配布資料、備品の確認、研修の流れ、アンケートを説明する。	アンケートは1日目から配付して、3日目に回収する。毎日の振り返りの時間に書いていただく。視点は、満足度、理解度、活用度とする。	事務局
9:10 ～9:20 (10分)	厚生労働省挨拶 主催者挨拶、	主催者挨拶、厚生労働省挨拶 ・厚労省:鈴木社会・援護局長 ・全社協:高井副会長	厚労省挨拶では、①研修に加え、実践や日々の振り返りにより学んでいただきたいこと、②テキストや講義内容以外に制度や基準なども勉強してほしいこと、③誰も専門家ではないことを踏まえて学び続けてほしいこと、④職場内での伝達研修を積極的に実施する立場としての受講、についても触れる。	全社協 厚生労働省
9:20 ～9:30 (10分)	アイスブレイク/付箋の使い方について	1. 名札を書いてもらう 2. 同じ机の3名間で自己紹介してもらう 3. 机に置いてある付箋の使い方を説明する	進捗状況に応じて、時間を調整し、講義①を定刻通りに開始する。 事務局で模造紙を張ったホワイトボードを用意し、各カリキュラムごとに「わからないこと、質問したいこと」を受講中に付箋に書いてもらい、講義終了後にボードに張ってもらうことのインフォメーション	九州大学 客員准教授 加留部貴行氏
9:30～	講義①	講義① プログラムシートを参照		

##### <前期>共通プログラム 第1日目 7月15日(水)、9月7日(月)、11月4日(水)

科目	【講義①】生活困窮者支援の基本的な考え方
時間	9:30～11:00(90分) 講義1.5H
目的	生活困窮者自立支援制度創設の背景、生活困窮者支援の理念、制度の概要について理解する
到達目標	・背景、理念、制度の概要を理解する ・生活困窮者支援の必要性、自分の役割を語るができるようになる

時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
9:30 ～11:00 (90分)	生活困窮者自立支援の基本的な考え方	・レジュメに沿った講義形式で説明する。 ・パワポでレジュメを示す。	・冒頭で問いかけ(「困窮者って誰のこと?」)【5分】 ・制度創設の背景、制度の理念、制度の全体概要、対象者について説明する。【65分】 ・3月の国からの通知(関係制度との連携等)にも触れる  ・20分位残して説明終了。 ①大事だと感じたこと、②各自ができること、③疑問点について3人トリオで話をしてもらう。(5分) ・その後、③について、3人で共通した疑問で、なお厚生労働省担当者に聞いてみようと思うものを手上げで質問。→時間の範囲内(15分程度)で、できるだけ応答。 ※質問者までワイヤレスマイクを運んでくれる人が2人位必要 ※平成27年度では上記質疑応答等は実施されず	厚生労働省 熊木正人氏 【前期】就労のみ 本後 健氏
11:00 ～11:10 (10分)	休憩			
11:10～	講義②	講義② プログラムシートを参照		

<前期>共通プログラム 第1日目 7月15日(水)、9月7日(月)、11月4日(水)

科目	【講義②】生活困窮者自立支援制度における自立相談支援事業の重要性
時間	11:10～12:10(60分)、13:10～14:10(60分) 講義2H
目的	生活困窮者自立支援制度における自立相談支援事業の重要性について理解する
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立相談支援事業の目的、支援の流れ、3職種について理解する</li> <li>自立相談支援事業と任意事業である就労準備支援事業や家計相談支援事業等との関係性などについて理解する</li> </ul>

時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
11:10 ～12:10 (60分)	自立相談支援事業の目的、支援の流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジュメに沿った講義形式で説明する。</li> <li>パワポでレジュメを示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業の目的、支援の流れ、3職種を配置した意義と各職種の役割について簡単に説明する。</li> <li>その上で、アウトリーチの考え方、相談受付や本人同意の際の留意点、プラン策定の視点のポイント等について説明する。</li> <li>講義だけにならないよう考えてもらう時間を設ける。 <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の課題を考え、誰を呼んで教えてもらうか</li> <li>伝達研修について</li> <li>上記2点を個別に考え、報告する</li> </ul> </li> </ul>	厚生労働省 鍋木奈津子氏
12:10 ～13:00 (50分)	昼食・休憩			
13:00 ～14:00 (60分)	自立相談支援事業と任意事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジュメに沿った講義形式で説明する。</li> <li>パワポでレジュメを示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>任意事業(特に家計相談支援事業と就労準備支援事業)、就労支援についての事業体系について簡単に説明する。</li> <li>その上で、自立相談支援事業と任意事業との連携のあり方を説明する。</li> <li>加えて、家計相談や就労準備の意義や効果について説明する。</li> <li>講義だけにならないよう考えてもらう時間を設ける。 <ul style="list-style-type: none"> <li>グループワーク「就労支援についてどのように取り組んでいるか・何が課題か」を3名で考え、意見交換</li> </ul> </li> <li>任意事業の重要性についての紹介の仕方案として、家計相談(行岡氏)・就労準備(谷口氏)・学習支援(実践者)の実践者にビデオで登場してもらうことも一考。</li> <li>※上記案は平成27年度では実施されず</li> </ul>	厚生労働省 渡邊由美子氏
14:00 ～14:15 (15分)	休憩			

<前期>共通プログラム 第1日目 7月15日(水)、9月7日(月)、11月4日(水)

科目	【講義と演習③】生活困窮者自立支援制度における自立相談支援事業の重要性
時間	14:20～15:50(90分)、16:00～18:00(120分) 講義1.5H、演習2H (休憩15:50～16:00(10分))
目的	各支援員に求められる倫理や基本姿勢について理解する
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各支援員に求められる倫理や基本姿勢について理解する</li> <li>職員の育成と職場づくりについて理解する</li> </ul>

時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
14:15～ ～15:45 (90分) (講義)	支援員に求められる基本倫理と基本姿勢	<ol style="list-style-type: none"> <li>アイスブレイク</li> <li>講義</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>レジュメに沿った講義形式で説明する。</li> <li>途中、グループワークを実施し、グループ内で共有を図る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様性を体感するアイスブレイクを行い、様々な視点を持つ利用者や職場について考える。</li> <li>3つの基本倫理と8つの基本姿勢について、図式化した資料を準備。後期を含めた今後のプログラムに対する動機付けを目指す。</li> <li>この研修に対する期待感を持っていただく。</li> <li>基本姿勢と現在の自分の状況と照らし合わせる。</li> <li>第7章職員の育成と職場づくりの視点も入れて解説する。</li> </ul>	明治学院大学 教授 新保美香氏
15:45 ～16:00 (15分)	休憩			
16:00 ～18:00 (120分) (演習)	支援員に求められる基本倫理と基本姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループは同じ机の3人を基本として進める。</li> <li>相談する側、される側に分かれて対話のワークをする。</li> <li>①2名で行うペアワーク</li> <li>②3名で行うトリオワーク</li> <li>③解説を含め全体でのポイントの共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談支援員、就労支援員の後期研修で扱わない第7章の職員の育成と職場づくりを説明する。</li> <li>対話のワークを行うことで、様々な視点に気づいてもらう。</li> <li>基本姿勢のチームアプローチの展開に関して、対人コミュニケーションをテーマにグループワークを行う。</li> <li>第7章職員の育成と職場づくりの視点も入れて解説する。</li> </ul>	九州大学 客員准教授 加留部貴行氏
18:00 ～18:20 (20分)	研修の振り返り(第1日目)	<ol style="list-style-type: none"> <li>同じ机の3名で短時間バズセッション</li> <li>アンケートを書いていただく</li> </ol> <p>最後に事務局が明日の会場、時間、交流会の会場、当日参加等をアナウンス</p>		九州大学 客員准教授 加留部貴行氏
18:20 ～18:40 (20分)	交流会会場へ移動			
18:40 ～19:40頃 (60分)	交流会			九州大学 客員准教授 加留部貴行氏

<前期> 共通プログラム 第2日目 7月16日(木)、9月8日(火)、11月5日(木)

科目	【講義と演習④】生活困窮者支援に必要と考えられる視点
時間	9:15～12:00(165分)、13:00～14:00(60分) 講義1.5H、演習2H
目的	対象者の特性を踏まえた支援のあり方や、健康・保健、権利擁護、個人情報保護など支援に必要と考えられる視点について理解する。
到達目標	・対象者の特性を踏まえた支援のあり方について理解する。 ・健康・保健、権利擁護、個人情報保護など支援に必要と考えられる視点について理解する。

時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
8:45 ～9:15	開場・受付			
9:15 ～10:30 (75分)	実践事例紹介①	※最初の5分間にオリエンテーション(付箋に記入する内容等について解説)  70分の場合 ①事例発表者の自己紹介(35分) ②事例紹介(15分)→ニーズキャッチ、アセスメント、包括的支援、地域における孤立の解消などの4つのポイントに絞る。困難ケースの事例検討というよりは、今後どう展開していくのかを感じてもらおう。 ③原田先生によるインタビュー(15分) ・支援に必要な視点を意識したインタビュー ④付箋に記入 両隣の人と共有(5分)	・事例発表者に自身の取組や受講者に伝えたいメッセージ等について語っていただく時間を設ける。 その後、事例検討を行う。 ・グループは同じ机の3人とする。 ・情報を共有するために、桃の付箋に「今の自分や地域では難しいと思うこと」、青の付箋に「参考になったこと」を記入する。 ・事例紹介を通して8つの基本姿勢を確認する。 ・事例紹介を通して対象者の特性を踏まえた支援をどうしていくかという具体的なイメージをもってもらおう。 ・とくに、①事例でとりあげる対象種別による支援の特性、②3つの事例を通して、共通する「生活困窮者支援の視点」を確認することを目的としていく。	日本福祉大学教授 原田正樹氏
10:30 ～11:15 (45分)	実践事例紹介②	45分の場合 ①事例発表者の自己紹介、事例紹介(25分) ②原田先生によるインタビュー(15分) ④付箋に記入(5分)	◆7月16日(木) 紹介①奥田知志氏(75分 最初5分はオリエンテーション) 紹介②遠藤智子氏(45分) 紹介③田中明美氏(45分) ◆9月8日(火) 紹介①奥田知志氏(75分 最初5分はオリエンテーション) 紹介②遠藤智子氏(45分) 紹介③田中明美氏(45分) ◆11月5日(木) 紹介①菊池まゆみ氏(75分 最初5分はオリエンテーション) 紹介②遠藤智子氏(45分) 紹介③田中明美氏(45分)	
11:15 ～12:00 (45分)	実践事例紹介③	上記を3回 ※最後の5分間は午前のまとめ	◆11月5日(木) 紹介①菊池まゆみ氏(75分 最初5分はオリエンテーション) 紹介②遠藤智子氏(45分) 紹介③田中明美氏(45分) ★事例は、3者を整理するため、ある程度委員が創作し、持ち帰ることが可能な事例とする(事例は当日配布)。  ※【前期】就労は田中明美氏病欠	
12:00 ～12:50 (50分)	昼食・休憩			
12:50 ～13:50 (60分)	支援に必要な視点について	○グループワーク(45分) ①事例を通して参考になった点(桃の付箋) ②事例を通して課題だと思う点(青の付箋)  ○テキスト解説(15分) ・レジュメに沿った講義形式で説明する。 ・バフボでレジュメを示す。 ・最後の15分で健康・保健、権利擁護、個人情報保護など支援に必要と考えられる視点について解説	・グループは奇数行の机の3人が後ろを向き、計6人とする。 ・事例紹介で作成した付箋について模造紙を使って整理し、視点(健康・保健、権利擁護、個人情報保護など)を共有する ・テキスト解説でも上記視点を説明する。	
13:50 ～14:00	休憩			
14:00 ～14:50 (50分)	発達障害など、認知に特性のある人への配慮すべきことや支援	講義(30分)  演習(20分)	講義 ・発達障害者の行動パターンや言動の特徴を理解する。 ・その上で、発達障害者を見極める(見立てる)ときのコツを学ぶ。 たとえば、「社会的手続きや公共施設を利用する時」、「金銭管理や買い物を行う時」にみられる行動を通して、見立ての方法を学ぶ。  演習 ・発達障害者への適切な対応方法について学ぶ。 ・例えば、「相談窓口で話が終わらない場合」、「窓口で怒り出した場合」などの対応方法をロールプレイを通して学ぶ。 ・ロールプレイ後に、講師から具体的な対応方法について解説する。 ・また、本人への意図的な声掛けの意味(役割)についても解説する。	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 障害児・発達障害者支援室 発達障害対策専門官 日詰正文氏
14:50 ～15:00	休憩			
15:00～	講義と演習⑤	講義と演習⑤ プログラムシートを参照		

＜前期＞共通プログラム 第2日目 7月16日(木)、9月8日(火)、11月5日(木)

科目	【講義と演習⑤】生活困窮者支援における社会資源の活用と連携・協働
時間	14:10～17:40(210分) 講義1.5H、演習2H
目的	生活困窮者関係の制度施策やその他の社会資源の活用、それらとの連携・協働の目的とその方法について理解する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活困窮者関係の制度施策や社会資源の問題解決の動機づけについて理解する。</li> <li>制度施策や社会資源との連携・協働の目的とその方法について理解する。</li> <li>社会資源が不足している場合の解決のアプローチについて理解する。</li> </ul>

時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
15:00 ～17:40 (160分) 適宜休憩を 入れる	生活困窮者支援を通じた地域づくり (講義)	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジュメに沿った講義形式で説明する。</li> <li>パワポでレジュメを示す。</li> </ul> <p>①15:00～15:40 趣旨説明と講義(和田先生)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活困窮者関係の制度施策やその他の社会資源の活用、それらとの連携・協働の目的とその方法について理解する</li> <li>地域づくりに関する概念や課題解決の糸口を学ぶ</li> <li>地域づくりの具体的なイメージを持ってもらう(簡単なことから始められる出口づくり。働きかけていく中で地域も市民も変わってくる等)</li> <li>どのように既存資源を使うか、新しいものを作るか考える。</li> </ul> <p>事例紹介者 勝部麗子氏、葛城朋子氏(地域づくり、資源開発)、 榎部武俊氏、新田摩奈美氏(出口づくり、中間的就労)</p> <p>◆7月16日(木) 紹介①葛城朋子氏(大津市社協) 紹介②新田摩奈美氏(釧路社会的企業創造協議会)</p> <p>◆9月8日(火) 紹介①勝部麗子氏(豊中市社協) 紹介②榎部武俊氏(釧路社会的企業創造協議会)</p> <p>◆11月5日(木) 紹介①勝部麗子氏 紹介②榎部武俊氏</p>	ルーテル学院大学 教授 和田敏明氏
	ミニシンポジウム (演習)	<p>①3氏が登壇し、ミニシンポジウム形式で議論する。</p> <p>②15:40～16:10 事例発表2名 (豊中・勝部氏、釧路・榎部氏)@15分×2名</p> <p>③16:10～16:15 個人ワーク (聞きたいこと、より深めたいことをカードに記入)</p> <p>④16:15～16:25 グループワーク (記入したカードを共有し、①聞きたいこと ②より深めたいこと、を1つずつ絞る)</p> <p>⑤16:25～16:35 休憩</p> <p>⑥16:35～17:25 質疑応答 各グループから発表を行い、登壇者がそれぞれの質問に答える</p> <p>⑦17:25～17:30 まとめ(和田先生)</p>		
17:40 ～17:50 (10分)	研修の振り返り (第2日目) 担当:加留部氏	<p>①同じ机の3名で短時間バズセッション</p> <p>②アンケートを書いていただく 最後に事務局が明日の会場、時間等をアナウンス</p>		
18:00 ～19:00 (60分)	オプション企画 (自由参加) テーマ別交流会	<ul style="list-style-type: none"> <li>複数のテーマを設定し、研修委員と受講生がテーマごとに車座で自由にディスカッションを行う。</li> <li>受講者は興味のあるテーマを自由に選んで参加することができる。</li> <li>日々の業務で受講生が抱える悩みや不安に応じていくことや、講義の中で聞けなかった疑問点に答えていくこと等も意図している。</li> </ul> <p>(テーマ例):ホームレス支援、DV支援、地域づくり、就労支援等。 ⇒奥田氏、遠藤氏、勝部氏、榎部氏にはとくにご協力をお願いする(7月の主任前記研修では、 釧路・新田氏、大津・葛城氏の2名で地域づくり、出口づくりのテーマで協力了解)</p>		

<前期> 共通プログラム 第3日目 7月17日(金)、9月9日(水)、11月6日(金)

科目	【講義と演習⑥】相談支援の展開			
時間	9:30～11:30(120分)、12:30～14:00(90分) 講義2H、演習1.5H			
目的	生活困窮者への支援計画の作成について、基本的な考え方と手法について理解する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援計画の作成について、基本的な考え方について理解する。</li> <li>支援計画の作成について、基本的な手法について理解する。</li> </ul>			
時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
8:30 ～9:00	開場			
9:00 ～11:00 (120分) (講義)	相談支援の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジュメに沿った講義形式で説明する。</li> <li>①テキスト第1節 (45分)</li> <li>②テキスト第2、3、4節(45分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談支援の展開等プロセスをはじめ相談支援の全体像を確認する。</li> <li>理念的な大事なことについて言及する。</li> <li>第2、3、4節は、個別から地域への展開</li> </ul>	大阪市立大学 教授 岩間伸之氏
11:00 ～11:15	休憩			
11:15 ～12:45 (90分) (演習)	演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>①趣旨説明(岩間先生・5分)</li> <li>②事例シートを配布→事例共有と課題の説明(岩間先生・10分)</li> <li>③個人ワーク 課題シートを用いる 10分</li> <li>④6人グループでディスカッション 20分</li> </ul> ※以上の流れを2回実施 まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>テキストのアセスメントの基礎的要素に基づき、個別から地域への視点で進める。個別支援だけでなく、地域と接点を持つことの重要性を感じていただく。</li> <li>2日目の事例紹介と内容が重複しないようにする。たとえば3日目のこのカリキュラムでは、当事者本人に視点を置きながら、地域から(意識・無意識に)排除されるような状況もあることを受講者にも意識化してもらいつつ、本人をめぐる近隣地域が絡む事例も考えられる</li> <li>事例は、教材となるよう作成(ケースをどのように受け止めるか、まずは、相談を受け止める覚悟をもつことからの導入)</li> <li>ワークははさみ、岩間氏、事例提供の勝部氏によるパネルディスカッション方式で進行</li> <li>事例紹介者は1名とする。</li> <li>◆7月17日(金)勝部麗子氏</li> <li>◆9月 9日(水)勝部麗子氏</li> <li>◆11月6日(金)勝部麗子氏</li> </ul>	
12:45 ～13:35(50分)	昼食・休憩			

<前期> 共通プログラム 第3日目 7月17日(金)、9月9日(水)、11月6日(金)

科目	【講義と演習⑦】就労支援の実施方法			
時間	14:10～17:40(210分) 講義1.5H、演習2H			
目的	生活困窮者への就労支援について、基本的な考え方と手法について理解する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>就労支援について、基本的な考え方について理解する。</li> <li>就労支援の手法について理解する。</li> </ul>			
時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
13:35 ～14:50 (75分)	基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジュメに沿った講義形式で説明する。</li> <li>・パワポでレジュメを示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「就労支援の基本的な考え方」について</li> <li>・第6章第1節を中心に。</li> <li>・就労支援の意義と就労支援</li> <li>・就労支援員による就労支援(総論)</li> <li>・心構えとポイント</li> <li>※第3節の労働法規の重要性にもふれる。</li> </ul>	明治学院大学 教授 新保美香氏
	就労支援の実務	<ul style="list-style-type: none"> <li>レジュメに沿った講義形式で説明する。</li> <li>・パワポでレジュメを示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「就労支援の実務」について</li> <li>・第6章第2節(就労支援の進め方)を中心に。</li> </ul>	
14:50 ～15:05	休憩			
15:05 ～17:00 (115分)	実践報告 「就労支援3か条」～就労支援を行う上で大切にしたいこと～	<ul style="list-style-type: none"> <li>※1. まず、「就労支援3か条」を紹介していく</li> <li>※2. 3か条作成のポイント</li> <li>1) 当事者本人の強みを活かす</li> <li>2) 状況的に軽度の人にもバランスよく対応</li> <li>3) 今やっていることが、将来どのようにつながるのかを見通していく視点を常にもつ</li> <li>4) 企業へのアプローチの際には、企業側のメリットも考えていく(たとえば就労支援員がジョブコーチ的な役割をしていく等)</li> <li>①実践報告(20分)「就労支援3か条」</li> <li>②バズセッション(5分)</li> <li>上記を3回(3者)</li> <li>③コーディネーターによる整理(10分)</li> <li>④3者のトークセッション(15分)</li> <li>⑤ふりかえり(5分)</li> <li>個人ワーク⇒グループ内共有</li> <li>⑥まとめ(5分)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーターによる整理では、3者の違いと共通点を整理</li> <li>事例紹介者</li> <li>◆7月17日(金)</li> <li>山里直子氏(沖縄パーソナルサポート)、谷口仁史氏(佐賀・SSF・青少年)、西岡正次氏(豊中・行政)</li> <li>◆9月6日(水)</li> <li>岡野みゆき氏(パーソナルサポート)、谷口仁史氏(青少年)、西岡正次氏(行政)</li> <li>◆11月6日(金)</li> <li>岡野みゆき氏(パーソナルサポート)、谷口仁史氏(青少年)、西岡正次氏(行政)</li> </ul>	明治学院大学 教授 新保美香氏 (コーディネーター)
17:00 ～17:10	休憩(流動的)			
17:10 ～17:40 (30分)	研修の振り返り (第3日目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>①同じ机の3名で短時間バズセッション</li> <li>②アンケートを書いていただく</li> <li>最後に事務局が後期研修、後期までの課題、アンケート回収等をアナウンス</li> </ul>		九州大学 客員准教授 加留部貴行氏

【前期】共通プログラム 研修会の様子



## 2 【後期】主任相談支援員養成研修

### <後期>主任相談支援員プログラム 第1日目 8月25日(火) ※3日間、日々机のメンバー(3名)入れ替え

科目	【講義①】職員の資質向上と職場(組織)づくり
時間	10:10~11:10(60分)、11:10~14:40(150分+昼食休憩60分) 講義・演習210分
目的	職員の育成・教育、スーパービジョン、主任相談支援員の役割について理解する。
到達目標	・職員の育成・教育について理解する。 ・主任相談支援員の役割について理解する。

時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
9:30~10:00	受付	・研修全体の目標3点をプロジェクターで示す。	研修全体の目標 ①基本を学ぶ、②学んだことを実践できる、③伝達できる(講師になれる)	
10:00~10:10 (10分)	オリエンテーション	・事務局が事務連絡を行う。配布資料、備品の確認、研修の流れ、アンケートを説明する。 ・名札の作成を依頼する。	アンケートは1日目から配付して、3日目に回収する。毎日の振り返りの時間に書いていただく。視点は、満足度、理解度、活用度とする。	事務局
講義① 10:10~11:10 (60分)	主任相談支援員の役割	・レジュメに沿った講義形式で説明する。 ・パワポでレジュメを示す。	○主任相談支援員の役割、期待される機能について確認する。 (テキスト7章3節) ※原則、昨年度と同様の内容を想定。	日本福祉大学教授 原田正樹氏  雄勝福祉会 人材育成次長 佐藤博氏(前厚生労働省地域支援対策専門官)
11:10~11:20 (10分)	休憩			
講義・演習② 150分	職員の資質向上と 職場(組織)づくり	前半20分 新保先生 ・レジュメ、パワポに沿って講義と演習	○職員の育成・教育に向けた方法を学ぶ。 ○自立相談支援機関の職場特性を踏まえた職場づくりのあり方を考える。 例)職員同士のコミュニケーション、OJT等の日常的な人材育成、チームづくり等 ※スーパービジョンについても取り扱う。 (支援における視点の偏りや、権利擁護の視点の必要性について取り扱う。) 1個1個のケースが積み上がることで地域をつくることになるとい話し方	明治学院大学教授 新保美香氏  九州大学 客員准教授 加留部貴行氏
11:20~11:40 (20分)前半 11:40~12:30 (50分)昼食休憩 12:30~14:40 (130分)後半		後半130分 加留部先生 ・レジュメ、パワポに沿って講義と演習		
14:40~14:50 (10分)	休憩			
14:50~	講義③	講義③ プログラムシートを参照		

### <後期>主任相談支援員プログラム 第1日目 8月25日(火)

科目	【講義・演習②】生活困窮者支援を通じた地域づくり I
時間	14:40~15:40(60分)、15:50~17:20(90分)、17:30~19:00(90分) 講義・演習240分
目的	生活困窮者支援を通じた地域づくりの考え方、地域との協働・連携のあり方について理解する。
到達目標	・生活困窮者支援と地域づくりの必要性和留意点について理解する。 ・地域づくりの手法(ワークショップ)について理解する。

時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
講義③ 14:50~15:50 (60分)	生活困窮者支援と 地域づくりの 意義	・レジュメに沿った講義形式で説明する。 ・パワポでレジュメを示す。	○なぜ困窮者支援に地域づくりが必要なのか ○生活困窮者自立支援と地域福祉計画 ○生活困窮者自立支援と他の分野との連携 ○地域福祉計画、活動計画 ○財源(「共助づくり」「地域創生関係」=「小さな拠点づくり」等)に触れる	ルーテル学院大学 教授 和田敏明氏
15:50~16:00 (10分)	休憩			

<p>講義・演習④ 16:00～19:10 (180分・途中 10分休憩)</p>	<p>個を支える地域づくり</p>	<p>◆前の休憩 前半の事例シート(エコマップ①②記入スペースあり)を配付する。 ◆前半(90分) 1.講義の目的(原田先生)+事例紹介①「会う前」(勝部氏)10分 事例概略シートで紹介する 2.個人ワーク エコマップ①書き方説明(原田先生)+作成 10分 3.事例紹介②DVDを流す「会ってから現在」(勝部氏)10分 4.個人ワーク エコマップ②作成 5分 5.個人ワーク プロセスレポートシートの整理 10分 6.グループワーク プロセスレポートシート共有15分 7.グループワーク 支援のポイント共有 10分 8.全体共有 グループ発表 +解説(原田先生・勝部氏) 20分 ◆休憩10分 後半の事例シート、ワークシート(個人用A3、グループ共有用A1)を配付する ◆後半(80分)(10分余裕を持たせている) 1.講義の目的(原田先生) 2分 2.事例紹介(勝部氏)3分×3事例 10分 1・2・3列目は事例A、3・4・5列目は事例B、6・7列目は事例C 3.個人ワーク ワークシート記入 8分 4.グループワーク 支援内容について討議 20分 5.グループワーク 報告・ディスカッション 10分×2セット 6.解説・事例紹介仕組みづくりについて(原田先生・勝部氏)15分</p>	<p>○コミュニティワークの展開 ○個と地域の一体的支援について学ぶ ○地域住民への福祉教育の推進 ○事例を通して地域を作る必要性を伝える ○地域づくりを他人事にせず、一体的に考える必要性を伝える ○生活困窮者支援に必要な社会資源とは ○地域にある既存の資源との連携 ○コミュニティアセスメントの視点 ※前後半グループワークは6人グループ。 1グループ3名で着席しているため、前後で6人のグループを作る。 ◆前半 目的:ソーシャルサポートネットワークを作る プロセスを学ぶ ・支援のポイント(本人) ①信頼関係の構築 ②協力者を募る ③本人と近隣を結ぶ ④橋渡し。翻訳機能。 ⑤困った人から困っている人へエンパワメントにつなげる支援へ ・支援のポイント(周囲) 周囲も支援の対象。近隣のアセスメントができていない。 攻撃している人とも関係づくり ①誰がキーパーソンか?→協力者と批判者の両方 ②近所の人も一人一人しっかりアセスメントしていく ◆後半 目的:予防と新しい支援の仕組みを考案する発想を学ぶ</p>	<p>(ファシリテーター) 日本福祉大学教授 原田正樹氏  (実践事例紹介者) 豊中市社協事務局参事 勝部麗子氏</p>
19:10～19:20 (10分)	1日目の振り返り			九州大学 客員教授 加留部貴行氏
19:20～19:30 (10分)	交流会会場へ移動	ロフォス宿泊者のチェックイン手続きがある		
19:30～21:00 (90分)	交流会	受講者のみで160名以上参加	会場のキャパシティ上、立食	

<後期>主任相談支援員プログラム 第2日目 8月26日(水)

科目	【講義と演習③】生活困窮者支援を通じた地域づくりⅡ
時間	9:00～12:15(180分)講義・演習
目的	生活困窮者支援を通じた地域づくりの考え方、地域との協働・連携のあり方について理解する。
到達目標	・生活困窮者支援と地域づくりの必要性和留意点について理解する。 ・地域づくりの手法(ワークショップ)について理解する。

時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
8:30～9:00	開場			
講義・演習⑤ 9:00～12:15 (180分、途中 休憩15分)	社会資源とネットワークの開発	<p>1. 原田先生から趣旨・進め方など話題提供 2. 井岡氏 (1)講義「ネットワークづくり」(①3年間のネットワークの広げ方、②住民の巻き込み、③専門職の役割)、④地域福祉活動計画【30分】 (2)ワーク(3名1グループ)「ネットワーク構築に向けての企画(どういうところどどのようにつながるのか、のプランニング)」 個人ワーク :ワークシート記入(15分) グループワーク:報告と議論(15分) 質疑応答(10分) ※イメージ～高島でのワンコインカフェなど居場所作りや困窮を通じたネットワークづくりの新たな視点の理解 (3)まとめ(15分) 3. 西岡氏 (1)講義「出口」をどのように形作るか(①企業への「翻訳」の大切さ、②主任としての役割、③企業へのプログラム提案のポイント)【60分】 (2)原田先生、西岡氏とのやりとり ⇨受講者とのQAやりとり</p>	<p>○第1日目午後の「個を支える地域づくり」を受けての講義・演習。 ○社会資源開発や創出の必要性和、そのための視点や具体的な手法を学ぶ。 例)就労支援の視点から見た地域づくりとは 例)社会資源の開発に向けた人々とのネットワークづくりの実際とは ○「ネットワーク」も多層的に作ることの大切さ 例)行政と民間との協働連携(地域福祉計画、自立支援制度の取り組みの連携の可視化) 例)社会資源開発とそれらの資源のネットワーク形成 例)庁内連携はじめ行政内部の調整 ○主任相談支援員の役割 例)社会資源開発やネットワークのコーディネートその他に、庁内連携におけるコーディネート機能や提言機能</p>	<p>【講師】 日本福祉大学教授 原田正樹氏  【事例発表】 A'ワーク創造館 就労支援室室長 西岡正次氏 (前豊中市)  高島市社協 事務局長 井岡仁志氏</p>
12:15～13:15 (60分)	昼食・休憩			

<後期>主任相談支援員プログラム 第2日目 8月26日(水)

科目	【講義と演習④】支援困難事例の検討
時間	13:15～17:00(210分) 講義・演習
目的	個と地域をつなぐ視点を理解する
到達目標	・知っている人を知っているという人物像を目指す

時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
講義・演習⑥ 13:15～17:00 (210分、途中 休憩15分)	支援困難事例の 検討	(1)趣旨と進め方のオリエンテーション (2)事例の紹介(2事例実施) ①事例紹介(10分) ②事例の背景や提出者の判断理由等必要な 情報の聴き取り(ポイントに絞って。 聞き手:助言者)(5分) ③討議テーマを示す (3)グループ討議(6名)(25分) ①事例を自分はどう考えるのか、他のメンバーの 意見はどうか ②進行は各グループの進行役が行う(進行役が 「主任」の役割、他のメンバーが相談支援員、 就労支援員=2回目は進行役交代) ③付箋にケースの情報や自分の考えを書き、 グループで整理しながらボードに整理していく ※事例検討ワークの講師・助言者役割分担は、 ①「緊急性」は勝部氏、大戸氏、 ②「支援拒否」は田中先生、上原氏 (4)全体/検討結果の発表/助言者コメント(15分) ①ケースの見立てはどうだったのか、支援の構想 はどうかを議論する ②助言者から、見立て、支援の構想を示し、感想 を含めコメント(勝部氏～地域づくり、大戸氏～ 地域連携、上原氏～見立てについて、 それぞれ触れてもらう) ③田中先生:議論の内容によっては、受講者側に たった質問、意見なども投げかける (5)まとめのコメント (助言者3名@10分、田中先生:20分)	○高度な相談支援(困難ケースへの対応)に ついて、具体的な支援の考え方やその方法 について学ぶ。 ※昨年度と同様の方法で、事前に受講者から 収集した事例をもとに検討していく。 ○事例検討のポイント ①地域へ働きかけたり、地域づくりに関わる 際に、どのようなところに目を向けるのか ②対象者に潜むニーズをどのように見立て るのか(アセスメント) ③支援をどのように構想するのか ○今年新たに盛り込む視点(案) ①早急に支援が必要な人(緊急性が高い 人)への支援 ②支援経過中もしくは終結時における支援 の振り返り(主任相談支援員よる スーパービジョンの視点) ○事例は、事前に受講者から提出してもら う中からピックアップ(事前に選定調整) ※事例の選定ポイントは2点に絞る。 ①緊急性が求められたケース ②支援拒否または関わりの難しいケース ○ワークでは「主任相談支援員」としての チームアプローチを意識させる工夫も行う	【講師・ ファシリテーター】 日本福祉大学 教授 田中千枝子氏 【助言者】 聖隷事業団・ 浜松市生活自立 相談支援セン ター 所長 上原久氏 いちはら生活相 談サポートセン ター 所長 大戸優子氏 豊中市社会福 祉協議会 事務局参事兼 地域福祉課長 勝部麗子氏
17:00～17:15 (15分)	休憩			

<後期>主任相談支援員プログラム 第2日目 8月26日(水)

科目	【講義と演習④】相談支援の展開および主任相談支援員の支援視点 I
時間	17:15～18:15(60分) 講義・演習
目的	アウトリーチ・インテークについて理解する
到達目標	包括的なアウトリーチとインテークの重要性について理解する

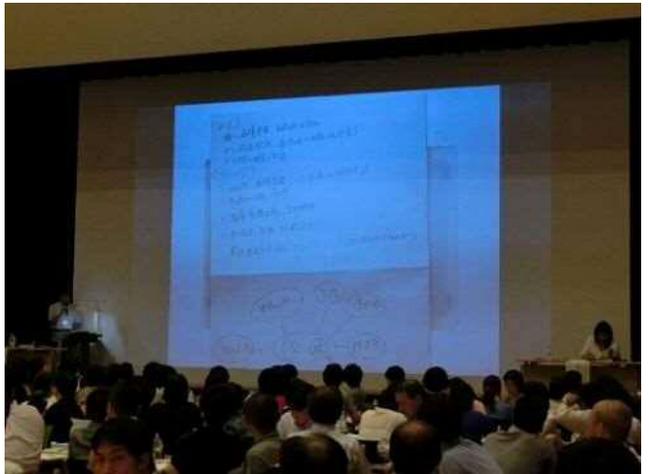
時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
講義⑦ 17:15～18:15 (60分)	アウトリーチ・イン テーク	①佐藤氏 講義 (20分)パワポ使用 ②上原氏 講義 (20分)パワポ使用 ③佐藤氏、上原氏 対談形式(20分) パワポ使用可能性あり	○相談者の状態像や置かれている課題等を 見立てる際に求められる視点や考え方を説明 する。 ○それぞれ必ず伝えたいことについて3～5本の 柱を決めて講義する。 柱のメモ 佐藤氏(主に理論) ・アウトリーチの重要性 ・インテークは最初が肝心 ・アウトリーチとインテークを分離しない 等 上原氏(主に実践) ・支援の全過程とアウトリーチの関係 ・インテークにアウトリーチを用いる ・支援関係→信頼関係の構築へ ・生活風景を描く 等	聖隷福祉事業団 浜松市生活自立 相談支援セン ター 所長 上原久氏 雄勝福祉会 人材育成次長 佐藤博氏 (前厚生労働省 地域支援対策 専門官)
18:15～18:30 (15分)	2日目の振り返り			九州大学 客員教授 加留部貴行氏
18:40～19:40 (60分)	テーマ別座談会			

<後期>主任相談支援員プログラム 第3日目 8月27日(木)

科目	【講義と演習⑧】相談支援の展開および主任相談支援員の支援視点Ⅱ
時間	9:00～13:00(240分)、14:00～15:00(60分)講義・演習300分
目的	
到達目標	

時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
8:30 ～9:00	開場			
講義・演習⑧ 9:00～13:00 (240分)	アセスメント・プラン 作成	<p>演習1:アセスメントシート・プランシート(ポイントのみ)作成(125分) 【事前配布資料】・事例シート①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立相談支援機関及び相談支援員の基本情報</li> <li>・インテーク・アセスメントシートA4(個人ワーク用)</li> <li>・インテーク・アセスメントシートA1(グループ共有用)</li> </ul> <p>○事例紹介とシート作成(グループは6名(属性ランダム))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例シート①+インテークアセスメントシートを紹介(岩間先生(シート①)、朝比奈氏(アセスメントシート))(20分)</li> <li>・個人ワーク インテーク・アセスメントシートに記入(15分)</li> </ul> <p>記入項目(帳票P.6:アセスメント結果の整理と支援方針の検討「課題と背景要因」、「※課題のまとめと支援の方向性」(これ以外の項目は記入済み))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ共有→グループシートA2サイズに整理(35分)</li> <li>→講師陣は会場内を回り、グループ発表をするグループを決める。</li> <li>・グループ発表(3～4グループ×3分=15分)+解説(15分)=(30分)</li> <li>→解説は岩間先生が各助言者に振る。</li> </ul> <p>【資料配布】インテークアセスメントシートおよびプラン兼事業等利用申込書の模範解答(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岩間先生と朝比奈氏が解説する。模範解答の解説とプランシート位置づけ。(20分)</li> <li>○休憩(15分)(11:15～)スクール形式に戻す。</li> </ul> <p>【休憩中 配布資料】・事例シート②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習2上原氏レジュメ</li> <li>・演習2ワークシート(問を記載)</li> </ul> <p>演習2:主任の視点・スーパービジョンについて学ぶ(90分、11:30～)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○岩間先生の導入・説明(5分)</li> <li>○事例シート②を紹介(岩間先生)(10分)</li> <li>○上原氏解説(15分)→レジュメあり</li> <li>○個人ワーク(主任としてどう対応するか?を考える。早く終わった机から3人で共有)(上原氏)(15分)</li> <li>○グループワーク 共有(10分)</li> <li>○個人発表(15分)</li> <li>○各助言者コメント・岩間先生まとめ(20分)</li> </ul>	<p>○各種帳票を用いてインテーク・アセスメントシートを作成する。 ※相談支援員・後期よりも発展的な内容として、主任独自の視点等を盛り込む。 ○どこに気を付けるべきか?どう指示を出すべきかを瞬間的に考えられる力を身に付ける</p> <p>※後期相談との差別化を整理する ※チームアプローチをどのように講義の中で反映させるかを考える</p>	<p>【講師・ファシリテーター】 大阪府立大学大学院教授 岩間伸之氏</p> <p>【助言者】 中核地域生活支援センターがじゅまるセンター長 朝比奈ミカ氏</p> <p>聖隷事業団・浜松市生活自立相談支援センター所長 上原久氏</p> <p>野洲市役所 市民生活相談課 主任 宇都宮誠実氏</p>
13:00～14:00 (60分)	昼食・休憩			
講義⑨ 14:00～15:00 (60分)	支援調整会議	<p>○グループワーク(10分間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の支援調整会議について</li> </ul>	<p>○支援調整会議の役割、機能を学ぶ。 ○支援調整会議を活用した地域づくりやネットワークづくりの可能性と条件を学ぶ。 相談支援員にも影響はあるのか? 主任の視点をしっかりと入れてするので別ものとなる</p>	<p>厚生労働省 自立支援企画調整官 鈴木奈津子氏</p>
15:00～15:15 (15分)	休憩			
講義・演習⑩ 15:15～16:15 (60分)	まとめ	<p>○前半 原田先生 講義 (40分)</p> <p>○後半 加留部先生 演習(20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート配布</li> <li>・個人ワーク(3分)</li> <li>・グループワーク(15分)</li> </ul>	<p>○3日間を振り返り、学んだことを整理する。 ○ワークを小グループで行う。 例)これからの業務の中で、踏み出していきたい一歩目は何か。 例)あなたが持ち帰って他の職員に伝えたいキーワード。 例)1年後、どんな支援を行っていたいか。どんな職場を創造していったいか。そのためにやるべきことは何か。</p>	<p>日本福祉大学 教授 原田正樹氏</p> <p>九州大学 客員准教授 加留部貴行氏</p>
16:15～16:30 (15分)	研修の振り返り (主任相談支援員前期+後期の最終)	<p>①同じ机の3名で短時間バズセッション ②アンケートを書いていただく 最後に事務局がアンケート回収等をアナウンス</p>		
16:30～16:45 (15分)	厚労省閉会挨拶 修了証書の交付等 閉会	厚労省挨拶、修了証書の交付と事務連絡を行う	各自の修了証書は、閉会後に各自が通路の机から自分の分をもっていく	厚労省 事務局

【後期】主任相談支援員養成研修 研修会の様子



### 3 【後期】相談支援員養成研修

#### <後期>相談支援員プログラム 第1日目 10月7日(水)

科目	相談支援の展開Ⅰ 相談支援(対人援助)の理念			
目的	○ 相談支援を実施する上での基本的・基礎的な支援姿勢及び支援手法を学ぶ。 ※ 3日間共通のテーマとして「対象者のニーズをどう支援するか」「本人とどう向き合うのか」			
時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
9:30～10:00	受付			
10:00～10:10 (10分)	オリエンテーション			事務局
10:10～12:10 (120分)	個別支援の基本	①講義(25分) 岩間先生 ②事例の共有(25分) 岩間先生・田中氏 ※シート1(事例)配布→朝の段階で事前配布 ・6人グループになり、ロールプレイ(読み合わせ) ※ワーク直前にシート2配布(設問2つ:①今の次男をどのように理解しますか?②これから次男に対して、どのように働きかけますか?) ③個人ワーク(10分) ④グループミーティング(15分)3人グループ ⑤グループ発表(10分) ⑥講師まとめ(10分) ⑦グループミーティング(10分) ⑧グループ発表(5分) ⑨講師まとめ(10分)	○援助関係を構築するとはどういう意味を持つのか、構築することでどういう援助が可能になるのかを学ぶ。 ○個別支援の基本 ○前半講義 ○後半事例検討(地域と切り離せないような) ※事例のイメージ例 「日自」から入って家族全体への支援に繋がった例(1年間でこういう風に変った)など、関わりの難しい事例に伴走型でかかわり、地域との関わりもあるイメージ。	【講師】 岩間先生 【事例提供者】 田中奈美氏 (八幡浜市社協)
12:10～13:10 (60分)	昼食・休憩			
13:10～15:10 (120分)	援助関係をつくりにくい人への支援	○生活困窮者への支援場面を想定した事例検討やロールプレイを盛り込む ・インシデントプロセスによる事例検討 ①事例紹介(5分) ②情報収集・支援の焦点化(10分) ③対応案の発表(10分) ④対応案についてのコメント(5分)	○発達障害などメンタルヘルスに配慮すべき人の特性を理解する ○相談者に対しての適切な対応方法を理解する ○診断名だけで判断しない ○発達障害の方への対応は混乱している人に対しても応用できる基礎だと伝える ○援助関係をつくりにくい人と地域をつなげる方法	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 発達障害対策専門官 日詰氏
15:10～15:25 (15分)	休憩			
15:25～16:55 (90分)	アウトリーチ	○講義中心に進行し、合間にグループワークを実施 ・グループワーク①アウトリーチが必要な状態像 ①事業をはじめて発見しつなげられた人を出しあう(10分) ②事業をはじめて発見できず、つなげられなかった人を出しあう(10分) ③発表(5分) ・グループワーク②具体的に考えてみよう ①日常的にアウトリーチをするために何が必要か ○相談支援員として必要なこと ○自立相談支援機関として必要なこと ○地域として必要なこと、をグループ毎にワークシートに記入しまとめる(15分) ②発表(5分)		一般社団法人 インクルージョン ネットかながわ 代表理事 鈴木晶子氏
16:55～17:10 (15分)	休憩			
17:10～18:40 (90分)	観察と記録	○講義中心に進行し、合間に3つの事例を提示し、個人ワークとグループワーク(協議)を実施 ○ワーク①ケア会議の開催(5分) ○ワーク②糧訪問に同行(5分) ○ワーク③同行支援(5分) ○最終、質疑応答あり	○記録は要約して書くもの。相談員が個人の感想と切り分けて客観的に事実を正確に表現する。 ○観察とは意識して見えてなかったら記録にも残らない。 ○何を書いたらいいのかということを取捨選択して書いている。 ○本人の言葉を記録するためには、本人から引き出す面接技術が必要。	聖隷福祉事業団 上原氏 (浜松市生活自立支援センター 所長)
18:55～20:00	交流会			

<後期>相談支援員プログラム 第2日目 10月8日(木)

科目	相談支援の展開Ⅱ 相談支援に求められる技術			
目的	① 関係機関との連携のあり方や地域づくりの視点を学ぶ。 ② 支援調整会議の開催方法とあり方を学ぶ。			
時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
8:30～9:00	受付			
9:00～9:10 (10分)	オリエンテーション			
9:10～10:50 (100分)	自立相談支援員が もつべき就労支援 の視点	<p>進行</p> <p>① 9:10～9:15 セッションのねらいの説明 鈴木氏</p> <p>② 9:15～9:45 取組内容の説明 鈴木氏、榑部氏から、それぞれパワーポイントを 使って説明(15分×2)</p> <p>③ 9:45～10:45 ミニセッション 【テーマ1】「雇用」「就労」「生活保障」をわけるとは？ (資料1)体系図 【テーマ2】ソーシャルワークと就労支援 (資料1)体系図 【テーマ3】「(狭義の)専門性」をどう超えるか 【テーマ4】チーム支援とチームづくり (資料2)学びの見取り図 【テーマ5】行政との協働、地域づくり</p> <p>④ 10:45～10:50 セッションのまとめ 鈴木氏</p>	<p>○ 自立相談支援事業又は相談支援員にとっての就労支援について、ポイントを 確認する。多様なニーズに対し、一貫した方針の下で包括的な支援を提供する ためには、就労支援を就労支援員にお任せするというのではなく、相談支援員も、 基本的なポイントを抑えておくことが重要。 ※ 前期研修において、就労支援の基本的な考え方について、若干の実践報告を 含めセッションを行っているため、本セッションでは、これを踏まえ、対話形式で 具体的なイメージが湧くように掘り下げる。</p> <p>○ 具体的には、</p> <p>① 働くことの意味・意義や3つの自立のかたち(日常生活自立、社会生活自立、 就労自立)を抑える。</p> <p>② 多様な就労支援策(ハローワーク、中間的就労、就労準備との関係)と本人に 合った支援の重要性、スモールステップを意識した支援を考える。 ※ 「学びの見取り図(就労支援員用)」を参考にする。例えば、時間があれば、 重要な要素である社会資源の開発(企業開拓)にも触れる。</p> <p>【留意点】</p> <p>○ 自治体によって事情が異なることに留意する。例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 就労準備支援事業を実施しているか否か、</li> <li>・ ハローワークとの関係がどうなっているか、</li> <li>・ 無料職業紹介の手続きを取っているか、</li> <li>・ 就労支援員と相談支援員等が兼務しているか専任か、</li> </ul> <p>などにより状況が異なることから、「正解」も多様であることを理解しながら、 一方で、共通する基本的な考え方を抑えることとする。</p>	<p>インクルージョンネット かながわ 鈴木氏</p> <p>釧路社会的企業創造 協議会 榑部氏</p>
10:50～11:05 (15分)	休憩			
11:05～14:35 (150分)	任意事業との連携 のあり方 (講義55分) 12:00～13:00 (就労準備支援事 業や家計相談支援 事業との連携を中 心に) (セッション95 分)	<p>進行</p> <p>① 11:05～11:10 セッションのねらいの説明 鈴木氏</p> <p>② 11:10～12:00 取組内容の説明 平田氏、北島氏、上原氏から、 それぞれパワーポイントを使って説明(15分×3)</p> <p>③ 12:00～13:00 昼食休憩</p> <p>④ 13:00～14:30 ミニセッション ※ 1問5分×3とすれば、5～6問。 プラン作成前→プラン実施中→フォローアップ→顔の見え る関係性の築き方→支援調整会議とケースカンファレン スの利用方法→任意事業から自立支援への期待という 順で聞いていく。 ※ 上原氏に任意事業を扱った具体的なプランシートを 提示してもらい、連携の例を説明してもらうという 方法も考えられる。</p> <p>⑤ 14:30～14:35 セッションのまとめ 鈴木氏</p>	<p>○ 自立相談支援事業と任意事業との連携の在り方を学ぶ。</p> <p>① 任意事業実施側から「自立のプランに組み込まれていない」「プラン作成中に 関与させてもらっていない」といった声があることに対応し、任意事業実施者 によるミニシンポとしている。ただし、任意事業側からの要求セッションにならない よう注意し、上原さん(自立相談の立場)にも登壇いただくこととしている。</p> <p>② 任意事業を実施していない事業所に向けた本講義のねらい ・任意事業との連携方法を学ぶことは、地域の人や社会資源を巻き込む方法や 手法を学ぶことにもつながる。(例えば、就労準備支援事業との連携は、 サボステとの連携方法にも応用可能。)</p> <p>※なお、本講義は、プラン作成から終結にいたるまでの支援プロセスの中で、 具体的にどのように関係機関と連携を図れば良いかについて説明。 (次の榑部さんのセッションでは、地域を巻き込んだ支援手法やネットワークの 作り方について扱う。)</p> <p>【留意点】</p> <p>○ 自立と任意の連携の在り方も多様である。可能であれば、面談からケース会議、 支援調整会議に任意事業の担当者が参画することが望ましいとした上で、ケース 数などにより困難な場合には、通常から顔の見える関係を作り、事前に良く役割 分担などを話合っておくことが重要と考えられる。</p>	<p>【コーディネーター】 インクルージョンネット かながわ 鈴木氏</p> <p>【就労準備支援事業】 ユニバーサル就労 ネットワークちば 副理事長 平田氏</p> <p>【家計相談支援事業】 グリーンコープ (福岡県家計相談支 援事業所) 北島氏</p> <p>【自立相談支援事業】 聖隷福祉事業団 (浜松市生活自立支 援センター)所長 上原氏</p>
14:35～14:50 (15分)	休憩			
14:50～16:30 (100分)	地域を基盤とした 相談支援の方法	<p>進行</p> <p>①14:50～15:00 (ねらい等)【岩間先生】</p> <p>②15:00～15:40 事例紹介とワーク1 「緊急の状況下での地域の巻き込み方(制度につなげる までどうするか)」【榑部氏】</p> <p>○事例紹介(25分)</p> <p>○個人ワーク(5分) ワークシート記入</p> <p>○グループワーク(15分) 協議・共有</p> <p>○報告(10分)</p> <p>15:40～16:20 事例紹介とワーク2 「その後の状況変化の中で、地域でどう取り組みが 可能か」【榑部氏】</p> <p>○事例紹介(25分)</p> <p>○まとめ(5分)</p> <p>ワークシート2実施せず</p>	<p>○ワークを主体。扱う事例は、可能な範囲で、地域づくり・「場」づくり・ネットワーク 作りに特化した内容とする。</p> <p>○ソーシャルネットワークづくりの際に次にどうつながるかをイメージして動く視点を 持って取り組む</p> <p>○地域をどう巻き込むか</p> <p>○地域を基盤にした支援方法</p>	<p>講師:豊中市社協参事 榑部麗子氏 コーディネーター: 岩間先生</p>
16:30～16:45 (15分)	休憩			
16:45～17:35 (50分)	相談支援の展開Ⅲ 相談支援の展開	<p>◆セッション① ※6人グループ 16:45～17:00(15分)【講義】自立相談支援事業におけ る帳票類が持つ意味 講師:岩間先生</p> <p>シート①計35分 17:00～17:05(5分)導入説明 岩間先生 17:05～17:10(5分)シート①の説明 17:10～17:15(5分)個人ワーク(ワークシート①初回面 接では何を目標にするか)【事務局作成】 17:15～17:30(15分)グループワーク 17:30～17:40(10分)全体共有とまとめ 17:40～17:50(10分)帳票類解説(相談受付・申込票)</p> <p>※(参考)相談受付・申込票を作成する必要あり</p>		<p>【講師】 大阪市大学 岩間先生</p> <p>【コンテナーター】 ・インクルージョンネット かながわ 代表理事 鈴木氏 ・八幡浜市社会福祉協 議会 地域福祉課長 田中氏 ・聖隷福祉事業団 浜松市生活自立支 援センターつながり 所長 上原氏</p>
17:45～18:45 (60分)	テーマ別交流会 (オプション企画・ 希望参加制)			

<後期>相談支援員プログラム 第3日目 10月9日(金)

科目	相談支援の展開Ⅲ 相談支援の展開			
目的	○自立相談支援事業における相談支援の本質を学ぶ ○各帳票類の意義と有意義な活用方法を学ぶ ※全般的に、相談支援プロセスの中で、評価までの全体のフローの紹介を意識した構成			
時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
8:30～9:00	受付			
9:00～9:10 (10分)	【オリエンテーション】本日のねらいと構成	シート②・ワークシート②配布		【講師】 岩間先生
9:10～10:25 (75分)	相談支援の展開	◆セッション②(75分) シート②事前配布 9:10～9:15(5分) 導入説明 岩間先生 9:15～9:20(5分) グループ内役割決定と読み上げ 9:20～9:45(25分) 個人ワーク・グループワーク 9:45～10:20(35分) 全体共有とまとめ	※ワークシート②: 1. この時点で今後必要となる情報は何か 2. その情報をどのようにあつめるか 3. 今後どのように支援を展開するか	
10:20～10:30 (10分)	休憩	シート③・ワークシート③配布		
10:30～11:50 (70分)	相談支援の展開	10:30～10:35(5分) 導入説明 岩間先生 10:35～10:45(10分) シート③共有 10:45～11:35(50分) 個人ワーク(40分)・グループ内シェア(10分) 11:35～11:45(10分) 課題のまとめと支援の方向性解説 岩間先生 11:45～11:50(5分) 登壇者コメント	※個人ワーク: 全ての空欄のインテークアセスメントシート(4ページ、スクリーニングの前)までを記入してもらう	【講師】 岩間先生
11:50～12:50 (60分)	昼食休憩	※昼食休憩中に付箋を用いて質問を受け付ける 内容: プラン作成から終結までについてセッション③でふれる為、質問があれば付箋に記入してください(インテーク・アセスメントを除く) ※平成27年度は実施せず		【コメンテーター】 市川市生活サポートセンターそら主任相談支援員朝比奈氏
12:50～15:00 (130分)	相談支援の展開	12:50～14:10(80分) グループ討議 14:10～14:40(30分) 全体共有(4グループ発表)とまとめ ※参考資料配布 14:40～14:55(15分) 帳票類解説(インテークアセスメントシート)	※グループ討議: アセスメント結果の整理と支援方針の検討「課題と背景要因」、「※課題のまとめと支援の方向性」、「※チェック項目」	インクルージョンネットかながわ代表理事 鈴木氏 聖隷福祉事業団浜松市生活自立相談支援センターつながりセンター長 上原氏 八幡浜市協地域福祉課長 田中氏
15:00～15:15 (15分)	休憩			
15:15～17:10 (115分)	相談支援の展開	◆セッション③(115分) 15:15～15:20(5分) 導入説明 岩間先生 ●パネルディスカッション① 15:20～15:30(10分) 参考プランシート解説 朝比奈氏 15:30～15:45(15分) 「アセスメントシートとプランの関係」、「本人との共同作業」講義+やりとり 15:45～16:05(20分) プラン作成と支援調整会議の役割 ●パネルディスカッション② 16:05～16:35(30分) 「評価と再プラン(プラン修正)・終結」 ※まとめ(岩間)5分←それ以外のパターン、多様性、どのようなときに終結とするか(上原・鈴木)5分←事例シート④共有・追記(朝比奈)15分←解説PPT使用(鈴木)5分 16:35～16:36(1分) 個人ワーク「聞いておきたいこと」 16:36～16:39(3分) グループワーク 協議「質問を決める」 16:36～16:56(20分) 質疑応答 ※15:35～15:45(10分) 帳票類解説 平成27年度実施されず ●全体のまとめ 16:56～17:10(14分) 岩間先生		
17:10～17:30 (20分)	修了式			

【後期】相談支援員養成研修 研修会の様子



## 4 【後期】就労支援員養成研修

<後期>就労支援員プログラム 第1日目 12月9日(水)

日時	概要	内容	講義のポイント	講師
9:30~10:00	受付			
10:00~10:10 (10分)	オリエンテーション		○3日間の研修の全体像(学びの見取り図)の確認と、1日目の研修の流れ・ポイントの確認。	事務局+ 加留部委員
10:10~11:40 (90分)	はじめに	【講義と演習①】 就労支援の実施方法 I	○前期の振り返りと後期研修の目的(学びの見取り図も活用) ○生活困窮者自立支援制度における就労支援の内容の確認。 ○「支援を育てる」事例の確認と共有。 (事前課題に基づき事例を持ち帰る) ○簡単なワーク(同じ机の3名) ①「ストレングスを探そう!!」(5分) グループワーク 優勝グループにはストレングスマイスター認定書を贈る ②「支援検討シート」への記入(10分) 個人ワーク	明治学院大 新保委員
11:40~12:40 (60分)	昼食休憩			
12:40~14:50 (130分)	総論  包括的な 相談支援 の視点	【講義と演習②】 就労支援の実施方法 I	○就労支援の進め方を学ぶ、「ゴールイメージを描く」 ○「出口支援」の考え方と具体的な方法。 ○白水氏の講義:60分+加留部氏によるワーク:70分 (前半3名⇒後半6名のワーク) ①事例紹介(5分)白水様 「こんな方が窓口に来たらどう対応するか」 ②個人ワーク(5分)「支援策を30個書き出し」 ③グループワーク(10分)アイデアの共有・整理 ④全体共有(10分)他グループの様子を歩き見る ⑤グループワーク(10分)他グループの情報を整理 ⑥グループ発表(5分) ⑦講師コメント(10分)	一般社団法人 キャリアブリッジ 顧問 白水崇真子氏  コーディネーター 九州大 加留部委員
14:50~15:05 (15分) 休憩				
15:05~16:05 (60分)	ハローワークの 役割と連携	【講義と演習③】 就労支援の実施方法 I	○ハローワークの事業を知る。(ハローワークの役割、 職業紹介とは、生保事業と自立相談との連携など) ○グループワーク ハローワーククイズの協議と回答(2問)	千葉労働局 地方訓練 受講者支援室 室長補佐 山本政好氏
16:05~16:10 (5分) 休憩				
16:10~17:00 (50分)	ハローワーク における就労 支援		○ハローワークで実施している相談支援、取組等支援手法について ○就労意欲喚起の取組、窓口での相談の技術などハローワークの 専門性について ※あくまでも、ハローワークにおける手法であることを伝える。 ○自立相談支援機関の支援員とハローワークナビゲーターの連携について	ハローワーク 市川 就職支援 ナビゲーター (生保担当) 南川 文氏
17:00~17:15 (15分) 休憩				
17:15~18:15 (60分)	労働 行政に ついて	【講義と演習④】 就労支援の実施方法 I	○労働法制について (クイズ形式も導入) ○ハローワークの視点からの企業支援、企業訪問、求人開拓 等についても触れる。	高木剛氏 (厚生労働省 生活困窮者 自立支援室 室長補佐)
18:15~18:25 (10分)	まとめ			加留部委員
18:45~20:00 (75分)	交流会			

<後期>就労支援員プログラム 第2日目 12月10日(木)

日時	概要	内容	講義のポイント	講師
8:30～9:00	開場			
9:00～9:10 (10分)	オリエンテーション			
9:10～11:50 (145分+途中休憩15分)	個人への相談支援	【講義と演習⑤】 就労支援の実施方法Ⅱ	<p>○主任向けプログラムと同様、昨年度の就労支援員養成研修の修了者を事例提供等の講師に迎える。</p> <p>○学びの見取り図「丁寧な相談支援」「チームによる支援」「切れ目のない支援」「社会資源の活用と開発」について、実際にどのように実践しているのか説明する。</p> <p>○とりわけ、後期研修3日間のプログラムの中で、個別支援に関して触れられるのはこの時間だけなので、利用者へのアプローチ、抱えている課題に対しての支援のプロセス、支援の過程でのエピソードなどを盛り込む。</p> <p>○昨年度研修で学んだ理念をベースとして、支援がどのように進んでいるのかについても報告してもらう。</p> <p>9:00～9:08 加留部先生～オリエンテーション 9:08～9:10 事務局 MC⇒登壇者紹介 9:10～9:15 新保先生⇒趣旨説明とオリエンテーション(5分) 9:15～9:25 【セッション1】 「昨年の後期研修で一番印象に残っていることは何?」 小林氏⇒渡部氏⇒四宮氏の順。簡単な自己紹介含む。@3分×3名(10分) 9:25～10:15 【セッション2】 (1)「この1年で取り組んでみたこと」についてレポート(①事業所の紹介、②支援員としての姿勢(目標、研修の学びを活かしたこと等)、③学びの見取り図にもある「丁寧な相談支援」、「チームによる支援」に関する取り組み紹介。 ※セッション2では、それぞれの団体の就労支援の特徴について、アプローチなどプロセスを含め紹介。 (2)各10分の発表+新保先生とのやりとり各5分(50分) (3)進め方のイメージ～後段の新保先生のやり取りはQ&amp;A方式で進行。PPTで新保先生からの「(問いかけ・投げかけの)Q」を映写。そのQ(4つの卵の図の「きちんと」の小柱等)に対する応答的な「A」についてのキーワードをPPTで映写しながら発表。 (4)発表順 四宮氏⇒小林氏⇒渡部氏 10:15～10:25 休憩(10分間) 10:25～11:25 【セッション3】 (1)3名から「この1年印象に残る事例の報告」 ※セッション3では、具体的事例紹介を通じて支援の特徴など紹介 (2)進め方 ①1人@10分の報告⇒②グループで参加者間でバスセッション(5分)⇒③解説・コメント(報告者、コーディネーター)(5分)=20分×3名=60分 (3)発表順 渡部氏⇒小林氏⇒四宮氏 ※渡部氏DVDの事例を4～5分上映 11:20～11:35 【セッション4】 (1)先輩から後輩へのメッセージ(各自5分×3名=15分) ※エピソード等含む (2)発表順 小林氏⇒渡部氏⇒四宮氏 11:35～11:50 新保先生⇒解説まとめ 終了</p>	<p>加留部委員</p> <p>○新保委員</p> <p>【昨年度の修了者(3名)】 ○小林万理氏 (釧路市生活相談支援センターくらしごと)</p> <p>○渡部敬二氏 (福島県社会福祉協議会津事務所)</p> <p>○四宮康亮氏 (大阪・箕面・暮らしづくりネットワーク北芝)</p>
11:50～12:50 (60分)	昼食休憩			
12:50～15:20 (135分+途中休憩15分)	アウトリーチの実際と危機管理	【講義と演習⑥】 就労支援の実施方法Ⅱ	<p>○アウトリーチの実際</p> <p>○危機管理の視点など</p>	<p>佐賀・NPOスチューデント・サポート・フェイス代表 谷口仁史委員</p>
15:20～15:35 (15分) 休憩				
15:35～17:15 (100分)	多様なプログラムづくり	【講義と演習⑦】 就労支援の実施方法Ⅱ	<p>○プログラム作りの方法や考え方</p> <p>○意欲喚起</p> <p>○スモールステップを意識した支援など</p> <p>○演習「事例に沿ってのプログラム作成」 ①個人ワーク(3分)「セミナー作成」 ②グループワーク(5分)共有(3名グループ) ③講師まとめ</p>	<p>沖縄県労働者福祉基金協会就職・生活支援パーソナル・サポート・センター南部事務所 岡野みゆき委員</p>
17:15～17:30 (15分) 休憩				
17:30～18:40 (70分)	職場内のチームづくり 地域のネットワークづくり	【講義と演習⑧】 就労支援の実施方法Ⅲ	<p>○釧路での実践に沿った内容とする。併せて、実務的な参考資料も紹介。</p> <p>○主任相談支援員、相談支援員との連携や関係づくり</p> <p>○地域の様々な関係機関とのネットワークづくり</p> <p>○講義40分+演習30分</p> <p>○演習①相談支援・就労支援のゴールは?②働きやすい職場のために気を遣っていること・心がけていること ①グループワーク(5分)①と②について協議(3人グループ) ②発表(10分)(6グループ発表) ③講師まとめ</p>	<p>釧路社会的企業創造協議会 副代表 櫛部武俊委員</p>
18:40～18:50 (10分)	まとめ			
19:00～20:00 (60分)	オプション企画 テーマ別交流会	<p>交流会各グループコーディネーター～</p> <p>【予定】①櫛部委員、②加留部委員、③谷口委員、④岡野委員、⑤白水氏、⑥西岡氏、⑦山本氏、⑧昨年度修了者3名</p>		

<後期> 就労支援員プログラム 第3日目 12月11日(金)

日時	概要	内容	講義のポイント	講師	
8:30～9:00	開場		※朝から6人グループで着席		
9:00～9:10 (10分)	オリエンテーション			加留部委員	
9:10～11:10 (120分)	自治体による 就労支援	【講義と演習⑨】 就労支援の 実施方法Ⅲ	<p>○自治体が行う就労支援とその強み。 ○企業支援、企業訪問などのポイント。 ○定着支援の重要性について。 ○行政との関係づくりについて(委託事業所の場合) 【進行方法】 (1)はじめに(5分)加留部先生 このカリキュラムのねらい、進め方等について解説。</p> <p>(2)講義①(25分)西岡氏「本制度の可能性と就労支援の意味」</p> <p>(3)演習①(30～40分)加留部先生 ① 付箋に「出口」となるものを10個以上あげてもらう。 意図：出口をどのくらい持っているのかを受講者に認識してもらう。なお、受講生に挙げ てもらうものは直接的出口であり、連携先ではないことに留意。 ② 挙げた「出口」が、どのようなことができる出口であるのかを記載する(雇用型、非雇用 型、体験なども含めて)。 ③ ①で挙げた10個を除き、さらに出口になりそうなものを5つあげる。 それらの出口は、実際に誰と協力すれば増やすことができるか、既存の出口をどのよ うにアレンジすると出口をさらに増やしていけそうか、といった視点を持ちながら検討する。 ④ (時間があれば)ワークの結果を発表してもらう。※平成27年度は実施せず</p> <p>(4)質問・コメント(10分)コーディネーター：加留部先生 コメントーター：岡野氏・西岡氏 演習①のワークの結果について、岡野さんと西岡さんからコメントをいただく。</p> <p>(5)講義②(25分)西岡氏「就労訓練事業(中間的就労)等の推進」</p> <p>(6)演習② (5分)加留部先生 西岡さんの講義を受けて、さらに付箋に、出口になりそうな資源を書き足す。</p> <p>(7)質問・コメント・まとめ(20～25分) コーディネーター：加留部先生 コーディネーター：岡 野氏・西岡氏 岡野さん、西岡さんには、講義全体のコメントをいただくとともに、定着支援の必要性やメ リットについてもご意見をいただく。</p>	A' ワーク創造館 (大阪地域職業 訓練センター) 就労支援室長 西岡正次委員  岡野委員 (質問・コメント)  加留部委員 (総合コーデ ィネーター)	
11:10～11:20 (10分) 休憩					
11:20～12:00 (前半40分)	企業への アプローチ	【講義と演習⑩】 就労支援の 実施方法Ⅲ	<p>○企業開拓、企業支援の具体的な方法。 ○社会資源開拓の視点とは。 ○定着支援の必要性とその方法。 <u>○2つのワークを実施(ドットマッピング&amp;企業とのコミュニケーションスキル)</u> <u>ドットマッピングの作業は3人で行う(ワークシートA3カラー)</u></p> <p>○企業開拓ワーク ①ドットマップ作成(8分) グループワーク(3名) ②ドットマップ解析(10分)グループワーク(3名～6名)</p> <p>○コミュニケーションの取り方 ①相手が喜ぶ質問を考える グループワーク(3名)自己紹介を聞いて喜ぶ質問を考える (4分)</p>	(千葉・佐倉市) 社会福祉法人 光明会 障害者就業・ 生活支援 センター長 社会貢献部部長 生活困窮者自立 支援事業統括 山本 樹氏	
12:00～12:50 (50分) 昼食休憩					
12:50～14:30 (後半100分)					
14:30～14:45 (15分) 休憩			※6人グループに1枚模造紙を配付する。 ※初日のグループに変更する		
14:45～16:35 (120分)	まとめ	【講義と演習⑪】 就労支援の 実施方法Ⅲ	<p>○総合演習 ・受講者自ら就労支援を組み立てる ○振り返り演習 ①個人ワーク(10分)支援検討シートに支援を育てるシートの中身を書き加える ②個人ワーク(6分)1年後、半年後、3か月後の見通し記入(各2分×3回) ③グループワーク(15分)支援の見通し(タイムマシーン法)を3名で共有</p> <p>○演習(これからの就労支援であなたが踏み出したい第一歩は何ですか?)(ワールドカ フェ方式) ①グループワーク(15分)テーマに沿って話し合い、気づいたこと等を模造紙に記入 ②グループワーク(20分)他グループに向かい、話を聞き、気づいたこと等を模造紙に記入 ③グループワーク(10分)自グループに戻り、仕入れてきた情報を共有すると共に模造紙に 記入 ④個人ワーク(5分)「あなたが持ち帰って、他職員に伝えたいキーワードは何ですか」を付 箋に記入 ⑤講師まとめ</p>	新保委員 加留部委員	
16:35～16:45 (10分)	研修の振り返り		○アンケートへの記入	加留部委員	
16:45～17:00 (15分)	修了証交付・閉会挨拶				

【後期】就労支援員養成研修 研修会の様子



## 5 就労準備支援担当者養成研修

### 第1日目 7月27日(月)

科目	オリエンテーション、主催者挨拶、厚生労働省挨拶、アイスブレイク			
時間	13:30～14:00(30分)			
目的				
到達目標	地域ごとに着席した受講者が打ち解けると共に自分事として研修に臨む姿勢になる			
時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
12:45 ～13:30	受付			
13:30 ～13:40 (10分)	主催者挨拶、 厚生労働省挨拶	主催者挨拶、厚生労働省挨拶 ・全社協:佐甲部長 ・厚労省:熊木室長		全社協 厚生労働省
13:40 ～13:50 (10分)	オリエンテーション	・事務局が事務連絡を行う。配布資料、備品の確認、研修の流れ、アンケートを説明する。		事務局
13:50 ～14:00 (10分)	アイスブレイク		グループ自己紹介等で打ち解けてもらう	事務局
14:00～	講義①	講義① プログラムシートを参照		

### 第1日目 7月27日(月)

科目	【講義①】生活困窮者自立支援法と就労準備支援事業の基本的な考え方			
時間	14:00～15:30(90分) 講義90分			
目的	生活困窮者自立支援法と就労準備支援事業の内容を理解する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・背景、理念、制度の概要を理解する</li> <li>・自立相談と就労準備の役割と連携等を理解する</li> </ul>			
時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
14:00 ～15:30 (90分)	生活困窮者自立支援法と就労準備支援事業の基本的な考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レジュメに沿った講義形式で説明する。</li> <li>・パワポでレジュメを示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活困窮者自立支援制度の創設背景、理念、事業概要等について説明する</li> <li>○就労準備支援事業の目的と必要性を理解してもらうとともに、支援の内容と流れを説明する</li> <li>○就労訓練事業、自立相談支援事業の就労支援員、ハローワーク、生活保護受給者等就労自立促進事業の役割と就労準備支援事業との連携について説明する</li> <li>○就労準備支援事業のみを切り取らず、自立相談支援事業等の全体像を捉えながら就労準備支援事業を説明する</li> </ul>	厚生労働省 渡邊由美子氏
15:30 ～15:45 (15分)	休憩			
15:45～	講義②	講義② プログラムシートを参照		

第1日目 7月27日(月)

科目	【講義・演習②】就労準備支援担当者の役割と基本姿勢			
時間	15:45～17:15(90分) 講義・演習			
目的	研修の全体像の確認と、就労準備支援担当者に求められる基本倫理と基本姿勢を理解する			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークを通して理念を具体的に理解する</li> <li>自分の問題として取り組む姿勢を身に付ける</li> </ul>			
時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
15:45 ～17:15 (90分)	就労準備支援担当者の 役割と基本姿勢		<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修全体の流れと学びの全体像を示し、研修に向けた動機付けを行う</li> <li>○担当者が生活困窮者自立支援制度に携わる支援員の心構えや基本倫理、基本姿勢を演習等を通じて具体的に説明する</li> <li>○3つの倫理、8つの基本姿勢を使用して、自己確認を促す</li> </ul> <p>【備考】前期共通プログラム『支援員に求められる基本理念と基本姿勢』に類する位置づけ</p>	明治学院大学 新保美香氏
17:15 ～17:25 (10分)	1日目研修の 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>①同じ机の3名で短時間バズセッション</li> <li>②アンケートを書いていただく</li> </ul> <p>最後に事務局が明日の会場、時間、交流会の会場、当日参加等をアナウンス</p>		
17:25 ～17:45 (20分)	交流会会場に移動			
17:45 ～18:45 (60分)	交流会			

第2日目 7月28日(火)

科目	【講義③】本人の状態像に応じた支援のあり方			
時間	9:40～12:55(195分) 講義180分			
目的	対象者の状態像や特性に応じた支援方法について理解する。			
到達目標				
時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
9:30 ～9:40 (10分)	オリエンテーション		<ul style="list-style-type: none"> <li>①グループ間で自己紹介</li> <li>②本日の研修のねらい、目標の共有</li> </ul>	未定
9:40 ～12:55	<p>ミニシンポジウム</p> <p>本人の状態像に応じた支援のあり方</p> <p>9:40～11:10 (90分)講義</p> <p>11:10～11:25 (15分)休憩</p> <p>11:25～12:55 (90分)講義</p>		<p>生活保護受給者、若者支援、障害の3つの対象者の支援団体を迎え、下記の視点を踏まえながら議論を深め、就労準備支援事業の理念や役割、目的等を学び、当該事業の考え方をしっかりと理解する。</p> <p>①日常生活自立に関する支援 適切な生活習慣の形成を促すために求められる支援の方法や視点、対象者が不安やストレスを感じる場面や状況の把握対応方法に関する助言・指導に関して説明。</p> <p>②社会生活自立に関する支援 社会的能力の形成を促すために行う支援の具体例や、コミュニケーション能力の形成等に向けた支援の方法等を説明する。</p> <p>③就労自立に関する支援 就労体験の利用の機会の提供等を行いつつ、一般就労に向けた技法や知識の習得等を促すための方法や支援のあり方を示す。基礎技能や基礎能力の習得に必要な訓練等を説明する。</p> <p>④自立相談支援機関との連携の下に行う支援 就職活動支援や就職後の職場定着支援の必要性、必要に応じて自立相談支援機関と連携し、適宜、相談に応じるなどの支援の重要性について説明する。</p> <p>○①②③を切り離して説明するのではなく連続性の中で統合的に実施している様子を具体例を示して説明する。</p> <p>○自立相談との対立事例なども引き出し、行政としての説明も行う</p>	<p>釧路社会的企業 創造協議会 榎部氏</p> <p>インクルージョン ネットよこはま 鈴木氏</p> <p>ユニバーサル就 労ネットワークち ば 平田氏</p> <p>コーディネーター 熊木室長</p> <p>20分→5分(バズ) ×3セット 質問を紙に書いて もらい、 ピックアップし、翌 日の講師に繋げ る</p>
12:55 ～13:55 (60分)	屋食休憩			

## 第2日目 7月28日(火)

科目	【講義④】支援に向けたインテークとアセスメントのあり方／就労準備支援プログラムの作成
時間	13:55～15:55(120分)、16:10～18:10(120分) 講義240分
目的	○ゴールイメージを描いた支援のあり方とアセスメントの方法を理解する。 ○就労準備支援プログラムの作成の具体的方法を理解する。
到達目標	

時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
13:55 ～18:10	支援に向けたインテークとアセスメントのあり方／就労準備支援プログラムの作成  13:55～15:55(120分)講義  15:55～16:10(15分)休憩  16:10～18:10(120分)講義		○入口から出口までの具体的なゴールイメージを持った支援の必要性と、インテーク段階から支援をデザインしていく視点の重要性を説明する。 ○対象者が日常生活自立・社会生活自立・就労自立のどの段階にいるかについてアセスメントするための視点を説明する。 ○アセスメントに基づいた就労支援プログラムの策定方法を説明する。  ○演習	SSF 谷口氏
18:10 ～18:20 (10分)	振り返り			
18:40 ～19:40 (60分)	オプション企画 (自由参加)  テーマ別交流会 (1時間程度)	※設定テーマ案 A: 出口づくりやネットワークづくり(釧路・榎部さん) B: プログラムづくり①(沖縄・岡野さん) C: プログラムづくり②(沖縄・名嘉さん) D: 就労準備事業を進めるうえでの悩みや課題①(佐賀・谷口さん) E: 就労準備事業を進めるうえでの悩みや課題②(千葉・平田さん)  ○研修講師と受講生がテーマごとに車座で自由にディスカッションを行う。 ○受講者は興味のあるテーマを自由に選んで参加することができる。 ○日々の業務で受講生が抱える悩みや不安に応じていくことや、講義の中で聞けなかった疑問点に答えていくこと等も意図している。		

## 第3日目 7月29日(水)

科目	【講義・演習⑤】支援関係の構築 I
時間	9:40～11:10(90分) 講義90分
目的	担当者と本人が信頼関係を構築し、良い支援関係を構築していくことの重要性と、そのための視点や姿勢を理解する。
到達目標	

時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
9:30 ～9:40 (10分)	オリエンテーション		①グループ間で自己紹介 ②本日の研修のねらい、目標の共有	事務局
9:40 ～11:10 (90分)	支援関係の構築 I	○ワーク① ①個人ワーク(2分) 利用者と初対面で気を付けていること ②グループワーク(3分) 共有 ○ワーク② ①グループワーク(5分) ストレngthsを探そう! ○ワーク③ ①ペアワーク(2分) 閉じられた質問のみの会話 ②ペアワーク(3分) 同方向を見ての会話 ③ペアワーク(3分) 自由に会話 ○ワーク④ ①個人ワーク(1分) 今後実践したいこと ②グループワーク(3分) 共有	○支援関係の構築が全ての支援プロセスにおいて必須であることを理解する。 ○就労意欲の喚起に向けた働きかけの方法や担当者の姿勢を説明する。 ○面接やインテークを使用して説明し、演習する ※テキスト(中央法規)第4章相談支援の展開 第2節「個別的・継続的な相談支援」(P145～167)について講義でふれる	明治学院大学 新保先生
11:10 ～11:25 (15分)	休憩			

### 第3日目 7月29日(水)

科目	【講義・演習⑥】支援関係の構築Ⅱ(場面を想定した具体的な演習)
時間	11:25～12:25(60分)、13:25～14:25(60分) 講義120分
目的	実際の現場で遭遇する支援困難事例の対応方法を検討する。
到達目標	

時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
11:25 ～14:25	支援関係の構築Ⅱ (場面を想定した 具体的な演習)	<p>【講義・演習の進行イメージ】 進行及びとりまとめ:岡野 ◆午前:新田氏、午後:名嘉氏</p> <p>■60分ずつの流れ</p> <p>① 事例の導入部分の概要を講師(新田氏)から説明。その上で、進行(岡野氏)が「このような事例の場合、どのように支援するか?」について受講者に問う(10分)</p> <p>② 受講者同士で、問いの内容を議論(15分)</p> <p>③ 講師が、実際に行った支援プロセスを説明する(もちろん、フィクションでもOK)(25分)</p> <p>④ 講師の説明を聞いて、受講者同士で意見・感想を述べる(10分)</p> <p>最後に岡野氏がとりまとめを行う</p> <p>上記①～④を名嘉氏の事例で再度繰り返す。</p>	<p>○具体的な事例(支援困難事例)を提示し、実践現場でどのように支援を展開していったのかについて説明をしていく。</p> <p>○1つ前の「支援関係の構築Ⅰ」の講義・演習を踏まえ、その内容をより実践現場における支援に落とし込んで講義していくイメージ。</p> <p>○事例案としては、「就労意欲が低い人に対する支援」「プログラムへの参加に対して拒否的な人(怒ってしまう人)への対応方法」「途中でプログラムを欠席するようになってしまった人への支援」などが考えられる。</p>	<p>釧路社会的企業 創造協議会 新田氏</p> <p>沖縄県パーソナル サポートセンター 名嘉氏</p> <p>(コーディネーター) 沖縄県パーソナル サポートセンター 岡野氏</p>
14:25 ～14:35	休憩			

### 第3日目 7月29日(水)

科目	【講義・演習⑦】支援プログラム・メニューの開発
時間	14:35～15:35(60分)、15:50～17:20(90分) 講義150分
目的	対象者の状態に合わせた支援メニューの作成の必要性を理解する。
到達目標	

時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
14:35 ～17:20	支援プログラム・ メニューの開発	<p>○演習①</p> <p>①個人ワーク(3分)考え付くセミナーの書き出し</p> <p>○演習②</p> <p>①個人ワーク(3分)相談者に合わせたセミナーの考案</p> <p>②グループワーク(6分)共有とグループワーク</p> <p>③個人ワーク(3分)コミュニケーション力をつけるためのメニューの書き出し</p> <p>④グループワーク(10分)共有とグループワーク</p> <p>○演習③</p> <p>①グループワーク(30分)1ヶ月プログラム作成</p> <p>②全体共有(10分)</p>	<p>○就労準備支援プログラムの作成と多様な支援メニューの準備と開発について説明する。</p> <p>○対象者の状態に合わせた支援メニューの必要性について説明する。</p> <p>○今までの経緯を伝え、特徴あるメニューの目的を説明する</p> <p>○Aさんという当事者がいると仮定。どのようなメニューを提供するかを考える演習を実施</p> <p>※色々なパターンへの事例を考えておく</p>	<p>沖縄県パーソナル・ サポート・センター 岡野氏</p>

### 第3日目 7月29日(水)

科目	【講義⑧】ハローワークとの連携
時間	17:20～18:20(60分) 講義60分
目的	ハローワークの基本的役割や機能の理解及び連携のあり方を理解する。
到達目標	

時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
17:20 ～18:20 (60分)	ハローワークとの 連携		<p>○ハローワークの役割や職業紹介の考え方、支援の流れについて説明する。</p> <p>○「就労準備が一定程度整った状態」の考え方を示し、一般就労を目指す人の状態像を理解する。</p>	<p>東京労働局 職業安定部 津田氏</p>
18:20 ～18:30 (10分)	振り返り			

第4日目 7月30日(木)

科目	【講義・演習⑨】4日間の振り返りとまとめ
時間	9:40～12:25(165分) 研修150分 休憩15分
目的	実際の支援状況を理解する。
到達目標	

時間	題目	進め方	講義・演習のポイント	講師
9:30 ～9:40 (10分)	オリエンテーション		①グループ間で自己紹介 ②本日の研修のねらい、目標の共有	事務局
9:40 ～12:25	4日間の振り返りとまとめ	<p>【導入】3日間の振り返り(グループで10分)※平成27年度は実施せず</p> <p>【1】個人ワーク ワークシートに記入する(45分)            ■問1:「あなたにとって就労準備支援事業が整っている(機能・充実している)状態とはどのような状態でしょうか」            →「その状態を絵(店舗)で表現してください」(15分)            →グループワーク(15分)共有            ■問2:「その整っている状態と現状を比較し、今の自分は100点満点で何点くらいでしょうか」(2分)            ■「タイムマシン法」で未来からの順番で進むべき手順を記入(10分)            ①「その状態のために1年後はどのような状態になっていたいか」            ②「その1年後のために半年後はどのような状態になっていたいか」            ③「半年後のためには3カ月後は何に着手しているか」            ④グループワーク(3分)共有</p> <p>【休憩15分】(6人グループを作成)</p> <p>【2】グループワーク 結果を共有し融合させる(50分)            ■問3:「これから取り組みたいこと」(45分)            ■問4:「あなたが持ち帰って他の職員に伝えたいキーワードは何でしょうか」(10分/個人→グループ)</p> <p>【3】色紙ワーク(40分)            受講者全員に色紙1枚を配付する。            ①「自分にとっての就労準備支援とは」を漢字一文字で記入する。            文字を選んだそのココロ、日付、氏名も併せて記入する。(10分)            ②受講者同士で、一文字を紹介し合いながら相手のストレンスを相手の色紙に記入し合う。最終的に自分のストレンスの寄せ書きが完成させる。(30分)</p> <p>講師まとめ(10分)            ※その他…自立の研修と同様に、会場に質問受付コーナーを設ける。            質問に回答する時間があっても良い。※平成27年度は実施せず</p>	<p>○自分の所属組織としての(就労準備事業)に関する「事業計画」「成果(数値)目標」を持ってきてもらい、どう進めていくのかのプランニングの場としていく</p> <p>○研修内容を「自分ごと」に落とし込んでいく仕掛けづくり(進め方のヒントとして、昨年の後期就労の「タイムマシン法」)</p>	<p>【ファシリテーター】            SSF            谷口氏            明治学院大学            新保先生</p>
12:25 ～12:50 (25分)	振り返り 修了式			事務局

就労準備支援事業従事者養成研修 研修会の様子



## 6 家計相談支援員養成研修

第1日目 6月29日(月)、9月15日(火)、11月30日(月)

時間	科目	目標	進め方	講義のポイント	講師	第2回変更点		第3回変更点	
						科目	講師	科目	講師
12:40 ~13:20	受付								
13:20 ~13:40 (20分)	挨拶 オリエンテーシ ョン		・事務連絡(5分) ・厚生労働省挨拶(5分) ・全社協挨拶(5分) ・グリーンコープ講師紹介(5分)						
13:40 ~14:40 (60分)	【講義1】 家計相談支援 員の基本的考 え方	生活困窮者自立支援法と家 計 相談支援事業の内容を理解す る		○生活困窮者自立支援制度の創設背景、 理念、事業概要等について説明する ○家計相談支援事業の目的と必要性を理解 してもらったと、支援の内容と流れを説明 する。 ○自立相談支援事業及び就労準備支援事 業等と家計相談支援事業との関係性や連携 のあり方について事例を交えながら理解を促 す  【備考】 ○研修の導入部において家計相談支援事 業の意義を説明する ※家計のやりくり方法を学ぶことが主たる 目的ではないことを理解 ○家計相談支援事業が何のために行われ るのか、その支援内容や流れを家計表等の ツールの概略を含め説明する。	(全社協) 厚生労働 省 自立支援 調整官 鈴木奈津 子氏				
14:40 ~15:25 (45分)	【講義2】 家計相談支援 員の基本姿勢 と役割	生活困窮者の状況の理解と、 家計相談支援員に求められる 倫理・責務・役割を理解する	・ワーク(15分) ・講義(30分)	○生活困窮者自立支援制度に携わる支援 員に求められる基本理念、基本姿勢につい て説明する ○加えて、家計相談支援員が特に配慮すべ き、基本姿勢や倫理等について説明する  【備考】 ○自立相談養成研修テキスト1、2章を参考 にする ○講義の中で事例検討やグループワーク等 も行う	(全社協) 北海道大 学 鳥山先生				
15:25 ~15:45 (20分)	休憩								
15:45 ~16:55 (70分)	【講義3-1】 利用できる制度 および多重・過 剰債務の解決 方法の理解①	多重・過剰債務問題の理解 と、 給付、適正化による減免、留 保 等の利用できる制度や法律な ど自治体との連携について学 ぶ	・講義(70分)	○多重・過剰債務を理解するために、債務整 理等の基礎や多重・過剰債務問題の要因を 説明する ○活用できる各種の減免、給付制度、生活 福祉資金の貸付、その他活用できる制度等 について説明する  【備考】 ○日本総研が参考資料集を作成 ○事例を交えながら弁護士等へのつなぎ方 を示し、具体的にイメージできるようにする	(全社協) 野洲市役 所 【1、3回目】 生水氏 【2回目】 宇都宮 氏				
16:55 ~17:00 (5分)	振り返り								
17:15 ~18:15 (60分)	交流会								

時間	科目	目標	進め方	講義のポイント	講師	第2回変更点			第3回変更点		
						時間	科目	講師	時間	科目	講師
	開場・受付										
9:30 ～10:30 (60分)	【講義3-2】 利用できる制度 および多重・過剰 債務の解決方法 の理解②	多重・過剰債務問題の理解 と、債務整理の方法やヤミ金 対策について理解する。	・講義(60分)	○多重・過剰債務を理解するために、債務 整理等の基礎や多重・過剰債務問題の要 因を説明する ○活用できる各種の減免、給付制度、生 活福祉資金の貸付、その他活用できる制 度等について説明する  【備考】 ○日本総研が参考資料集を作成→1日目 の3眼目を実施するので消去 ○事例を交えながら弁護士等へのつなぎ 方を示し、具体的にイメージできるようにす る	(全社協)  法テラス 横堀真美(1・3回) 浅川 剛志(2回)						
10:30 ～11:30 (60分)	【講義・演習4】 相談者像の理解 ～家計相談支援 事業所を訪れる のはどの様な 人?～	相談者の抱える課題や社会 的背景を理解し、家計相談支 援事業の対象となる相談者像 を理解する	・講義(40分)藤浦氏 ・演習(20分)行岡氏グルー プワークと分かち合い	【時間配分～講義40分(社会的な背景と 相談者像の理解)、演習20分(相談者像 の理解)】 ○データ等を示して相談者像を理解する ○事例を踏まえ、債務の原因、滞納状況、 貸付の使途等や、家計から見える相談者 が抱えている生活上の問題や精神的課題 を整理して提示する ○家計相談支援事業が対応する相談内 容の領域や多様性について事例を元に説 明する  【備考】 ○グループワーク(4名(前後の島(机))と 分かち合い ○演習課題 1.「家計相談支援が効果的な役割を果 たすと思える事例」 1)②では、債務や借金の整理に取組み 始めたのに、何がなぜ問題になると思 いますか? 2)⑨⑩の年金受給の人や母子家庭の 相談者の家計管理が難しいのは何故で しょうか?	(グリーンコープ) 行岡氏  藤浦久美氏(講義担 当) (宗像市家計相談支 援事業所)			10:40～ 11:40 (60分)			
11:30 ～12:30 (60分)	昼食休憩								11:40～ 12:40 (60分)		
12:30 ～12:40 (60分)	【講義・演習5- 1】 家計相談支援の 基本的な考え方 と相談の流れ ～相談者のエン パワーメント を!!～  12:30～14:40 (130分)	初回面接から最終に至るまで の一連の流れを学ぶ	<前半—65分>(行岡氏・藤浦 氏) ○講義45分——行岡氏「家計 相談支援の前提となる考え方、 基本姿勢や心構えを理解する」 ○事例紹介10分——藤浦氏 (高齢者でも納得できれば、自 分で管理できるようになる事例)  <後半—75分>(吉田氏・一丸 氏・行岡氏) ○講義50分——「家計相談支援 の一連の流れを理解する」 ○相談の流れを理解し、各帳票 の作成の流れを理解する。40分 —吉田 ・家計管理・出納管理・金銭管理 の違い10分—一丸 ○事例紹介10分——母子家庭 の相談事例—一丸 ○母子家庭等の収入計算の押 さえ方を学ぶ——15分—一丸	○相談者へのアプローチの仕方を学ぶ。 また、相談者が家計管理の必要性を理解 できるような支援方法を学ぶ ○解決方法別の留意点を説明する(債務 整理のみ、他団体紹介の場合、貸付と債 務整理の同時進行、貸付困難な場合等)  【備考】 ○支援の過程において用いる各種ツール の概要を示す ○家族全体を支援する視点及びその際の 留意点を説明する ○面接時の心得(家計の状況について必 要であれば踏み込んで聞く必要がある 等も含む。)について説明する ○自立相談支援事業との役割分担や連 携について、見えるようにする。連携の重 要性も加える。インタビュー・アセスメント シートは、自立との関係が分かるよう表現 を工夫する。	(グリーンコープ) <前半> 行岡氏 藤浦久美氏 (宗像市家計相談支 援事業所)  <後半> 行岡氏 吉田文子氏 (生活再生相談室・下 関相談室) 一丸直子氏 (福岡県域自立相談 支援事業所)		吉田氏⇒近澤 氏に変更	12:40～ 14:50 (130 分)		12:40～ 15:00 (途中10分 休憩除き 130分)	吉田氏⇒近澤 氏に変更
14:40～ 14:55 (15分)	休憩								14:50～ 15:05 (15分)		15:00～ 15:15 (15分)

14:55 ～16:25	【講義・演習5-2】 家計相談支援の 基本的な考え方 と相談の流れ。 ～相談者のエン パワーメント を！！～  14:55～16:25 (90分)演習主体	家計相談支援における基本 的対応方法や面接姿勢の心 得、相談時の心構えや対応 方法などについて理解する	<p>&lt;前半&gt;家計相談支援を拒否 する人への対応(北島・吉田・行 岡) ○ロールプレイのテーマ 自立相談支援事業所からの紹 介で家計相談支援事業所を訪 れたが、家計についていろいろ 聞かれることに納得できず支援 を拒否する人への相談のすすめ 方を演じる。 ○上記テーマに関しダメ事例を 見て、グループで話し合う。 演習課題 ①ダメ事例のどこに課題がある と思うか、また自分であればど のようにしたいか。 ——ロールプレ3分、討議5分、発 表5分 ○上記テーマに関しよい事例を 見て、グループで話し合う。 演習課題 ①良い事例のどこが良かったと 思うか。良いと思う理由につ いて。②なぜ家計相談を拒否するの か、相談者の気持ちの背景につ いて皆で考える。 ——ロールプレ10分、討議5分、 発表5分 ——まとめ5分</p> <p>&lt;後半&gt;このような場合はどうし たらよいと思うか事例で考える (一丸・藤浦・行岡) (1)相談主訴の周辺部分の自分 の悩みを延々と話し続け、肝心 の家計相談に入れない場合 演習課題 ①えんえんと話が終わらない相 談者の背景をどのように理解し ますか ②このような場合どうすれば良 いと思えますか ③こうすれば良いと思う理由は 何故ですか ——ロールプレ3分、討議10分 ——答えのロールプレ5分、口頭 補足5分 (2)とても貸付の斡旋が出来る ような家計状況ではないのに、 駄目元でよいから斡旋してくれと 言い張る人の場合。 演習課題(①はどちらを選ぶ か?) ①斡旋する、しないのどちらが良 いと思うか。その理由を述べる。 (結論なしの例) ①断り方はどうでしたか。(断る 場合の例) ②相談者が怒り出した場合、あ なたならどうしますか。 ——ロールプレ7分、討議5分、 発表5分、まとめ5分</p>	○支援における基本的な聴き取り方法 や、対応方法について説明する(相談時 の心構えや対応方法、面接姿勢の心得、 家計状況の聴き取りの留意点等の、具体 的な手法・技法。電話による対応も含む)	(グリーンコープ)  実践者 コメンテーター予定の 名張・福井氏は1回目 の研修参加不可  <前半> 行岡氏 吉田文子氏 (生活再生相談室・下 関相談室) 北島千恵氏 (福岡県域家計相談 支援事業所)  <後半> 行岡氏 一丸直子氏 (福岡県域自立相談 支援事業所) 藤浦久美氏 (宗像市家計相談支 援事業所)	15:05～ 16:35 (90分)	福井氏参加 吉田氏⇒近澤 氏に変更	15:15～ 16:45 (90分)	福井氏参加 吉田氏⇒近澤 氏に変更
16:25 ～16:40 (15分)	休憩					16:35～ 16:50 (15分)		16:45～ 17:00 (15分)	
16:40 ～17:40 (60分)	【講義・演習6】 家計相談支援の 失敗事例の検討 ～相談時の留意 点や連携のあり 方～	事例を通して、相談時の注意 点や面接の過程で配慮すべ き支援員の姿勢を学ぶ	<p>失敗事例検討2——パチンコ依 存性のある高齢男性の家計相談 失敗事例30分 ○事例報告10分——一丸</p> <p>演習課題——一丸、行岡 ○書き込み5分、分かれ合い20 分、発表+まとめ25分 この相談事例に対しあなたはど う思いますか? ①この相談内容と支援経過につ いて、あなたはどのような感想を 持ちますか。 ②1回目～6日目の支援につ いて、相談者である70歳代男性に はどのような支援が必要だと思 いますか。気になる点や自分 だったらこうするというのがある らば記入してください。 ③この事例では相談者に再生 の意思がないため、今後は権利 擁護にと進言していますが、ど のような支援をしたら良いと思 いますか。  失敗事例——貸付(斡旋)を伴う 失敗事例は資料のみで検討しな い</p>	○2日目の1・2限で学んだ支援技法や方 法を踏まえて事例を検討する ○失敗事例に基づき、必要な視点や留意 点、連携のあり方を考察する	(グリーンコープ) 行岡氏 一丸直子氏 (福岡県域自立相談 支援事業所)	16:50～ 17:50 (60分)		17:00～ 18:00 (60分)	
17:40 ～17:45 (5分)	振り返り					17:50～ 17:55 (5分)		18:00～ 18:05 (5分)	
17:55 ～18:50 (55分)	オプション交流会 (60分程度)			オプション交流会は、①初心者向けのグ ループと②悩みごとのグループに分ける ※会場貸借の都合で55分間		18:05～ 18:55 (50分)		18:05～ 19:00 (55分)	

第3日目 7月1日(水)、9月17日(木)、12月2日(水)

時間	科目	目標	進め方	講義のポイント	講師	第2回変更点			第3回変更点			
						時間	科目	講師	時間	科目	講師	
	開場・受付											
9:30 ~11:00 (90分)	【講義・演習7】 家計相談支援の 帳票の書き方	帳票を正確に書く	(北島・行岡) ○手引き事例で進行する。 ○明確化して書くべきところ、迷い やすく間違えやすいところなど説 明—70分—北島 ○質疑応答—20分—北島	○インターク・アセスメントシート他の家計 相談支援の帳票を書く時の注意点 【備考】 ○記入の際、明確化して記載すべき箇 所、迷いやしく、間違いやすい箇所など 留意点を説明する。 ○日本総研手引きのP111の事例2を 使って説明する。(書式が違うものがある ので説明を加える。)家計再生プラン、貸 付けあっせん書は実習に組み込んでい るので触れるのみとする。	行岡氏 北島千恵 氏 (福岡県域 家計相談 支援事業 所)	9:30~ 11:15 (105分)	実習1 家計相談支援 の実務に必要な 帳票と家計 表の作成	行岡氏 丸山氏	9:30~ 11:25 (115分)	※①家計表・ キャッシュフロー 表の意味と役割 10分⇒30分 ※④実習問題55 分⇒45分		
11:00 ~11:15 (15分)	休憩					11:15~ 11:25 (10分)	休憩		11:25~ 11:35 (10分)			
11:15 ~14:00	【実習1】 家計相談支援 の実務に必要な 帳票と家計 表の作成 11:15~12: 00 (50分)演習 12:05~13: 05 (60分)昼食 休憩 13:05~14: 00 (55分)演習	家計表の作成において求めら れる、情報収集の方法や分析 視点を理解する	(吉田・丸山・行岡) ○家計表・キャッシュフロー表の役 割と意味—10分 ○体験的実習—15分 ○事例の説明—5分 ○家計表への記入—10分、答 合わせ—10分 ○昼食休憩60分 ○書き込み—15分、グループ討 議—15分 ○分かれ合い—25分 演習課題 ①この家計表はとも不完全で す。相談者に質問して家計表を完 成するとしたら、あなたはどの項 目にどのような質問をしますか？ ②債務整理についておおよその 可能性を考える場合、何を確か め、どのような方針を考えま すか？ ※演習課題②までは入れない可 能性もある。進行状況を見ながら 判断する。	○家計相談支援において各種ツールを 用いる意図を説明する ○事例に基づき、家計表作成にむけた情 報収集の視点・方法を説明する 【備考】 ○家計表を作成するために支援員が質 問する内容を学ぶ ○家計表の読み方について理解する ※家計表の策定においては、本人が主 体的に取り組むものであることに留意す る	行岡氏 丸山恵子 氏 (北九州市 家計相談 支援事業 所) 吉田文子 氏 (生活再生 相談室・下 関相談室)	11:25~ 15:10 (昼休憩60 分除き165 分)	実習2 家計表とライ フイベント表を 作成する	行岡氏 丸山氏	11:35~ 15:20 (昼食休 憩60分・ 休憩10 分除き 155分)	※①②実習2の 進め方・帳票の 説明、事例相談 者の説明20分⇒ 10分 ※⑥ライフイベ ント表の作成実習 50分⇒35分 ※ライフイベント 演習問題(15分) 追加		
14:00 ~17:00 ※16時50 分~PC準 備	【実習2】 家計表とライ フイベント表を 作成する 14:00~15: 40 (100分)演習 15:40~15: 55 (15分)休憩 15:55~17: 00 (65分)演習	家計表の作成を通して、家計 の改善方法を検討すると共 に、生涯の生活資金の見直し や借金をしない家計管理の方 法を理解する	(近澤・丸山) ① 実習2のすすめ方と帳票の説 明—5分 ② 事例相談者の説明 —15分 ③ 相談時家計表の作成(実習) ~答え合わせ—30分 ④ 家計計画表の作成(実習) ~ 答え合わせ—35分 ⑤ 2つの家計表を見て気付いたこ とを発表(数人)—15分 ⑥ 休憩 —15分 ⑦ 体操—5分 ⑧ ライフイベント表の作成(実習) ~答え合わせ —50分 ⑨ 質問応答 —10分	○事例に基づき、「相談時の家計表」見 直し後の家計表を実際に作成する ○ライフイベント表の記入要領を学び、事 例に基づき実際に作成する 【備考】 ○個人ワーク(PC使用) ○各種ツールを作成・使用することの意 味を理解できるようにする	近澤和子 氏 (大分県 域・大分市 家計相談 支援事業 所) 丸山恵子 氏 (北九州市 家計相談 支援事業 所)	15:10~ 15:25 (15分)	休憩		15:20~ 15:35 (15分)			
17:00 ~18:00 (60分)	【実習3-1】 キャッシュフ ロー表の作成と 家計再生プ ランなどの立案	キャッシュフロー表に基づき家 計の推移を分析し、理解する	(中島・近澤・丸山) ① キャッシュフロー表の構成説明 ~二つの家計表の入力(実習)— 20分 ② 入力要領の説明~次男のライ フイベントの入力(実習)—20分 ③ 収入金額の(手入力)の入力 要領の説明 —10分 ④ 収入金額の(手入力)の入力 (実習)—15分 ⑤ 答え合わせ(最後の残高)5 分 ⇒収入金額入力まで終わらせ、こ こで答え合わせを行う。連っている 人は手を上げてもらう。手を上げな い人もいるので、ファシリテーター は担当グループの人の答えが 合っているかを確認する。 ⇒この日に入力したフォーマットの 保存を間違えないよう、特にパソ コンに弱い人はファシリテーターが 確認する。	○作成した見直し後の家計表とライフ イベント表をもとにした、 キャッシュフロー表を作成する。 【備考】 ○個人ワーク(PC使用) ○グループワーク	中島明美 氏 (熊本県 域・熊本市 家計相談 支援事業 所) 近澤和子 氏 (大分県 域・大分市 家計相談 支援事業 所) 丸山恵子 氏 (北九州市 家計相談 支援事業 所)	15:25~ 16:25 (60分) 16:25~ 18:10 (100分)	実習3-1、3-2 キャッシュフ ロー表の作成と 家計再生プ ランなどの立案 PC使用実習 ※16:40までは 全体歩調を合 わせる ※16:40~ 17:50は個別 対応 ※終わらない 場合は30分内 の延長有 ※平成27年度 は延長実施なし	中島氏 (平本 氏) 行岡氏 丸山氏	15:35~ 18:35 (60分) 16:35~ 18:15 (100分)			
18:00 ~18:05 (5分)	振り返り											

第4日目 7月2日(木)、9月18日(金)、12月3日(木)

時間	科目	目標	進め方	講義のポイント	講師	第2回変更点			第3回変更点		
						時間	科目	講師	時間	科目	講師
9:00 ～12:45 (225分)	【実習3-2】 キャッシュフロー表の作成と家計再生プランの立案、貸付回転書の書き方	キャッシュフロー表に基づき家計の推移を分析し、家計再生プランの立案について理解する	<p>⑥支出金額の入力要領の説明～支出費目金額の入力(実習)～答え合わせ—35分</p> <p>⑦一時的な支出金額の入力(実習)～キャッシュフロー表の答え合わせ—50分</p> <p>⑧月末推移を見ながら考えた事の発表(数人)—15分</p> <p>⑨休憩—15分</p> <p>⑩家計再生プランの説明～家計再生プランの作成入力(演習)—35分</p> <p>⑪家計再生プラン作成の発表(数人)—15分</p> <p>⑫貸付あっせん書の説明～貸付あっせん書の作成入力(演習)—35分</p> <p>⑬貸付あっせん書の発表(数人)—15分</p> <p>⑭感想・質問・応答—10分</p> <p>⇒支出金額の入力が終わった時点で答え合わせを行う。⇒紙ベースの答えを見ながら、家計再生プランをPCのフォーマットに入力する。書けている人に発表してもらう。⇒時間が来たら終了とする。必要な方は後日メールで送ってもらい、グリーンコープで添削して返信する。⇒休憩は時間を決めずに、各自でとってもらう。別途、全員を対象とした15分の休憩を入れる。</p>	<p>○作成した見直し後の家計表とライフイベント表をもとにした、キャッシュフロー表に基づき、家計再生プランを作成する</p> <p>※なお、研修を通じたまとめを行うこと</p> <p>【備考】 ○個人ワーク(PC使用) ○グループワーク</p>	<p>行岡氏 中島明美氏 (熊本県域・熊本市家計相談支援事業所) 近澤和子氏 (大分県域・大分市家計相談支援事業所) 丸山恵子氏 (北九州市家計相談支援事業所)</p>	9:00～ 10:50 (110分)	実習3-2 キャッシュフロー表の作成と家計再生プランなどの立案	丸山氏 行岡氏			
12:45 ～13:00 (15分)	全体振り返り 修了式					10:50～ 11:00 (10分)	休憩				
						11:00～ 12:30 (90分)	講義7 家計相談支援の帳票の書き方	北島氏 行岡氏			
						12:30～ 12:45 (15分)	全体振り返り・修了式				

家計相談支援事業従事者養成研修 研修会の様子



## 第5章 研修の成果と課題

### 1 本研修の特色

厚生労働省からの委託を受けて設置した本企画・運営委員会における協議を通じて、次のような特色をもたせるべく本企画・運営委員会・各企画部会委員および講師等と意思疎通を図り、研修事業を実施した。

#### (1) 受講者の従事する役割や機能を踏まえたカリキュラムづくりを行ったこと

##### ①前期共通研修

主任相談支援員、相談支援員、就労支援員それぞれの職種を対象とした前期共通研修は、理念、考え方をはじめとした基礎的な事項など制度の全般的な理解を深める研修内容に留意した。

本企画委員会としての研修の考え方の整理としては、制度の基本的な理解を図ることを第一義とし、課題の評価・分析、自立支援計画の策定プロセス、各サービスの提供をはじめ、地域の関係機関とのネットワーク構築、社会資源の活用・開発等を行うため、相談及び就労支援等の援助技術など、本事業の全般的な事項について理解することにより、受講者の資質の確保・向上を図ることとした。

##### ②後期研修

3職種ごとの後期研修、それぞれに必要とされる役割・能力を取得できるような職種ごとのコース別プログラム作りを行い、より専門性を高める内容に努めた。それぞれの後期研修の本企画委員会としての考え方の整理は次のとおりである。

###### ア) 主任相談支援員

生活困窮者への相談に関し高度な相談支援能力を持ち、支援困難ケース等へ対応し、自立相談支援機関において相談業務のマネジメントを行うとともに、社会資源開発と地域づくりを行う能力を獲得するプログラムとする。

###### イ) 相談支援員

生活困窮者への個別的・継続的・包括的な支援（アセスメント、自立支援計画の策定、支援調整会議の実施等の一連の支援プロセス）を習得するプログラムとする。

###### ウ) 就労支援員

自立相談支援機関において、生活困窮者への就労支援（能力開発、職業訓練、就職支援、無料職業紹介、求人開拓など）やキャリアコンサルティング等を行う知識や技術を学ぶプログラムとする。

##### ③就労準備支援事業従事者養成研修と家計相談支援事業従事者養成研修

平成27年度から新たに国の養成研修事業に位置づけられた2つの研修については、国の社会福祉推進事業等で実施された研修事業等により蓄積された内容を踏まえうえで企画検討を行った。

そのうえで、家計相談支援事業従事者養成研修については、平成26年度厚生労働省社会福祉推進事業として実施された「家計相談支援員実践研修」と内容的にも関連することから、同実践研修の実施団体であるグリーンコープ連合関係者に本研修運営委員会委員としても参画してもらおうと共に、本研修事業についてもグリーンコープ連合と協働のうえ企画検討を行った。また、研修実施に際しては、研修プログラムの一部を同会に再委託した。

#### ア) 就労準備支援事業従事者養成研修

就労準備支援担当者に求められる基本理念や責務、役割について理解するとともに、援助関係の構築、アセスメントの手法、就労準備支援プログラムの作成、支援方法、評価の視点を学ぶ。また、自立相談支援機関やハローワーク等関係機関との連携、社会資源の開発等、就労準備支援を進めていくために必要な体制づくりについて学ぶプログラムとする。

#### イ) 家計相談支援事業従事者養成研修

生活困窮者の状況の理解と、家計相談支援員に求められる倫理・責務・役割を理解する。多重・過重債務問題の理解と、債務整理の方法やヤミ金対策、その他、利用できる制度や法律について理解するとともに、相談者の抱える課題や社会的背景を理解し、家計相談支援事業の対象となる相談者像を学ぶ。初回面接から終結に至るまでの一連の流れを学ぶとともに、家計表等の作成において求められる、情報収集の方法や分析視点を理解する。加えて、キャッシュフロー表に基づき家計の推移を分析し、家計再生プランの立案について学ぶプログラムとする。

#### (2) グループワーク等手法のスキルアップを図ったこと

事例検討などの手法として、グループワーク（演習）の多様な手法の学びと理解、グループワークを通じて問題意識を深めることや事例の見立ての際の重要な視点などについて共通理解を図った。

#### (3) 地域に戻っての研修内容を伝える機会づくりを受講者に求めたこと（伝達講習の実施について）

自立相談支援事業従事者養成研修について、前期研修の初日に受講者と共有したこととして、①基本を学ぶ、②学んだことを実践できる、③伝達できる（講師になれる）の3つのポイントであった。そこで、後期研修に向けた受講者への課題として、職場に戻って、前期研修について関係者に伝える機会を設けてもらうことを受講者に求め、様式を作成し、伝えた際の気づきや反応などを後期研修への課題としてレポートしてもらうこととし、「伝達できる（講師になれる）」ことについての初歩的な対応を受講者に促した。

#### (4) 振り返り時間の設定と学びのポイントの可視化

平成26年度受託研修事業に引き続き、研修期間中に「振り返り時間」を日々に設けた。これは、個々の受講者が、その日の学びや気づきについてのディスカッションやアンケート記載などの時間を設けることで、一日の整理と翌日への心構えやモチベーション向上を図る意図から導入した。とくに、いずれの研修においても、3～4日間全体の「学びの見取り図」を作成し、今回の研修で一体何をどう学ぶ、講師がどのようなことを中心に伝えるのかというところをまとめ、講師、受講者と日々の振り返り時間の活用をはじめとして可視化と共通理解を図った。

#### (5) 受講者向けの課題の設定

研修の学びの効果や相談員としての意識の醸成を図るため、適宜、事前課題および事後課題を受講者に課した。前期共通研修では、事前課題として、他の参加者との自己紹介ツールとしてのフェースシート、さらには、地域の社会資源についてのチェックシート作成を行った。また、後期研修

に向けては、前期研修内容を伝える場を設けてみてのレポート提出を共通課題とした。さらに、後期相談支援員研修、後期就労支援員研修においては、事例の持ち寄りをしてもらい、グループワークをはじめとした研修プログラムに活かした。

就労準備支援事業従事者養成研修と家計相談支援事業従事者養成においても事前課題として他の参加者との自己紹介ツールとしてのフェースシート作成に取り組んでもらった。

## (6) テーマ別交流会（自由参加）

各研修の2日目の研修終了後に協力講師の専門分野のテーマを設け、自由参加ではあるが、講師を囲んで車座になり、テーマに沿って交流を図るプログラムを設けた。

いずれの研修会においても概ね半数近くの受講者が参加し、同じ悩みを持った受講者のネットワーク構築の場になったり、講義では聞けなかった詳細や背景が聞けたなど高い評価があった。

## 2 本研修受講者の反応～参加者アンケート等から（アンケートの詳細は第4章参照）

### ◆自立支援事業従事者養成研修

#### (1) 前期共通研修

##### ①参加者の理解度、研修ニーズとの相違

○支援員の基本姿勢、地域づくり、対象者の視点に立つこと等が業務を行う際の重要な視点であると理解している受講者が多くみられた。

○プラン作成や支援調整会議、出口づくりの具体的進め方等、実務に関する研修内容を望む声も参加者のコメントとしてあった。

##### ②役割に対する不安感や心配

○地域づくりや企業開拓など、どこから始めればよいのかという不安が多く見られた。

○現状の体制や人材不足で入り口を広げたいが支援の質が低くなるのではという心配が見られた。

##### ③研修全体を通して

○研修の日程を4日間にするなどの配慮を求める声が見られた。

○テーマ別交流会が少人数で自分の聞きたいテーマに参加し、講師も含め交流することができて良かったとの意見が多く見られた。

#### (2) 後期主任相談支援員研修

##### ①参加者の理解度、研修ニーズとの相違

○一つの事例を深めたり、困難事例を2件、短時間で見立てをする演習の実施など、多様な事例検討の形態を用意することで主任の役割の理解につながった。

○スーパービジョンの手法を学びたいとの意見が多く見られた。

○先駆的に取り組んでいる成功事例を学ぶことも良いが、失敗事例や苦労した点などから学びを得る方法もあるのではというコメントがあった。

## ②役割に対する不安感や心配

○主任という役割や責任の重さに不安を感じ、バックアップ等をしてもらえる体制を求める声が見られた。

## ③研修全体をとおして

○講義、演習、ミニシンポジウムなど多くの形態の研修を用意することで飽きずに受講でき、有意義な研修であったというコメントがあった。

○制度が開始されたことにより、より実務的な手法（支援方法、帳票の記入の仕方や援調整会議の開き方等）を身に付ける為、地域の実情に見合った具体例等の研修を都道府県単位での実施の要望もあった。

## （3）後期相談支援員研修

### ①参加者の理解度、研修ニーズとの相違

○相談受付、インターク・アセスメント、プラン策定、評価・終結までの一連の支援プロセスについて、事例に基づき帳票を用いて学ぶことができた。アンケートの定量評価も高かった。

○一つの事例を深めることで、必要な支援方法や連携等を学び、各受講者の情報交換も促すことができたが、多くの事例に対する支援の見立て力や判断力を身に付けるための演習を希望するコメントがアンケートにみられた。

### ②役割に対する不安感や心配

○個人支援に加えて地域を巻き込むことができるか不安に感じるという意見が見られた。

○研修を受けることで利用者主体の支援を学べたが、業務に追われて支援者側からの発想による支援になってしまわないか自戒を込めた声が見られた。

### ③研修全体をとおして

○アンケート結果等から、日程について、遠方の受講者から初日開始時刻と最終日終了時刻についての配慮を求める声が多く見られた。

○研修の振り返りの場やフォローアップの機会を望むコメントが多数あった。

## （4）後期就労支援員研修

### ①参加者の理解度、研修ニーズとの相違

○研修のまとめとしてワールド・カフェ方式で、モチベーションや就労支援員として踏み出した一歩についてディスカッションすることで、目的意識の向上や情報交換といった成果がみられた。

○住宅確保給付金や労働行政の中に無料職業紹介事業についての詳細な情報等を提供してほしいという要望がアンケート結果から見られた。

## ②研修全体をとおして

- 演習や交流会など多くの交流の場があり、ネットワークの構築につながったという意見が多数見られた。
- 受講者の定員が限られていることから、修了証の発行は無くても研修会をオンラインで視聴できるなどの配慮を望む声があった。

## ◆就労準備支援事業従事者養成研修

### ①参加者の理解度、研修ニーズとの相違

- 就労準備支援単事業にとどまらず、自立相談支援との連携の必要性について言及することで、本制度に関して受講者の理解が深まり、現場に戻った際に積極的に関わりを持つよう働きかける等のコメントが多く見られた。
- 各カリキュラムに社会資源づくりやネットワーク構築の要素を含めていたにもかかわらず、演習等で地域ネットワークの構築の事例があると良いのではとのコメントがあった。社会資源づくりをメインテーマとした研修カリキュラムの必要性も感じられた。

### ②役割に対する不安感や心配

- 支援員側の精神面についてメンタルケアが必要ではないかとの意見があった。

### ③研修全体をとおして

- ワールド・カフェ方式の演習などネットワークやつながりを強く感じることができる仕組みを用意し、地元に戻っても一歩踏み出せる等のコメントが受講者より多く出ていた。
- 研修日程面では4日間開催としたため、受講者からスケジュール等のクレームは少なかった。

## ◆家計相談支援事業従事者養成研修

### ①参加者の理解度、研修ニーズとの相違

- パソコンを使用した入力実習を行い、実務面のスキルアップが図れたとの意見が多く見られた。また、2回目、3回目の同実習については、グリーンコープ講師陣による個別のフォローアップ体制をきめ細かく取ってもらったことで、丁寧でわかりやすかったと好評であった。
- コメントの中で、特に担当組織が異なる場合、「生活福祉資金」との調整やコミュニケーションがスムーズではない状況が垣間見えたので研修内容において生活福祉資金との連携などについての基礎的な理解に配慮した研修が必要である。

### ②役割に対する不安感や心配

- 自立支援関係の相談支援員との兼務者が受講者に多く見られ、事後アンケートなどでは、業務面での負担感や家計相談支援事業と自立支援事業との役割分担に関する悩みなどが見受けられた。

### ③研修全体をとおして

- 少人数で実施した研修であれば、もう少し受講者同士が交流する場や意見交換する時間を設

けても良かったのではないかという声が見られた。

#### ◆全ての研修に共通した事項

- 「学びの見取り図」を研修冒頭に受講者に説明し、本研修の目的などが明確になり、学びが深まったという声が多く見られた。
- 講師陣の協力を得て、オプションプログラムとして、2日目の夜にテーマ別交流会を実施した。講師それぞれの分野別にテーマを設定し、受講者に選択してもらい、同じ悩みを持つ仲間と講師を囲んで情報交換ができたとの意見が多く好評だった。

### 3 成果と課題

#### (1) 研修全体を通しての成果と課題

##### ◆成果

##### ①研修を通じての到達目標～「制度の基本的な考え方を学ぶ」について

- 養成研修事業の企画・実践を通じて、「理念や制度の基本的な考え方を学ぶ」など研修のねらいや到達点について、さまざまなプログラムや手法により受講者に伝えていく工夫を行い、受講者に対して伝えられたことは評価できると考える。併せて、研修の目標について、受講者とも常に共有化する仕掛けを行ったことも評価点と考えられる。
- 併せて、アンケート結果等から、全てのカリキュラムを通じて制度理解について促進されたものと考えられる。
- また、社会資源、ネットワーク、地域づくりに対する問題意識や抱負が書き込まれており、当初の目標に沿った結果を得たと考えられる。

##### ②講義・演習に関する全般的な意見

- アンケート結果等から、講師の熱意が伝わってくる有意義な研修だったとの声が多数を占めた。
- これは、各職種別の研修においても、本企画委員会における協議を踏まえ、講師等関係者間でそれぞれ複数回の打合せ会を開催し、研修プログラムのねらいや目標についての共通理解を図れたこと、さらには研修自体に有機的なつながり作りができ、それらが受講者からのアンケート結果に反映されたと評価できる。

##### ③プログラム開発について

今回の研修では、単にテキストに沿った講義にとどまらず、それぞれの研修について、受講者に理解してほしいこと、伝えたいことについて内容面で統一感を持たせるために、講師、事例提供者間で打合せを重ねたうえで各講義・演習を実施した。これらの準備プロセスそのものが、本研修でも強調された「チームアプローチ」を実感できるとの声が講師等関係者の感想としてあった。

さらに、本研修の目標である「理念や制度の基本的な考え方を学ぶ」を目指して、多様でかつ

オリジナルの手法や資料を種々開発したことである（詳細は3章の各研修プログラムシート等を参照）。このことは、一つのモデルとなる研修プログラムを開発して示したことにとどまらず、開発した手法以外にもさまざまな研修手法の可能性があることを示しており、今後、多様な場で新たな研修プログラムの開発がなされることが期待される。

#### ④オプション交流会について

○講師陣の協力を得て、オプションプログラムとして、2日目の研修終了後にテーマ別交流会を実施した。講師それぞれの専門分野別にテーマを設定し、受講者に選択してもらい、同じ悩みを持つ仲間と講師を囲んでの情報交換を促すことができた。研修の特徴の一つとなり、今後も継続し、受講者同士のネットワーク構築の場としても機能していくことが期待される。

#### ◆課題

##### ①プログラム内容について

- 任意事業の重要性の強調と共に、受講者の持つ本制度の事業推進の視野を広げる必要がある。たとえば生活困窮者個人支援から世帯支援をどう考えるかなどの講義の時間があってもよい。
- 実施状況等、全体の数字を示し、全国的な流れを説明することで現状を把握できる時間を確保する必要がある。
- 研修のプログラムで評価が高いのはグループワークだが、属性や経験値など各々人に合わせる配慮がないとグループによつての満足度が全く変わってくるので気を付ける必要がある。
- 任意事業まで取り組むには至らない人的体制などの難しさ、非常勤等、雇用の現状、さらには兼務で支援員が孤立している等の意見がアンケートを通して多く見られた。圏域でのネットワークの組み立て方の講義の時間の確保やフォローアップも考える必要性がある。また、自立相談支援事業でも任意事業との連携の必要性を強調する。

## (2) 自立相談支援事業従事者養成研修 全体についての成果と課題

#### ◆成果

- 後期研修については各企画部会長が、全てのカリキュラムに出席した。この結果全体の流れを把握し、適宜指示を出すなど各研修が充実したものとなった。各部会長のご負担は大きいが可能であれば来年度も同じような形式で運営できることを望みたい。
- 研修修了者の実践報告について1年の実践を経ての取り組みを発表してもらい機会を設けたことで、受講者の実践にあたってのイメージ作りに繋がった。

#### ◆課題

- 研修の日程を3日間にするか、4日間にするか日程面でハードな時間配分の変更を求める声がある。

引き続き多かった。

- 子どもへの支援についての講義や説明が少ないとの声も多くあったので、学習支援等も含めて伝える時間を設ける必要がある。

### (3) 自立相談支援事業従事者養成研修 前期共通研修についての成果と課題

#### ◆成果

- 【講義と演習④-1】生活困窮者支援に必要と考えられる視点について
  - ・事例報告後、担当講師から実践内容について質問されることで報告者自身も整理ができると共に支援のポイントを受講者に伝えることができたので有意義なプログラムと考えられる。
- 【講義と演習⑤】生活困窮者支援を通じた地域づくりについて
  - ・初めての試みとして、昨年度の研修修了者に登壇してもらった。受講者にとって修了者の実践は身近に感じることができたと思われるので、普遍化するという課題はあるが来年度以降も修了者で実践している方に事例報告をしてもらえるよう企画していく。

#### ◆課題

- 【講義と演習④-1】生活困窮者支援に必要と考えられる視点について
  - ・時間的に3名では各々の発表が短く、生活困窮の対象者はさまざまということ伝えきれない状態であった。発表者は2名の方がゆっくり話せて聞きやすいと評価が高かったので、来年度については2名で実施するなど工夫が必要。
  - ・生活困窮者の対象者とされる12種類の特性について、いかに伝えていくかが課題となる。
- 【講義と演習④-2】発達障害等メンタルヘルスに配慮すべき人への支援について
  - ・発達障害などのメンタルヘルスという講義タイトルについて、発達障害は脳機能障害となりメンタルヘルスにはあたらない為、表記を改定する。
  - ・初心者には丁寧で演習等もありわかりやすい内容であったが、実践者にとっては既に知っている情報が多い為、どこに標準を置くかを考え、より実践的な内容を学んでもらえるよう工夫する必要がある。
- 【講義と演習⑦】就労支援の実施方法について
  - ・来年度に向けては修了者に研修を受けてどう具体的に取組んだかを報告してもらいフィードバックを得るなどの工夫も必要である。
- 全体について
  - ・前期共通研修について、今年度は「主任」「相談」「就労」と区切って、それに合わせた内容も多少設定することができたが、全体の研修のレベルをどこに合わせるのかという課題が

あり、整合性を検討する必要がある。アンケート等から、各支援員・職種同士の関わりがでないという現状もあるので、職種を区切らない研修になることで交流を図る機会を提供していくことも検討してはどうだろうか。そのためには職場づくり・チームづくりなどの講義を工夫する必要がある。

- ・家計相談支援事業と自立相談支援事業の関係についてもプログラムとして取り入れる必要性がある。

#### (4) 自立相談支援事業従事者養成研修 後期主任研修についての成果と課題

##### ◆成果

##### ○【講義と演習④】個を支える地域づくりについて

- ・昨年度、受講者からは地域づくりまで手が回らないという反応が多かったが、今年度は個を支える地域づくりという考え方のもとカリキュラムを組み立て直し、生活困窮者支援に必要な部分に絞り込んだ。そのことで地域づくりの必要性がイメージできるようになり、受講者の理解に繋がった。
- ・実践事例の内容と地域づくりの趣旨としっかりマッチして評価が高く、受講者の理解を促すことができた。
- ・グループ分けで女性のみ男性のみにするなど、さらなる工夫があって良かった。

##### ○【講義と演習⑥】支援困難事例の検討

- ・担当講師を中心に打合せを重ね、スーパービジョンそのものを学ぶのではなく困難事例を通して理解につながるよう、工夫し好評であった。

##### ◆課題

##### ○【講義③】生活困窮者支援と地域づくりの意義について

- ・地域づくりは共助の基盤づくり等にふれた講義も行ったが、さらに一歩進め社会参加を地域のボランティアセンターと連携して計画づくりをするなど実践の方向性について具体的に理解できるよう来年度以降、配慮していく。

#### (5) 自立相談支援事業従事者養成研修 後期相談研修についての成果と課題

##### ◆成果

##### ○【講義と演習①～⑦】の各論について

- ・今回は、1) 基本的な援助技術、2) 制度(今回は就労支援及び任意事業)の有意義な運用など全体を通して入口から出口までの基本を整理してあるので、相談員の研修としてマッチングした内容であり、高評価を得ることができた。

##### ○【講義と演習⑧】相談支援の展開について

- ・昨年度においても動画を作成するなど、研修全体の核となる部分であったが、今年度も事例を通して演習できる「体系的研修プログラム」を構築し、実践的な学びに繋げることができた。

◆課題

○【講義と演習⑥】任意事業との連携のあり方について

- ・任意事業の講義について唐突感を持った受講者もいたことから、なぜ伝えるのかを丁寧に伝える必要がある。

○【講義と演習⑧1-3】について

- ・より時間をかけて作り込めば「研修パッケージ」として全国に広げられる可能性があるため、今後、協議を重ねて作り上げていく。
- ・内容は、帳票類の活用方法と密接に関連することもあり、国研修においては、受講者のレベルに合わせるというだけでなく、「このレベルまで求められる」という国としての基準を示す必要もある。

(6) 自立相談支援事業従事者養成研修 後期就労研修についての成果と課題

◆成果

○【講義と演習③・④】ハローワーク関連・労働行政について

- ・ハローワークの全体像を伝えるだけではなく、連携先、協働先だということを伝え、理解を図ることができた。
- ・労働行政では伝達研修等で使える参考教材も含めて、受講者が活用できる情報を提供できた。

○【講義と演習⑤】個人への相談支援について

- ・昨年度の修了者を招き、実践報告を実施したことで少し先に行く姿を実感してもらい、自分でもできるのではとイメージを持たせることで、受講者の意欲喚起に繋がった。

○【講義と演習⑥】アウトリーチの実際と危機管理について

- ・昨年度に比べてアウトリーチの視点の比重を重くしたことにより社会的孤立を抱える人にどのようにアプローチをしていくかを丁寧に伝えることができ、アウトリーチの必要性について共通理解を促すことができた。

○【講義と演習⑩】企業へのアプローチについて

- ・企業開拓についてドットマッピング等、具体的な地域資源の掘り起こしの手法を伝えることができ、受講者からの評価も高かった。

◆課題

○【講義と演習⑥】アウトリーチの実際と危機管理について

- ・相談支援員のアウトリーチを強化することが課題となるので、来年度はプログラム内で困窮者向けや若者向けなどへのアウトリーチを意識して伝える必要がある。

## (7) 就労準備支援事業従事者養成研修についての成果と課題

### ◆成果

#### ○全体について

- ・ワールド・カフェで講師と事務局がエプロンを着用し雰囲気づくりの工夫をすることで、雰囲気や和らげ受講者が積極的にプログラムに参加するきっかけとなった。
- ・プログラム開発や企業開拓等、演習（グループワーク）を通して、他県の受講者が交流し、地域の現状や実施方法などを共通理解が図れたと共に横のつながりを築くことができたという好評だった。
- ・演習（グループワーク）にて、1ヶ月の就労プログラム（カレンダー）作成を実施し、受講者同士が具体的なアイデアを出し合うことで一人では思いつかないプログラムをチームで作ることができ、視野を広げることができた。

### ◆課題

#### ○全体について

- ・自立相談支援事業と就労準備支援事業との連携の必要性を意識したプログラムの時間を設ける必要がある。
- ・各カリキュラムに社会資源づくりやネットワーク構築の要素を含めていたにもかかわらず、演習等で地域ネットワークの構築の事例があると良いのではとのコメントがあった。社会資源づくりをメインテーマとした研修カリキュラムの必要性も感じられた。

## (8) 家計相談支援事業従事者養成研修についての成果と課題

### ◆成果

#### ○全体について

- ・1回の研修が50名程度の少人数制だったため、受講者一人ひとりのスキルに合わせた実習が可能となり、学びの度合いの格差を抑えることに繋がった。
- ・他の研修と違い、パソコンを使用しての帳票類作成の実習があり、実践的な学びにつながる為、受講者の評価は高かった。

### ◆課題

#### ○全体について

- ・来年度は40名から60名と受講者が増えることも想定され、講師のサポーターとして各地域の修了者に協力をしてもらい、スムーズな研修運営の実施を目指す。また協力してくれる修了者とのネットワークづくりもしていきたい。
- ・単純に事例に沿ってパソコンで帳票を作成するより、来年度は事前にパソコンの課題に取り組んでもらい、家計表等から支援の方向性を見立て、それをどのよう

に改善に向けて組み立てていくかを考える内容に変更するなど工夫も必要。

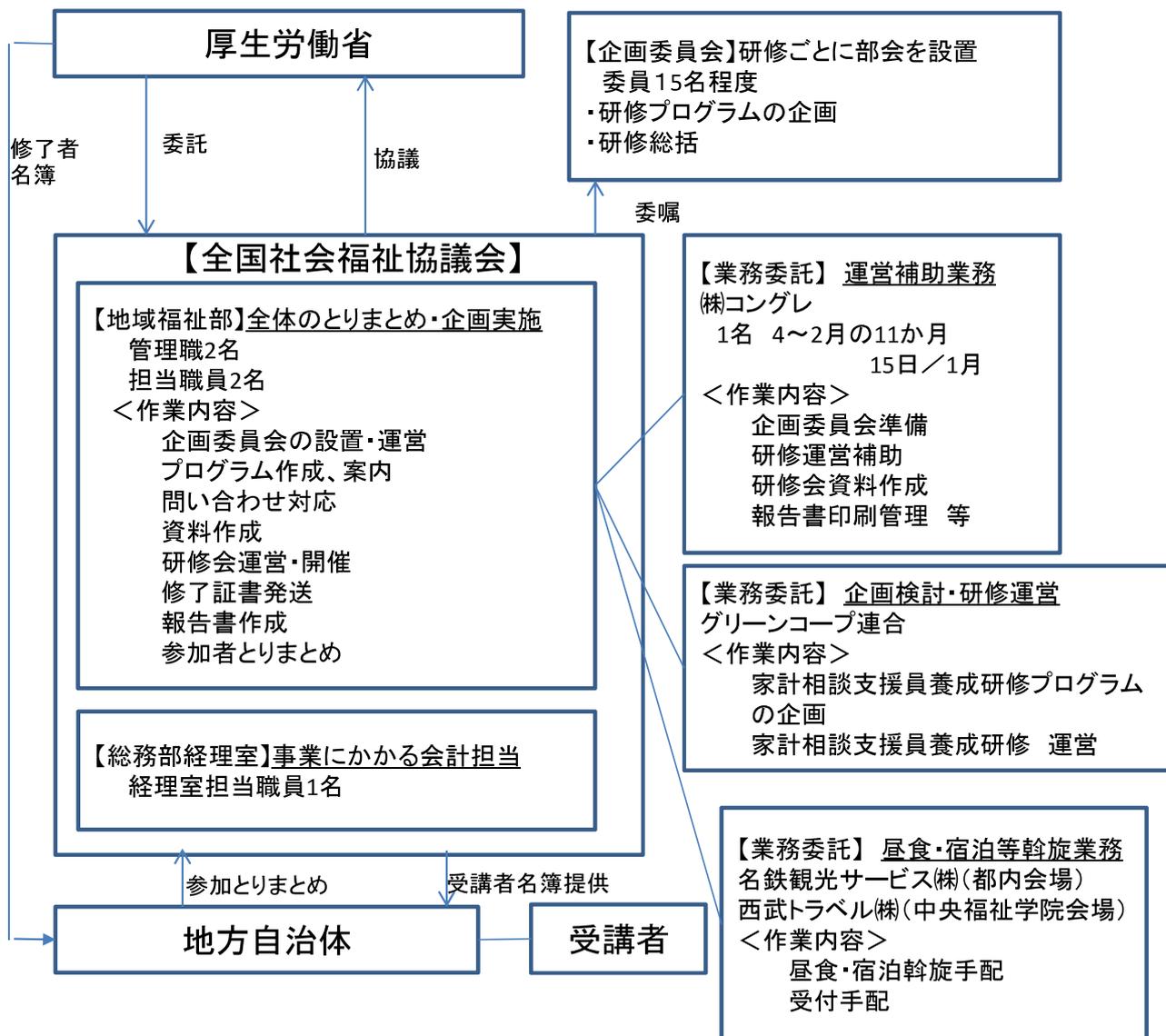
- 自立相談支援事業と家計相談支援事業の連携の重要性を伝える時間を増やす必要がある。

## 第6章 運營業務

### 1 受け入れから実施報告までのスケジュール

◇受け入れから報告までのスケジュール(日程)			
4/26	第1回企画・運営委員会の開催	事業実施計画の確認 研修プログラム検討(講師選定含)	企画委員選定協議 会場調整等
4/28	第1回家計相談企画部会の開催	研修の企画検討 今後の進め方確認	企画委員会検討準備
4月中旬～	研修プログラムの作成	企画委員会で協議された内容に沿って、 研修プログラムを作成する ※講師の確保について可能な範囲で進める ※会場確保(演習に必要な会場等)	企画委員会検討準備 講師確保
5/8	第1回就労準備企画部会の開催	研修のカリキュラム検討 今後の進め方確認	プログラム案作成 開催要綱等作成
5/23	第1回自立相談企画部会の開催	【前期】共通プログラム検討 【後期】主任プログラム検討	問い合わせ対応 (～1月)
5月下旬	開催案内	開催要綱作成、発送、募集	企画委員会検討準備 演習講師打ち合わせ準備
6月上旬	受講者の決定・案内	行政が取りまとめた申込の集約、厚労省と調整・ 確認のうえ受講決定案内	
6/29～7/2	第1回家計相談支援員養成研修		修了証書発行
7/6	第2回就労準備企画部会の開催	研修カリキュラムの企画概要と進め方確認 (実施内容、研修資料確認)	
7/15～17	【前期】主任相談支援員養成研修		受講決定案内 研修資料作成 備品等研修準備
7/27～30	就労準備支援担当者養成研修		修了証書発行
8/2	第1回相談支援員企画部会の開催	【後期】相談プログラム検討 今後の進め方確認	
8/21	第1回就労支援員企画部会の開催	【後期】就労プログラム検討 今後の進め方確認	
8/25～27	【後期】主任相談支援員養成研修		修了証書発行
9/7～9	【前期】相談支援員養成研修		
9/15～18	第2回家計相談支援員養成研修		修了証書発行 企画委員会検討準備
10/7～9	【後期】相談支援員養成研修		アンケート集約 修了証書発行 研修資料作成 備品等研修準備
11/4～6	【前期】就労支援員養成研修		
11/12	第2回就労支援員企画部会の開催	【後期】就労各プログラムの進め方 資料確認	
11/30～12/3	第3回家計相談支援員養成研修		修了証書発行
12月	家計相談特例措置対応		
12/9～11	【後期】就労支援員養成研修		修了証書発行 企画委員会検討準備
1/18	第2回家計相談企画部会の開催	実施状況報告と評価	アンケート集約 企画委員会検討準備
2/8	第2回企画・運営委員会の開催	実施状況報告と評価 研修結果報告	
2月上旬～	実施報告書作成	事業の実績をとりまとめ、報告書を作成する。	報告書作成
～2月末	研修完了業務	会計処理 修了者名簿の作成と厚生労働省へ提供	

## 2 実施体制



## 付録

- 1 開催要項
- 2 修了証書（ひな形）

## 平成 27 年度

# 自立相談支援事業従事者養成研修

(厚生労働省委託事業)

## 開催要項

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

### 1. 研修の種類

平成 27 年度より施行された生活困窮者自立支援制度の自立相談支援事業において配置される主任相談支援員、相談支援員、就労支援員それぞれを対象とした 3 種の養成研修を実施します。

### 2. 日程及び会場

研修名	日程	会場
主任相談支援員養成研修	【前期】7月15日(水)～17日(金)	全社協・灘尾ホール
	【後期】8月25日(火)～27日(木)	全社協・中央福祉学院
相談支援員養成研修	【前期】9月7日(月)～9日(水)	全社協・灘尾ホール
	【後期】10月7日(水)～9日(金)	全社協・中央福祉学院
就労支援員養成研修	【前期】11月4日(水)～6日(金)	全社協・灘尾ホール
	【後期】12月9日(水)～11日(金)	全社協・中央福祉学院

#### <会場>

【前期】全国社会福祉協議会 灘尾ホール

〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル

TEL 03-3581-4655 FAX 03-3581-7858

※アクセスについては

web サイト (<http://www.shakyo.or.jp/jncsw/access.html>) でご確認ください。

【後期】全国社会福祉協議会 中央福祉学院

〒240-0197 神奈川県三浦郡葉山町上山口 1560-44

TEL 046-858-1355 FAX 046-858-1356

※アクセスについては web サイト (<http://www.gakuin.gr.jp/>) でご確認ください。

### 3. 受講対象

#### (1) 主任相談支援員養成研修

自立相談支援事業において主任相談支援員として配置されている者。

なお、以下の①～③までのいずれかに該当する者。

- ① 社会福祉士、精神保健福祉士、保健師として保険、医療、福祉、就労、教育等の分野における業務に5年以上従事している者であり、かつ、生活困窮者への相談支援業務その他の相談支援業務に3年以上従事している者
- ② 生活困窮者への相談支援業務その他の相談支援業務に5年以上従事している者
- ③ 相談支援業務に準ずる業務として、実施主体である地方自治体の長が認めた業務に5年以上従事している者

#### (2) 相談支援員養成研修

自立相談支援事業において相談支援員として配置されている者。

なお、相談支援業務に従事している者（これまで従事していた者も含む。）など、生活困窮者への相談支援を適切に行うことができる者。

#### (3) 就労支援員養成研修

自立相談支援事業において就労支援員として配置されている者。

なお、キャリアコンサルタント、産業カウンセラー等の資格を有する者や就労支援業務に従事している者（これまで従事していた者も含む。）など、生活困窮者への就労支援を適切に行うことができる者。

※受講者は選考を行い決定します。選考は下記に基づいて行われます。

「生活困窮者自立支援制度人材養成研修事業の実施について」(平成27年4月9日付厚生労働省社会・援護局長通知)

「生活困窮者自立支援制度人材養成研修の開催について」(平成27年5月12日付厚生労働省事務連絡)

### 4. 研修内容

#### (1) 主任相談支援員養成研修

共通カリキュラム【前期】(別表1)及び主任相談支援員養成研修カリキュラム【後期】(別表2)により構成されています。

#### (2) 相談支援員養成研修

共通カリキュラム【前期】(別表1)及び相談支援員養成研修カリキュラム【後期】(別表3)により構成されています。

#### (3) 就労支援員養成研修

共通カリキュラム【前期】(別表1)及び就労支援員養成研修カリキュラム【後期】(別表4)により構成されています。

※最初に参加した研修において共通カリキュラム【前期】を受講した方については、他の研修の共通カリキュラムを重ねて受講することは不要とします。

※昨年度において自立相談支援事業従事者養成研修の共通カリキュラム【前期】を受講し、すべての科目に出席した方については、共通カリキュラムを重ねて受講することは不要とします。

※カリキュラムの詳細は受講決定通知と併せてご案内します。なお、内容と時刻は予定であり、変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

## 5. 各研修の受講定員

240名

※平成27年5月12日付厚生労働省事務連絡に基づき、各都道府県の各研修受講者枠を定めております。

都道府県	受講者枠	都道府県	受講者枠
北海道	10名	滋賀県	4名
青森県	3名	京都府	4名
岩手県	4名	大阪府	11名
宮城県	4名	兵庫県	9名
秋田県	4名	奈良県	4名
山形県	3名	和歌山県	3名
福島県	5名	鳥取県	4名
茨城県	7名	島根県	4名
栃木県	4名	岡山県	6名
群馬県	4名	広島県	6名
埼玉県	11名	山口県	4名
千葉県	10名	徳島県	2名
東京都	11名	香川県	3名
神奈川県	7名	愛媛県	3名
新潟県	5名	高知県	3名
富山県	3名	福岡県	9名
石川県	3名	佐賀県	3名
福井県	3名	長崎県	4名
山梨県	3名	熊本県	4名
長野県	5名	大分県	4名
岐阜県	5名	宮崎県	3名
静岡県	7名	鹿児島県	5名
愛知県	11名	沖縄県	3名
三重県	3名		

## 6. 受講料

無料

※テキスト、交通費、食事、宿泊、交流会（前期研修会1日目、後期研修会1日目に予定、希望者のみ）は負担ください。なお、旅費及び宿泊費については、事業対象経費として支出が可能とされています（社会・援護局長通知参照）。

## 7. テキスト

各研修で使用するテキストは下記の1冊となります。各自ご用意ください（自己負担）。

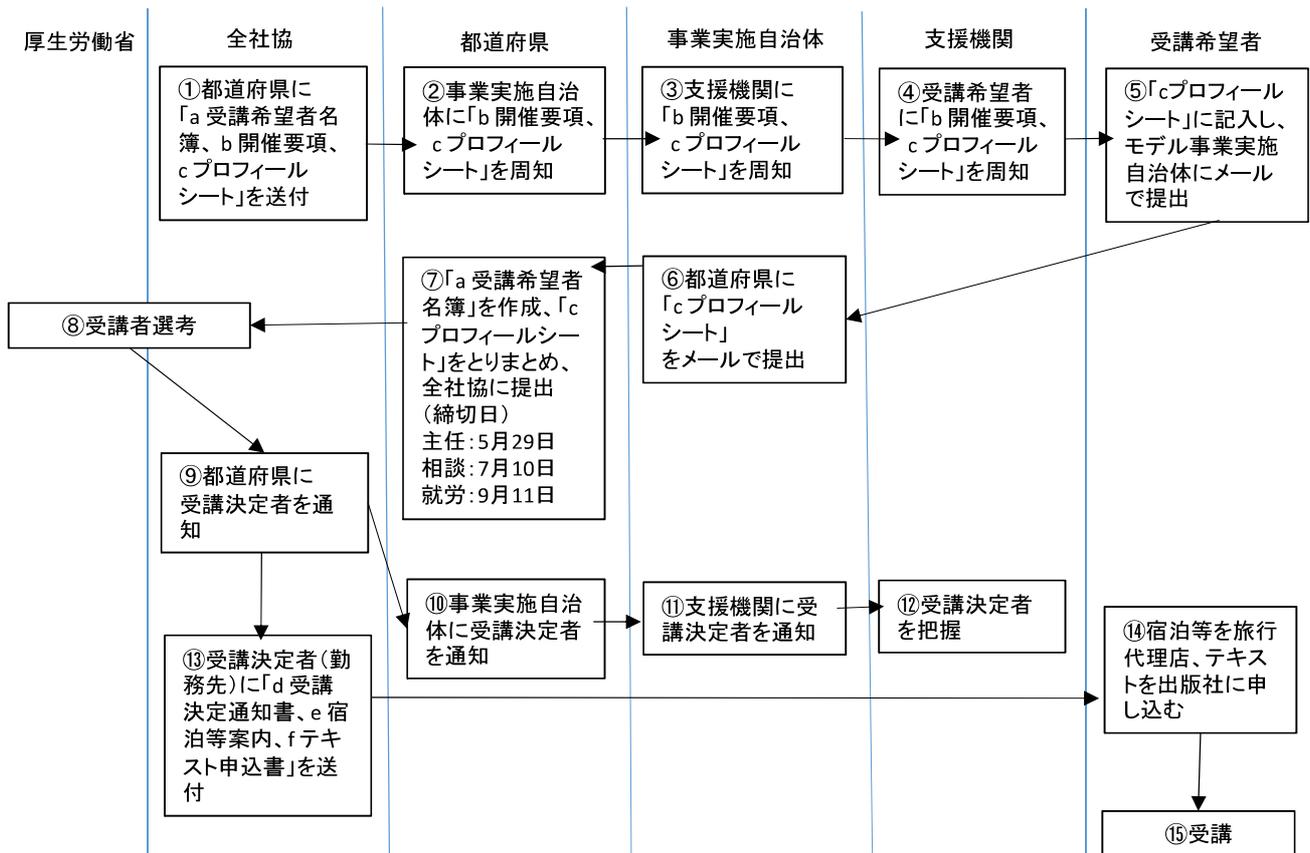
### ①『生活困窮者自立支援法 自立相談支援事業従事者養成研修テキスト』

（中央法規出版株式会社から出版、本体2,800円（税別））

※昨年「平成26年度自立相談支援事業従事者養成研修」に使用したテキストと同様です。

※書店等でお買い求めください。

## 8. 申込みから受講までの流れ



※【】内の数字は上記「申込みから受講までの流れ」の図の番号と一致します。

### 8-1. 都道府県

- 事業実施自治体に開催要項、プロフィールシートをメールで送付【②】
- プロフィールシートに基づいて受講希望者を集約し、受講希望者名簿を作成、プロフィールシートと併せて全社協にメールで提出（締切：主任：平成27年5月29日（金）、相談：7月10日（金）、就労：9月11日（金））【⑦】
- 全社協から送られる「受講決定者名簿」（主任：6月上旬予定、相談：7月下旬予定、就労：9月下旬予定）に基づき、事業実施自治体に受講決定者を通知【⑩】

### 8-2. 事業実施自治体

- 自立相談支援機関に開催要項、プロフィールシートをメールで送付（直営の場合は受講者に周知）【③】
- 受講希望者からプロフィールシートを受領し、都道府県にメールで提出【⑥】
- 自立相談支援機関に受講決定者を通知（直営の場合は受講者に通知）（主任：6月上旬予定、相談：7月下旬予定、就労：9月下旬予定）【⑪】

### 8-3. 自立相談支援機関

- (1) 受講希望者に開催要項、プロフィールシートを周知【④】
- (2) 受講決定者を把握【⑫】

### 8-4. 受講希望者

- (1) プロフィールシートをメールにて事業実施自治体に提出【⑤】
  - ※プロフィールシートは都道府県、事業実施自治体、自立相談支援機関経由でメールにてお送りします。
  - ※プロフィールシートは受講者選考や研修のグループ編成に使用します。
  - ※プロフィールシートのファイル名には、「**別添1**自立プロフィールシート(漢字でフルネームを記入)」のカッコ内をご自分のフルネーム(漢字)に変更してください。
  - ※「**別添2**自立プロフィールシート(記入例)」をご参照ください。
- (2) 受講決定後、テキスト、食事、宿泊、交流会に申し込み(締切：主任：6月下旬予定、相談：8月中旬予定、就労：10月中旬予定)【⑭】
  - ※受講決定通知、テキスト、宿泊等の案内は全社協より直接、受講希望者に通知します(主任：6月上旬予定、相談：7月下旬予定、就労：9月下旬予定)。
  - ※研修を受講できるのは受講決定通知書を受け取った方のみです。
  - ※受講決定者は別途、都道府県、事業実施自治体、自立相談支援機関にも通知します。

## 9. 修了証書の交付

- (1) 所定の修了要件を満たした方には「修了証書」を交付します。
- (2) 修了要件は以下のとおりです。
  - ①前・後期のすべての科目に出席すること。
  - ②前期終了後の事後課題を提出すること。
- (3) 修了証書は、後期研修終了時に受講者本人にお渡しします。
- (4) 都道府県には、厚生労働省から修了者名簿をお送りします。

別表 1 共通カリキュラム

科目	目標	形式・時間数
生活困窮者支援の基本的な考え方について	生活困窮者自立支援制度創設の背景及び制度の概要、生活困窮者支援の理念について理解する。	講義：1.5時間
生活困窮者自立支援制度における自立相談支援事業の重要性について	自立相談支援事業の目的、機能、支援の流れ、各支援員の役割について理解する。	講義：2時間
	各支援員に求められる倫理や基本姿勢について理解する。	講義：1.5時間 演習：2時間
生活困窮者支援に必要と考えられる視点について	対象者の特性を踏まえた支援のあり方や、健康・保健、権利擁護、個人情報保護など支援に必要と考えられる視点について理解する。	講義：1.5時間 演習：2時間
生活困窮者支援における社会資源の活用と連携・協働について	生活困窮者支援に関係する各制度・施策やその他の社会資源の活用、それらとの連携・協働の目的とその方法について理解する。	講義：1.5時間 演習：2時間
相談支援の展開について	生活困窮者の自立支援計画について、基本的な考え方等について理解する。	講義：1.5時間 演習：2時間
就労支援の実施方法について	生活困窮者の就労支援について、基本的な考え方等について理解する。	講義：1.5時間 演習：2時間

※計 21 時間（講義 11 時間、演習 10 時間）

※実施予定時刻 第 1 日目 9：00～18：20 交流会（自由参加）18：40～19：40

第 2 日目 9：15～18：00 テーマ別交流会（自由参加）18：15～19：15

第 3 日目 9：00～17：40

別表 2 主任相談支援員養成研修カリキュラム

科目	目標	形式・時間数
職員の資質向上と職場（組織）づくりについて	職員の育成・教育について学習するとともに、スーパービジョンの手法等、主任相談支援員に求められる役割について十分に理解する。	講義：3時間 演習：4時間
	高度な相談支援（支援困難ケースへの対応）について、具体的な支援の考え方やその手法について理解する。	講義：1時間 演習：2時間
生活困窮者支援を通じた地域づくりについて	生活困窮者支援を通じた地域づくりの考え方を学習するとともに、地域の関係機関・関係者との協働・連携のあり方について理解する。	講義：2時間 演習：2時間
	地域の社会資源の状況把握、地域に不足する社会資源の開発等の考え方やその手法について理解する。	講義：3時間 演習：4時間

※計 21 時間（講義 9 時間、演習 12 時間）

※実施予定時刻 第 1 日目 10：00～18：40 交流会（自由参加）19：10～20：10  
 第 2 日目 9：00～17：20 テーマ別交流会（自由参加）17：35～18：35  
 第 3 日目 9：00～17：40

別表 3 相談支援員養成研修カリキュラム

科目	目標	形式・時間数
相談支援の展開について	生活困窮者への一連の相談支援プロセス（対象者の把握・アウトリーチ、相談受付（利用申込）、アセスメント、自立支援計画の策定、支援調整会議の開催、支援サービスの提供、モニタリング、自立支援計画の評価、支援の終結等）についての考え方やその手法について理解を深めるとともに、プロセスの各段階における基礎的な援助技術を習得する。	講義：6時間 演習：8時間
	上記の講義や演習を踏まえ、事例を通じて、具体的な相談支援の考え方や手法についてより理解を深める。	演習：7時間 ※演習のまとめに係る講義の時間も含む。

※計 21 時間（講義 6 時間、演習 15 時間）

※実施予定時刻 第 1 日目 10：00～18：30 交流会（自由参加）18：45～19：45  
 第 2 日目 9：00～17：20 テーマ別交流会（自由参加）17：35～18：35  
 第 3 日目 9：00～17：25

別表 4 就労支援員養成研修カリキュラム

科目	目標	形式・時間数
就労支援の実施方法について	生活困窮者に対する就労支援の意義や重要性、就労支援に必要とされる基本的な知識等について学習するとともに、生活困窮者の就労支援に係る相談の進め方や、ハローワーク・協力企業等との連携について理解する。	講義：6時間 演習：8時間
	上記の講義や演習を踏まえ、事例を通じて、具体的な就労支援の考え方や手法についてより理解を深める。	演習：7時間 ※演習のまとめに係る講義の時間も含む。

※計 21 時間（講義 6 時間、演習 15 時間）

※実施予定時刻 第 1 日目 10：00～18：55 交流会（自由参加）19：10～20：10  
 第 2 日目 9：00～18：00 テーマ別交流会（自由参加）18：15～19：15  
 第 3 日目 9：00～17：25

<個人情報の取り扱いについて>

受講者及び申込者の皆様に関する個人情報は、研修事業関連のみの目的で使用し、その他の目的で使用することはありません。その管理については、全国社会福祉協議会「個人情報の保護に関する方針（プライバシーポリシー）」に基づき適切に行い、無断で第三者に提供することはありません。

ご不明な点等ございましたら、全国社会福祉協議会地域福祉部までご連絡ください

全国社会福祉協議会のプライバシーポリシー等は、全社協ホームページに記載しています。

<http://www.shakyo.or.jp/kojin.html>

<本件に関する連絡・お問い合わせ先>

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 地域福祉部 （高橋、芦田、阿部）

〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル

TEL03-3581-4655 FAX03-3581-7858 メールアドレス [z-jiritsu@shakyo.or.jp](mailto:z-jiritsu@shakyo.or.jp)

受付時間 9：30～17：30 土日祝日休業

生活困窮者自立支援制度

# 平成 27 年度 就労準備支援事業従事者養成研修

(厚生労働省委託事業)

## 開催要項

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

### 1. 研修の概要

平成 27 年度より施行された生活困窮者自立支援制度の就労準備支援事業において配置される就労準備支援担当者を対象とした養成研修を実施します。

### 2. 日程及び会場

研修名	日程	会場
就労準備支援事業従事者養成研修	7月27日(月)～7月30日(木)	タイム 24

#### <会場>

タイム 24 ビル HALL 1 (1 階)

〒135-0064 東京都江東区青海 2-4-32

TEL:03-5531-0024 FAX:03-5531-0025

※アクセスについては

web サイト (<http://www.tokyo-bigsight.co.jp/time/access/index.html>) でご確認ください。

### 3. 受講対象

就労準備支援事業において就労準備支援担当者として配置される者。

なお、キャリアコンサルタント、産業カウンセラー等の資格を有する者や就労支援業務に従事している者(これまで従事していた者も含む。)など、生活困窮者への就労支援を適切に行うことができる者。

※受講者は選考を行い決定します。選考は下記に基づいて行われます。

「生活困窮者自立支援制度人材養成研修事業の実施について」(平成 27 年 4 月 9 日付厚生労働省社会・援護局長通知)

「生活困窮者自立支援制度人材養成研修の開催について」(平成 27 年 5 月 12 日付厚生労働省事務連絡)

#### 4. 研修内容

就労準備支援事業従事者養成研修カリキュラム（別表 1）により構成されています。

※カリキュラムの詳細は受講決定通知と併せてご案内します。なお、内容と時刻は予定であり、変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

#### 5. 研修の受講定員

120 名

#### 6. 受講料

無料

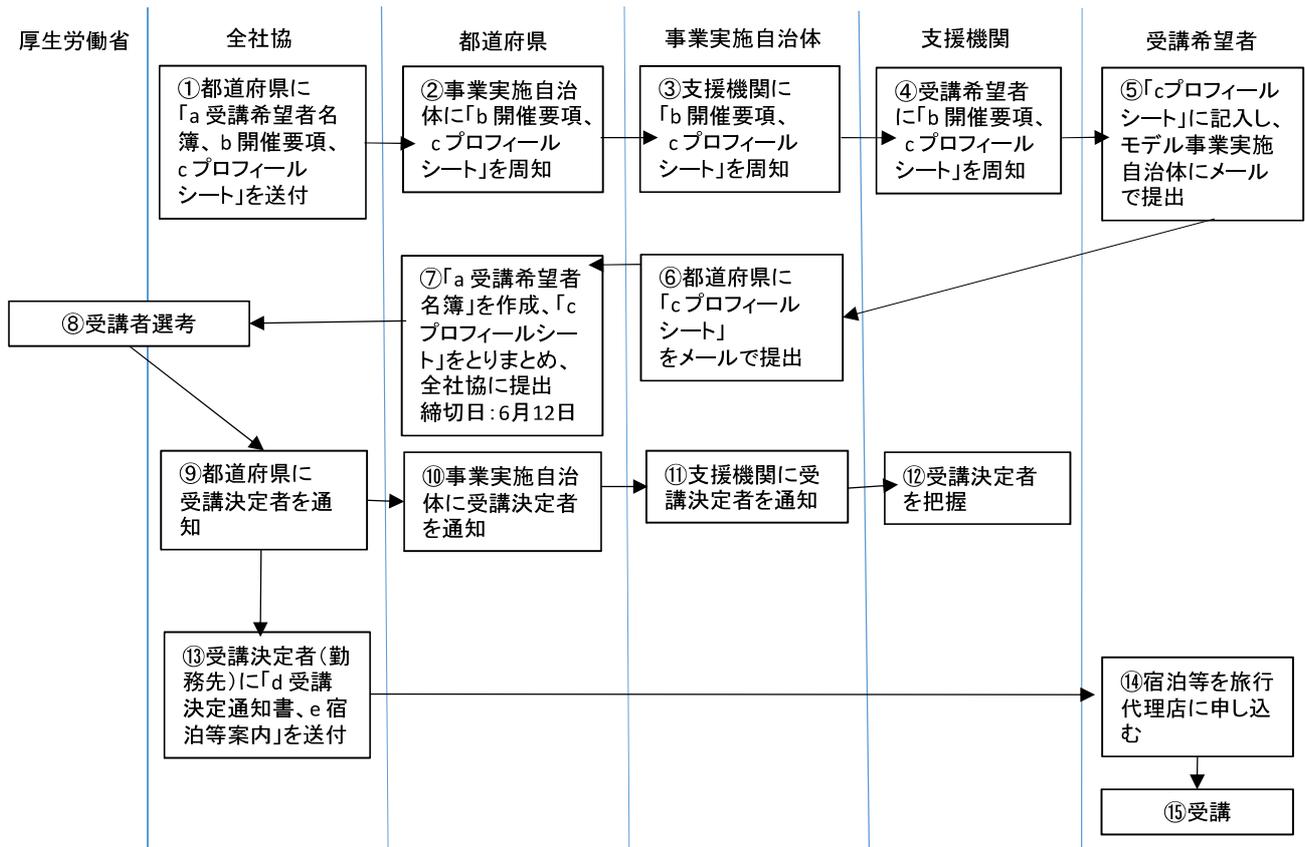
※交通費、食事、宿泊、交流会（研修会 1 日目、希望者のみ）は負担ください。

なお、旅費及び宿泊費については、事業対象経費として支出が可能とされています（厚生労働省社会・援護局長通知参照）。

#### 7. テキスト

有償の書籍をテキストとして使用することは予定しておりません。詳細は受講決定通知にてご案内いたします。

## 8. 申込みから受講までの流れ



※ 【】内の数字は上記「申込みから受講までの流れ」の図の番号と一致します。

### 8-1. 都道府県

- (1) 事業実施自治体に開催要項、プロフィールシートをメールで送付【②】
- (2) プロフィールシートに基づいて受講希望者を集約し、受講希望者名簿を作成、プロフィールシートと併せて全社協にメールで提出 (締切日: 平成 26 年 6 月 12 日 (金))【⑦】
- (3) 全社協から送られる「受講決定者名簿」(6 月下旬予定)に基づき、事業実施自治体に受講決定者を通知【⑩】

### 8-2. 事業実施自治体

- (1) 就労準備支援機関に開催要項、プロフィールシートをメールで送付 (直営の場合は受講者に周知)【③】
- (2) 受講希望者からプロフィールシートを受領し、都道府県にメールで提出【⑥】
- (3) 就労準備支援機関に受講決定者を通知 (直営の場合は受講者に通知) (6 月下旬予定)【⑪】

### 8-3. 就労準備支援機関

- (1) 受講希望者に開催要項、プロフィールシートを周知【④】
- (2) 受講決定者を把握【⑫】

#### 8-4. 受講希望者

(1) プロフィールシートをメールにて事業実施自治体に提出【⑤】

※プロフィールシートは都道府県、事業実施自治体、就労準備支援機関経由でメールにてお送りします。

※プロフィールシートは受講者選考や研修のグループ編成に使用します。

※プロフィールシートのファイル名には、「別添5」就労準備プロフィールシート（漢字でフルネームを記入）」のカッコ内をご自分のフルネーム（漢字）に変更してください。

※「別添6」就労準備プロフィールシート（記入例）」をご参照ください。

(2) 受講決定後、食事、宿泊、交流会に申し込み（締切：7月上旬予定）【⑭】

※受講決定通知、宿泊等の案内は全社協より直接、受講希望者に通知します（6月下旬予定）。

※研修を受講できるのは受講決定通知書を受け取った方のみです。

※受講決定者は別途、都道府県、事業実施自治体、就労準備支援機関にも通知します。

#### 9. 修了証書の交付

(1) 所定の修了要件を満たした方には「修了証書」を交付します。

(2) 修了要件は以下のとおりです。

①すべての科目に出席すること。

(3) 修了証書は、研修終了時に受講者本人にお渡しします。

(4) 都道府県には、厚生労働省から修了者名簿をお送りします。

別表 1 就労準備支援事業従事者養成研修カリキュラム

科目	目標	形式・時間数
就労準備支援の基本的な考え方について	生活困窮者自立支援制度及び就労準備支援事業の目的と必要性を理解する。	講義：3時間 演習：4時間
	就労準備支援担当者に求められる基本理念や責務、役割について理解するとともに、多様な課題や社会的背景を抱える就労準備支援事業の対象者像を理解する。	
就労準備支援の展開について	援助関係の構築、アセスメントの手法、就労準備支援プログラムの作成、支援方法、評価の視点を学ぶ。	講義：4.5時間 演習：9.5時間
	自立相談支援機関やハローワーク等関係機関との連携、社会資源の開発等、就労準備支援を進めていくために必要な体制づくりについて学ぶ。	

※計 21 時間（講義 7.5 時間、演習 13.5 時間）

※実施予定時刻 第 1 日目 13：30～17：25 交流会（自由参加）17：45～18：45  
 第 2 日目 9：30～18：30 テーマ別交流会（自由参加）18：45～19：45  
 第 3 日目 9：30～18：30  
 第 4 日目 9：30～13：50

<個人情報の取り扱いについて>

受講者及び申込者の皆様に関する個人情報は、研修事業関連のみの目的で使用し、その他の目的で使用することはありません。その管理については、全国社会福祉協議会「個人情報の保護に関する方針（プライバシーポリシー）」に基づき適切に行い、無断で第三者に提供することはありません。

ご不明な点等ございましたら、全国社会福祉協議会地域福祉部までご連絡ください

全国社会福祉協議会のプライバシーポリシー等は、全社協ホームページに記載しています。

<http://www.shakyo.or.jp/kojin.html>

<本件に関する連絡・お問い合わせ先>

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 地域福祉部 （高橋、芦田、阿部）

〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル

TEL03-3581-4655 FAX03-3581-7858 メールアドレス [z-jiritsu@shakyo.or.jp](mailto:z-jiritsu@shakyo.or.jp)

受付時間 9：30～17：30 土日祝日休業

生活困窮者自立支援制度

# 平成 27 年度 家計相談支援事業従事者養成研修

(厚生労働省委託事業)

## 開催要項

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

### 1. 研修の概要

平成 27 年度より施行された生活困窮者自立支援制度の家計相談支援事業において配置される家計相談支援員を対象とした養成研修を実施します。研修は 3 回実施しますが、各回の内容は同様です。

### 2. 日程及び会場

研修名	日程	会場
第1回 養成研修	6月29日(月)～ 7月 2日(木)	タイム24ビル・研修室
第2回 養成研修	9月15日(火)～ 9月18日(金)	全社協・会議室
第3回 養成研修	11月30日(月)～12月3日(木)	タイム24ビル・研修室

#### <会場>

タイム 24 ビル (2 階 研修室) 【第 1 回、第 3 回 会場】

〒135-0064 東京都江東区青梅 2-4-32

TEL 03-5531-0024 FAX 03-5531-0025

※アクセスについては

web サイト (<http://www.tokyo-bigsight.co.jp/time/access/index.html>) でご確認ください。

全国社会福祉協議会 (5 階 会議室) 【第 2 回 会場】

〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル

TEL 03-3581-4655 FAX 03-3581-7858

※アクセスについては

web サイト (<http://www.shakyo.or.jp/jncsw/access.html>) でご確認ください。

### 3. 受講対象

家計相談支援事業において家計相談支援員として配置される者。

なお、相談支援に関わる知識・技術、家計管理に関わる知識・技術、社会保障制度や金融に関わる知識等を有している者で以下の①～⑤のような者。

- ① 消費生活専門相談員、消費生活アドバイザー又は消費生活コンサルタントの資格を有する者
- ② 社会福祉士の資格を有する者
- ③ 社会保険労務士の資格を有する者
- ④ ファイナンシャルプランナーの資格を有する者
- ⑤ 上記①～④に掲げる者同等の能力または実務経験を有する者

※受講者は選考を行い決定します。選考は下記に基づいて行われます。

「生活困窮者自立支援制度人材養成研修事業の実施について」（平成 27 年 4 月 9 日  
付厚生労働省社会・援護局長通知）

「生活困窮者自立支援制度人材養成研修の開催について」（平成 27 年 5 月 12 日付厚生労働省事務  
連絡）

### 4. 研修内容

家計相談支援事業従事者養成研修カリキュラム（別表 1）により構成されています。

※カリキュラムの詳細は受講決定通知と併せてご案内します。なお、内容と時刻は予定であり、変更となる場合があります。あらかじめご了承ください。

### 5. 各研修の受講定員

1 回あたり 40 名

### 6. 受講料

無料

※交通費、食事、宿泊、交流会（研修会 1 日目、希望者のみ）は負担ください。

なお、旅費及び宿泊費については、事業対象経費として支出が可能とされています（厚生労働省社会・援護局長通知参照）。

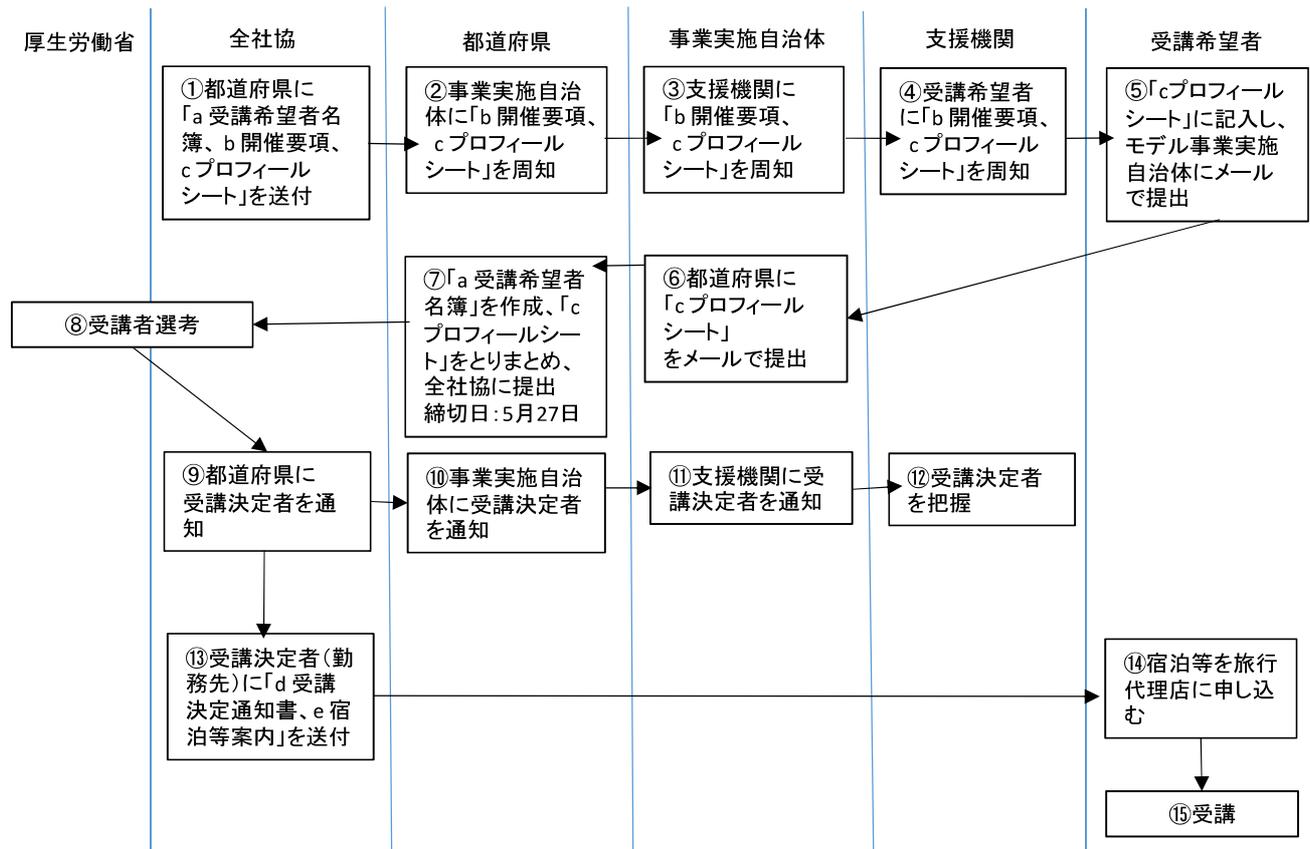
### 7. テキストおよびノートパソコン

（1）有償の書籍をテキストとして使用することは予定しておりません。

（2）第 3 日目、第 4 日目においてノートパソコン（Microsoft Word、Microsoft Excel を使用）を使用します。持参できない方には、レンタルサービスを提供する予定です。

※詳細は受講決定通知にてご案内いたします。

## 8. 申込みから受講までの流れ



※ 【】内の数字は上記「申込みから受講までの流れ」の図の番号と一致します。

### 8-1. 都道府県

- (1) 事業実施自治体に開催要項、プロフィールシートをメールで送付【②】
- (2) プロフィールシートに基づいて受講希望者を集約し、受講希望者名簿を作成、プロフィールシートと併せて全社協にメールで提出 (締切: 平成 27 年 5 月 27 日 (水))【⑦】
- (3) 全社協から送られる「受講決定者名簿」(第 1 回受講者: 6 月上旬予定、第 2・3 回受講者: 7 月以降に順次)に基づき、事業実施自治体に受講決定者を通知【⑩】

### 8-2. 事業実施自治体

- (1) 家計相談支援機関に開催要項、プロフィールシートをメールで送付 (直営の場合は受講者に周知)【③】
- (2) 受講希望者からプロフィールシートを受領し、都道府県にメールで提出【⑥】
- (3) 家計相談支援機関に受講決定者を通知 (直営の場合は受講者に通知) (第 1 回受講者: 6 月上旬予定、第 2・3 回受講者: 7 月以降に順次)【⑪】

### 8-3. 家計相談支援機関

- (1) 受講希望者に開催要項、プロフィールシートを周知【④】
- (2) 受講決定者を把握【⑫】

#### 8-4. 受講希望者

(1) プロフィールシートをメールにて事業実施自治体に提出【⑤】

※プロフィールシートは都道府県、事業実施自治体、家計相談支援機関経由でメールにてお送りします。

※プロフィールシートは受講者選考や研修のグループ編成に使用します。

※プロフィールシートのファイル名には、「**別添3**家計プロフィールシート(漢字でフルネームを記入)」のカッコ内をご自分のフルネーム(漢字)に変更してください。

※「**別添4**家計プロフィールシート(記入例)」をご参照ください。

(2) 受講決定後、食事、宿泊、交流会に申し込み(締切：第1回受講者：6月上旬予定、第2・3回受講者：7月以降に通知)【⑭】

※受講決定通知、宿泊等の案内は全社協より直接、受講希望者に通知します(第1回受講者：6月上旬予定、第2・3回受講者：7月以降に順次)。

※研修を受講できるのは受講決定通知書を受け取った方のみです。

※受講決定者は別途、都道府県、事業実施自治体、家計相談支援機関にも通知します。

#### 9. 修了証書の交付

(1) 所定の修了要件を満たした方には「修了証書」を交付します。

(2) 修了要件は以下のとおりです。

①すべての科目に出席すること。

(3) 修了証書は、研修終了時に受講者本人にお渡しします。

(4) 都道府県には、厚生労働省から修了者名簿をお送りします。

別表 1 家計相談支援事業従事者養成研修カリキュラム

科目	目標	形式・時間数
家計相談支援の基本的な考え方について	生活困窮者の状況の理解と、家計相談支援員に求められる倫理・責務・役割を理解する。	講義：2.5時間
	多重・過重債務問題の理解と、債務整理の方法やヤミ金対策について理解する。その他、利用できる制度や法律について理解するとともに、相談者の抱える課題や社旗的背景を理解し、家計相談支援事業の対象となる相談者像を理解する。	講義：2.5時間 演習：0.5時間
家計相談支援の展開について	初回面接から終結に至るまでの一連の流れを学ぶとともに、家計相談支援における基本的対応方法や面接姿勢の心得、相談時の心構えや対応方法などについて理解する。	講義：4時間 演習：3.5時間
家計表、キャッシュフロー表等を用いた支援について	家計表等の作成において求められる情報収集の方法や分析視点を理解する。加えて、キャッシュフロー表に基づき家計の数位を分析し、家計再生のプランの立案について理解する。	講義：2時間 演習：6時間

※計 21 時間（講義 11 時間、演習 10 時間）

※実施予定時刻 第 1 日目 13：20～17：10 交流会（自由参加）17：30～18：30  
 第 2 日目 9：30～18：20 テーマ別交流会（自由参加）18：40～19：40  
 第 3 日目 9：30～18：20  
 第 4 日目 9：30～13：50

<個人情報の取り扱いについて>

受講者及び申込者の皆様に関する個人情報は、研修事業関連のみの目的で使用し、その他の目的で使用することはありません。その管理については、全国社会福祉協議会「個人情報の保護に関する方針（プライバシーポリシー）」に基づき適切に行い、無断で第三者に提供することはありません。

ご不明な点等ございましたら、全国社会福祉協議会地域福祉部までご連絡ください

全国社会福祉協議会のプライバシーポリシー等は、全社協ホームページに記載しています。

<http://www.shakyo.or.jp/kojin.html>

<本件に関する連絡・お問い合わせ先>

社会福祉法人 全国社会福祉協議会 地域福祉部 （高橋、芦田、恒吉）

〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル

TEL03-3581-4655 FAX03-3581-7858 メールアドレス [z-jiritsu@shakyo.or.jp](mailto:z-jiritsu@shakyo.or.jp)

受付時間 9：30～17：30 土日祝日休業

# 修了証書

平成27年度

自立相談支援事業従事者養成研修  
【主任相談支援員養成研修】

修了番号 << 修了番号 >>

<< 氏名 >> 殿

<< 生年月日 >> 生

貴殿はこの度 厚生労働省委託の  
自立相談支援事業従事者養成研修  
主任相談支援員養成研修を受講し  
所定の課程を修了したことを証する

平成27年8月27日

社会福祉法人 全国社会福祉協議会

会長 斎藤 十郎

